目 次

巻頭グラフ

Ⅰ　開発教育指導者研修（実践編）の概要 ---------- 1

1　● 目的
1　● 内容

Ⅱ　開発教育指導者研修（実践編）第１回 ---------- 3

3　● 開催概要、第１回のねらい
3　● プログラムの内容

Ⅲ　開発教育指導者研修（実践編）第２回 ---------- 12

12　● 開催概要、第２回のねらい
12　● プログラムの内容

Ⅳ　開発教育指導者研修（実践編）第３回 ---------- 23

23　● 開催概要、第３回のねらい
23　● プログラムの内容

Ⅴ　中間会合 ---------- 32

32　● 開催概要、ねらい
32　● プログラムの内容

Ⅵ　実践報告シート ---------- 34

34　● 実践報告シート一覧
35　● 実践報告シート 33 人分

Ⅶ　開発教育指導者研修（実践編）第４回 ---------- 68

68　● 開催概要、第４回のねらい
68　● プログラムの内容

Ⅷ　開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム２０２４ ---------- 72

72　● 開催概要、ねらい
72　● プログラムの内容
75　● 実践体験ワークショップの内容
83　● 第２部つながりネットワーク会議 成果物
86　● ふりかえりシートの回答

Ⅸ　研修全体のふりかえり・評価 ---------- 88

88　● 研修への期待と満足度について
88　● 研修を受けた自分自身の意識の変化について
89　● 開発教育・国際理解教育の実践について
92　● 学習者の変化や周りへの波及効果ついて
94　● 全体を通した評価点、より良くするための提案

- MEMO -

研修の様子～第１回 開発教育指導者研修（実践編）＜6月＞

▲アイスブレーク「4 つのわたし 1 つはウソ」

▲写真マッチングクイズによる肯定的な出会い

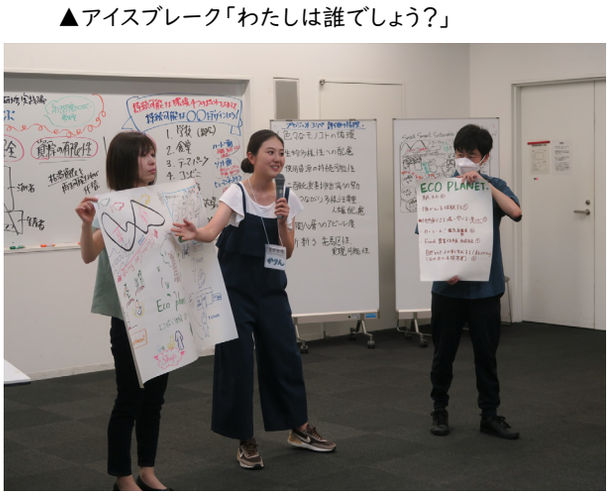
▲SDGs カードを使った SDGs の内容理解

▲ダリKの取り組みを SDGs の視点で分析

研修の様子～第２回 開発教育指導者研修（実践編）＜7月＞

▲アイスブレーク「わたしは誰でしょう？」

▲「水・木・エネルギー資源と私たち」リスト作成



▲持続可能なまちを作ろう！ デザイン・コンペ発表

▲「人権とはどんな権利か」KJ 法

研修の様子～第3回 開発教育指導者研修（実践編）＜8月＞

▲アイスブレーク「わたしを表す３つのこと」

▲個別グループによる教師海外研修報告

▲対立がどんどん激化していく場面ロールプレイ

▲プログラム発表、ファシリテーション実践

研修の様子～第4回 開発教育指導者研修（実践編）／実践報告フォーラム2024 ＜2月＞

▲第4回研修：受講者実践の共有

▲実践を通した成果・よい影響（自分／学習者／周囲）

▲実践報告フォーラム：実践報告ポスターセッション

▲実践報告フォーラム：実践体験ワークショップ

Ⅰ　開発教育指導者研修（実践編）の概要

■ 目的

本研修は、中部地域における開発教育の中核的な指導者を育成することに加え、指導者間の連携強化およびネットワーク形成を行うことを目的として、開発教育の理論や具体的な教材事例、参加型学習の理論および実践方法（ファシリテーション）等の指導法の体系的な学習をするための研修として実施する。

また、研修受講者は、学校・地域等における教育現場において自主的に開発教育を展開するほか、JICAの開発教育指導者研修（初級編）において指導を行うなど、地域の開発教育の中核的存在となることが期待される。

■ 内容

(1) 研修のねらい

4回の研修と実践報告フォーラムを通して、受講者自らが体験的に開発教育・国際理解教育の学び方を学び、この教育の目的、扱う内容、参加型手法についての理解を深め、実践者としてのスキルアップを図る。

(2) 研修日程・内容

回	日時	内容
第1回	6月17日(土) 13:00~17:00 6月18日(日) 10:00~15:00	**開発教育・国際理解教育の概論** **何を学ぶのか・何のために学ぶのか・どう学ぶのか** ・当該教育の目的・内容・方法を体験的に学ぶ。 ・社会の現状を把握し、未来へのビジョンと教育の使命を考える。
第2回	7月22日(土) 13:00~17:00 7月23日(日) 10:00~15:00	**テーマについて学ぶ・テーマのために学ぶ** **気づきを行動につなぐ“参加型”** ・人権、環境の視点から社会をふりかえり、問題の背景を探る。 ・学習者の行動変容を支える参加型と関わる力の育成について考える。
第3回	8月19日(土) 13:00~17:00 8月20日(日) 10:00~17:00	**学習者主体の場をデザインする** **参加型プログラムの作り方を学ぶ** ・気づきを行動につなぐ参加型のプログラムの作り方を学ぶ。 ・各自設定したテーマのプログラム作りを通して実践力を付ける。
9月～2月：各自、学校の授業などで実践！ 11月25日（土）、1月20日（土）13:00~17:00 実践のフォローアップ会（自由参加）、 フォーラムでのワークショップ提供チームの検討会（有志）		
第4回	2月24日(土) 10:00~18:00	**ここからはじまる持続可能な未来！** **ひろがりつながる開発教育の可能性！** ・実践の成果と課題を共有し、開発教育の可能性を確認する。 ・実践報告フォーラムの準備を行う。
実践報告フォーラム	2月25日(日) 10:00~17:30	・一般の参加者への実践内容報告、体験ワークショップの提供、教師海外研修報告、過年度受講者との交流を通して学びの好循環をつくる。

(3) **場　所**　JICA 中部 なごや地球ひろば2階セミナールーム

(4) **対　象**

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の教師、教育委員会の指導主事、地域国際化協会職員、NGO／NPO スタッフ、JICA 海外協力隊経験者などで、開発教育・国際理解教育を実践する場があり現在実践されている方

(5) **参加条件**

① 原則、全研修日程に参加可能な方

② 所属校や地域において実践を行い、実践報告シート（A4 版 1 枚）を 2 月中旬までに提出すること、実践報告フォーラムで発表すること、報告書冊子や JICA ウェブサイト等で学校名、氏名とともに公開されることに同意できる方

③ 本研修に関わる連絡・情報共有のため、E メールアドレスでの連絡が可能な方

(6) **ファシリテーター**

（特活）NIED・国際理解教育センター　代表　伊沢令子

ERIC 国際理解教育センターでの研修を経て、1998 年に名古屋で NIED・国際理解教育センターを設立。現在は、自治体、教育委員会、国際関係団体、大学・学校、NPO/NGO などの依頼により、年間 100 回以上の参加型ワークショップを実施している。当該研修は 10 年以上ファシリテーターを務めている。

◇ NPO 法人 NIED・国際理解教育センター　代表理事

◇ オルタナティブ・スクールあいち惟の森　テーマ・スキル学習コーディネーター

◇ 中京大学「国際理解教育論」、愛知学院大学「ファシリテーション」非常勤講師

(7) **受講者数**

40 名　（うち、JICA・NIED オブザーバー受講者 5 名※）

<オブザーバーを除く受講者 35 名の属性>

所属…小学校教員 21 名、中学校教員 6 名、高等学校教員 7 名、NPO 職員 1 名

地域…愛知県 22 名、岐阜県 2 名、三重県 3 名、静岡県 6 名、石川 2 名

年代…20 歳代 16 名、30 歳代 14 名、40 歳代 5 名

過年度受講経験者…7 名、教師海外研修同時受講者 10 名

※オブザーバー受講者は、実践を行わず、第4回・実践報告フォーラムには参加しない。

※受講者のうち2名が都合により途中で受講を辞退し、実践した受講者は 33 名である。

Ⅱ　開発教育指導者研修（実践編）第1回

■ 開催概要

◆ 日 時:2023 年 6 月 17 日（土）13:00～17:20、18 日（日） 10:00～15:16
◆ 場 所: JICA 中部なごや地球ひろば 2 階 セミナールームA
◆ 参加者数:
　［1 日目］受講者 37、NIED スタッフ 5 名、JICA スタッフ 4 名 合計 46 名
　［2 日目］受講者 37 名、NIED スタッフ 6 名、JICA スタッフ 1 名 合計 44 名
◆ ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第１回のねらい

① 研修の全体像と目的を確認し、参加者同士知り合い、学び合いの基盤を築く。
② 開発教育・国際理解教育の内容・方法・目的を、アクティブ・ラーニングで学ぶ。
③ 社会課題を解決しよりよい未来を実現するために必要なものと教育者にできることを考える。

■ プログラムの内容

● **セッションⅠ 「共通基盤づくり」** 6/17 13:00–15:03

1. 主催者挨拶／本研修の目的および趣旨説明／スタッフの紹介 13:00–[15]　※[ ]内は分数。以下同じ。

◇ JICA 中部 市民参加協力課 藤原課長が、開会を宣言し、主催者として研修を通じて受講者に期待することを伝えた。
◇ JICA 中部 奥田職員から会場についてアナウンスした。
◇ JICA 中部スタッフ、NIED スタッフが挨拶を行った。

2. 本研修のポイントと第Ⅰ回のねらいの確認 13:15–[07]

◇ ファシリテーターが、研修の本旨である開発教育・国際理解教育の概念、参加型での進め方、本研修の概要と第Ⅰ回のねらいについて、レジュメを基に説明した。

3. 全体アイスブレーキング 13:22–[61]

◇ 受講者同士が知り合うことを目的に、次の3つのアイスブレーキングを行った。

①4つのコーナー

・ファシリテーターが出すお題に対して、自分の回答に当てはまるコーナーに移動する。
　ⅰどこの県から来たか、ⅱ所属、ⅲ現職の職歴年数、ⅳJICA 事業への参加・活用経験

②仲間探し

・ファシリテーターが出すお題に対して、同じ答えの人を探してグループになる。
　ⅰ好きな麺類、ⅱ飼ってみたい動物、ⅲ今の気分を色で例えると

③名刺で自己紹介 ～ 開発教育のイメージ

・4つのお題で自分を紹介するキーワードを書き出す。
ⅰ自分のウリや強み、ⅱ最近の関心事やハマっていること、ⅲこの半年で１番うれしかったこと、
ⅳ開発教育と聞いてイメージすること

・書き出したことを手元に、グループで自己紹介し合う。

・グループで協力して、「ⅳ開発教育と聞いてイメージすること」からわかること・言えることを3つにまとめる。

・全体で、重複を避けて発表し共有した。

④受講者リストで傾向紹介

・NIED スタッフが、受講者名簿を参考に、研修参加者の傾向について説明した。

・60%が小学校教員、20～30歳代が多い　・例年参加が少なかった静岡からの参加者が増えた

・過年度受講者リピーターが7名

【「開発教育と聞いてイメージすること」からわかること・言えること 成果例 】

・SDGs とつながっている　・世界を知る　・生活や社会で苦しい人の立場を理解する
・海外と日本とのつながりを理解する　・日本在住で日本語を話せない人への支援　・開発途上国への支援
・相互の尊重、認め合うこと　・パッション!教育者として　・生徒の変化を生む、支える

4. 参加と対話で作る学び合いの土台 14:23–[30]

◇ ペアまたは3人のグループで、「私たちが豊かに気持ちよく学び合うために心掛けること」をブレインストーミングで書き出した。

◇ ペアで書き出したものをもとに、グループで3～5か条にまとめ半模造紙に書き出した。

◇ 模造紙を回して共有し、修正の提案がある場合はポストイットに記入して貼り付けた。

◇ 修正提案がある場合は、それを受け止め折衷案を考えて、最終化した。

◇ ファシリテーターコメント…対等な立場で関わることが参加型学習の大切なポイント。その学び合いの土台を、アイデアの発散と収束、そして民主的な話し合いのプロセス（=提案・代案を繰り返し出し合い、合意形成していく）で考えた。参加型で考えることは手間がかかるが、自分たちで考えたことは、意識しやすく行動につながりやすい。

【「私たちが豊かに気持ちよく学び合うために心掛けること」 成果例 】

・みんなちがってみんないい！　・話を最後まで聞こう　・相手の言葉を受けとめよう！　・ほめ合う
・相手の話はしっかり聴いて、リアクションする（いいね!、あいづち、アイコンタクト、あいさつ）
・お互いの意見を尊重し、認め合う　・相手から学ぶ謙虚な姿勢で！　・もっときかせて!相手に興味をもつ
・互いにここちよいバランスで話す　・安心して話せる雰囲気、反対意見も出せる環境
・異なる自分の意見も伝える　・情熱をもって関わろう　・わからないことは素直に聞こう　・オープンマインド
・雑談から自己開示!→関係性をつくる　・あいさつ あかるく いつも さきに つづける
・リラックスして自分を出そう!何でも言おう　・パワーアップ!!!早く実践したい!
・参加の程度は自由、でもせっかくだから楽しもう

- 休 憩 - 14:53–[10]

● セッション2 「開発教育は何を学ぶのか ー多様性、同一性、つながり、課題ー」 6/17 15:03–17:20

1. 国名あいうえお 15:03–[19]

◇ ジャンケンをして、グループを替え、一言自己紹介をした。

◇ 50音を頭文字とする国名をグループで協力して書き出した。

◇ 書き出した国の位置を国名入りの白地図にチェックした。

2. 世界の多様性と出会う・同一性に目を向ける 15:22–[56]

◇ 多様性、同一性、つながりについて写真教材を用いて学ぶ参加型アクティビティをダイジェストで体験した。

①マラウイ・ガーナクイズ

…生活や文化に関する写真を用いたクイズ、食材／料理の写真と解説のマッチングなど

②パラグアイの子どもが好きなモノランキング

…好きな食べ物／学校での遊びのトップ４を考える

③イメージ通り？ バングラデシュ

…ストリートチルドレンが写った写真をもとに物語をつくる

・バングラデシュの子どもたちが描いた絵とその背景をファシリテーターが説明した。

④キリバスについて教えてもらおう！

…キリバスの生活や文化、国民性などについて書かれた資料を、キリバスの子どもになりきって紹介する

・次に本来であれば、日本や自分の暮らしについて考え、まとめる作業を行うことを伝えた。

⑤エルサルバドルの光と影

…食事や街の様子の写真を見た後で、エルサルバドル人が思う自国の「誇り」と「残念」を紹介

◇ ファシリテーターコメント…どこの国にも「誇り」と「残念」がある。国際理解教育の出発点は、人や世界について肯定的に出会うこと。異文化に出会ったとき、「可哀そう」や否定から入るのではなく、「おもしろそう」「おいしそう」といった関心をもてるような肯定的な出会いをし、多角的に知ることで理解を深めることができる。

3. 多様な世界と私たちとのつながり 16:18–[33]

◇ ジャンケンをしてグループを替え、アクティビティ体験を通しての感想をお題に一言自己紹介をした。

◇ 個人で、「この１週間、自分がお世話になったもの」を書き出し、リストを作った。

◇ “自分にとってなくてはならないもの”トップ3に♡マーク、“日常にないと困るもの”に〇印、“世界と関わっているもの”に★印を付けた。

◇ ここまでの作業をしてみて気づいたこと、わかったことを2～3の文章にして書き出した。

◇ グループで、自分のリストの傾向と気づいたこと・わかったことを発表し合った。

◇ 全体で数人が、グループ共有を受けた感想を発表した。

◇ ファシリテーターが衣類・食糧・エネルギー・労働人口の日本の自給率について数字を説明し、JICAがウェブ上に公開している参加型教材を紹介した。

【 アクティビティをやってみた感想 成果例 】

・考える期間を変えると、大切なモノも変わってくるかも。 ・ふりかえってみると、必要ないものも多くあると感じた。
・自然やライフラインを書きだしたが、必要なものチェックすると、自分の価値観が見えてきた。

4. 世界が多様であることの豊かさ 16:51–[20]

◇ グループで、「もし世界が金太郎アメのようだったら？」を考え、派生的に書き出した。

◇ “これは困る”と思うものトップ3と、“結構いいかも”と思うもの１つをグループで選び、全体で共有した。

◇ ファシリテーターコメント…違いから生まれる争いを避けるためには、多様性を豊かさと捉えて、違いを受け入れ共に生きていく社会を築いていく必要がある。そのために必要な知識とスキルを育むのが開発教育・国際理解教育。

【「もし世界が金太郎アメのようだったら？困ること／良いこと」の成果例 】

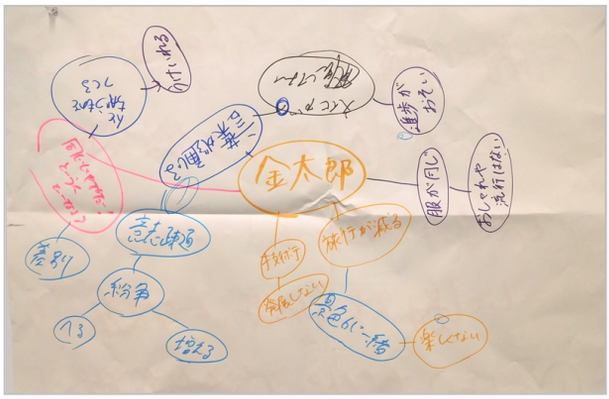
困ること

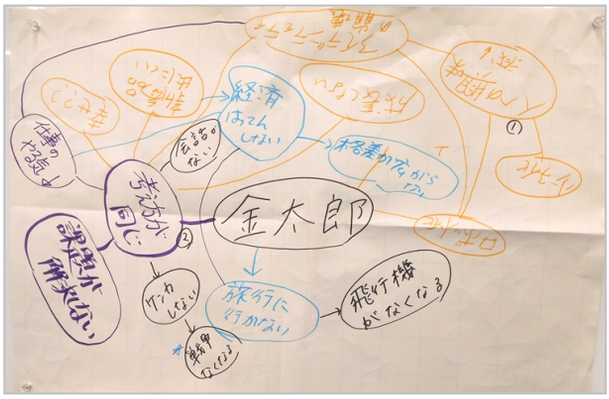
・個性がなくなる ・面白くなくなる ・つまらない ・ひきこもる ・人の良さがわからなくなる ・働く気がなくなる
・笑顔がなくなる ・人とのつながりがなくなり、恋愛がなくなる ・公教育の必要がなくなる ・文化が発展しない
・新しいアイデアが生まれない ・考え方が同じになる ・他者への興味がなくなる ・争いばかりに、、、
・ウイルスで全滅

良いこと

・誰とでも話せる、どこでも暮らせる ・語学の壁がなくなり、コミュニケーションがとりやすい
・考え方が同じ→ケンカがなくなる→戦争がなくなる ・世界平和がおとずれるかも

【「もし世界が金太郎アメのようだったら？」派生図の成果例 】





5. ふりかえり 17:11–[09]

◇ グループで、本日の感想、気づきを一言ずつ発表し、共有した。

★ 17:20 **１日目終了**

● セッション３「何のために学ぶのか –他人ごとを自分ごとに・気づきを行動に」 6/18 10:00–14:49

１. ねらいの確認 ～ アイスブレイク 10:00–[28]

◇ ファシリテーターが、第１回のねらいを説明した。

◇ 個人で A4 用紙に自分自身を紹介する4つのこと、そのうち１つはウソを書き出した。

◇ グループで自己紹介し合い、ウソを当て合った。

◇ ファシリテーターコメント…研修では自己紹介を繰り返していく。お題について考えることで、自己理解が進む。世界に関心をもつためには、まずは身近な他者、さらには自分

自身についての関心をもつことが必要。自己理解、他者理解、社会についての理解を行き来しながら学んでいくのが国際理解教育。

2. 身近なモノから自分と世界について考える　前半　10:28−[47]

◇ グループで、6つの植物の一部を写した写真から、それぞれ何の植物か考えた後、それぞれの植物について書かれた資料を読んだ。

◇ 資料4−4（カカオ豆データ）を基に2019年と2000年のカカオ豆の生産国と輸入国を国名入り白地図にチェックし、この作業を通してわかったことを、数人が全体で発表した。

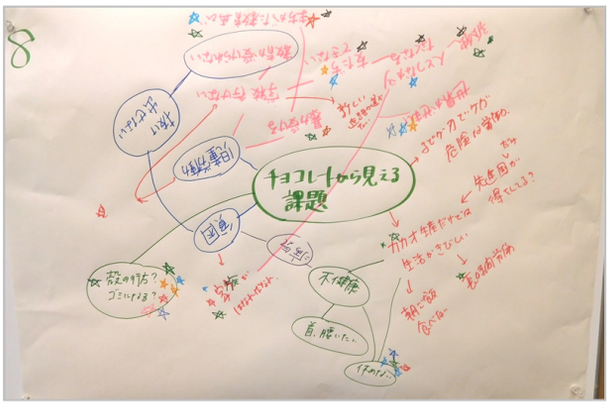
◇ 資料4−3（9歳から働き続けたゴッドフレッドくん）を代表者が読み上げた。

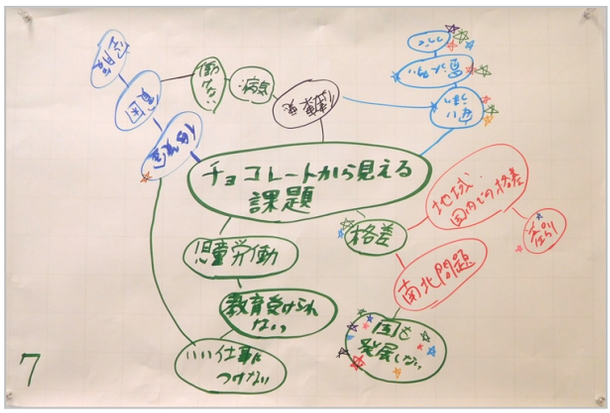
◇ グループで、これまでの資料も参考にしながら、「チョコレートから見える課題」を、それぞれを関連させながら書き出した後、全体で模造紙を回して共有し、個人で“確かに!”とおもうことがあれば★印を付けた。

◇ ファシリテーターからカカオ豆に関するデータについて情報提供した。（世界の10人に1人が児童労働を強いられ、そのうち7割がカカオ生産に従事していること　など）

◇ ファシリテーターコメント…1人では考えつかないことがグループでは考えられ、グループの数が増えればさらに考えが広がるように、他の人の頭を借りながらみんなで学んでいくというのが参加型の学び方。

【「チョコレートから見える課題」関連図　成果例】





3. 今日の世界をふりかえる　11:15−[42]

◇ ジャンケンをしてグループ替えをし、「最後の晩餐に誰と何を食べたいか」をお題に一言自己紹介をした。

◇ 「今日の世界が抱えている課題」を、世界と日本という視点で対比表にブレインストーミングで書き出した。

◇ ポップコーン方式で全体共有した。

◇ 資料5−1（世界がもし100人の村だったら2020）の黒塗りになっているデータは何の割合か考え、マッチングシートに書き出した。

◇ 個人で資料2種類を読み解き、グループで感想を共有した。

◇ ファシリテーターが、開発教育・国際理解教育の目的と育てたい3つの力をレクチャーした。

＜開発教育・国際理解教育の目的＞
人権、環境、平和など、人類共通の課題は何かを理解し、課題を解決しながら、持続可能なよりよい未来を築くために必要な知識と力を育む。

＜開発教育・国際理解教育で育てたい3つの力＞
①わたし＝自己に関わる力…自己理解、自己肯定感、自己尊重
②あなた＝他者に関わる力…他者理解、他者尊重、コミュニケーション力
③みんな＝社会に関わる力…参加協力、対立解決、合意形成、アドボカシー（社会的提言）

◇ グループで、ここまでの研修の感想を共有した。

◇ ファシリテーターコメント…今日的な課題はすべて国際理解教育のテーマになり得る。また、課題は様々あるけれど、大きく分けると人権系か環境系かに分けられる。人権教育、環境教育、平和教育が国際理解教育・開発教育の大枠となり、１つのテーマに取り組むことが他のテーマ（課題）に繋がっていく。

【「今日の世界が抱えている課題」の成果例 】

世界

・砂漠化 ・戦争 ・児童労働 ・難民 ・ストリートチルドレン ・海面上昇 ・宇宙ゴミ ・核 ・飢餓 ・人身売買
・エネルギー ・安保理が機能していない ・少年兵 ・生物の絶滅 ・熱帯雨林の減少 ・貧困 ・温暖化
・水 ・自然災害 ・人種差別 ・独裁 ・資源分配の格差 ・食糧危機 ・LGBTQ+

日本

・物価上昇 ・ 地震 ・食糧自給率が低い ・外国人労働者 ・若者の政治参加 ・ブラック労働 ・税金 ・過疎化
・ゴミ処理 ・ヤングケアラー ・フードロス ・経済格差 ・里山荒廃 ・性教育の遅れ ・賃金が低い ・核家族化
・人間関係の希薄化 ・少子高齢化 ・ひきこもり ・同性婚できない ・待機児童 ・相対的貧困 ・沖縄、基地
・自殺 ・ネットモラル ・学力低下 ・国の借金 ・出生率低下 ・ハラスメント ・エネルギー問題 ・移民の人権
・ヘイトスピーチ

－ **休 憩** － 11:57–[53]

4. SDGs を「自分ごと」に 12:50–[80]

◇ ファシリテーターが番号を振ってグループ替えをし、グループ毎に自由にお題を設定して一言自己紹介を行った。

◇ SDGsカードを使って、SDGsについての理解を深めるグループ作業を行った。

①SDGs「ゴール解説やってみた！」

・気になったカード１枚を選び、カード裏面に書かれたゴールの内容を要約してグループ内で紹介し合った。同様に、3ラウンド行った。

②SDGs の背景と現状を把握する

・資料6－1a（17の目標 SDGs 日本・世界の現状）と資料6－1b（SDGs レポート2021）を分担して読み解いた。

・担当した資料の内容と、読んでわかったこと、最も印象に残ったことをグループで紹介し合った。

③17ゴールを分類してみよう！

・17のカードを分類整理し、グループ毎にカテゴリーにタイトルをつけた。

・ギャラリー方式で、他のグループの分類の仕方を見て回った。

・ファシリテーターが、１つの分類の仕方として「5つの P」を紹介した。

④途上国と日本の優先課題トップ3?!

・途上国と日本、それぞれにとって優先して取り組むべきだと思うゴールトップ3を、グループで話し合って選んだ。

・いくつかのグループが全体で発表した。

⑤自分が気になっている社会課題と SDGs の関わり

・自分自身がいま１番気になっている課題について、その課題に関わると思うゴールを発表し合った。

◇ 資料6−3（SDGs ワークシート）を参考として配付した。

◇ ファシリテーターコメント…SDGsを自分事として理解するために、いろいろな手法を使って視点を変えながらみてみる作業を繰り返した。SDGs は最終ゴールではなく、持続可能なよりよい未来に向けた中間点であり、よりよい未来を実現するためにはこれらのクリアは不可欠。

【「17ゴールの分類」の成果例 】

【「途上国と日本の優先課題トップ3」例 】

途上国	・Goal1 貧困 ・Goal2 飢餓 ・Goal4 教育 ・Goal6 水
日本	・Goal5 ジェンダー ・Goal7 エネルギー ・Goal9 産業と技術革新 ・Goal10 不平等
	・Goal12 つくる責任つかう責任 ・Goal13 気候変動

5. 身近なモノから自分と世界について考える 後半 14:10−[40]

◇ グループ替えをし、「好きな料理」をお題に自由にお題を設定して一言自己紹介を行った。

◇ 資料7−2（インタビューカード）7 種類をグループ毎に分担し読み、ワークシートの設問に沿って話し合った。

◇ グループ毎に代表者を決め、隣のグループへ移動し、担当したインタビューカードと話し合った内容を紹介した。

◇ このアクティビティを通してわかったこと、気づいたことを話し合い、全体で1つずつ発表した。

◇ 資料7−1（貧困を作り出す構造を変えるもう一つの貿易「フェアトレード」）を参考として配付した。

● セッション4 「課題を超えビジョンへとつなぐ教育の使命」 6/18 14:50−15:16

1. 開発教育・国際理解教育とは ミニレクチャー 14:50−[12]

◇ 個人で、資料10（「国際理解教育、開発教育、SDGs」）に下線を引きながら読んだ。

◇ ファシリテーターが、開発教育・国際理解教育の背景、目的、内容について説明した。

◇ ファシリテーターコメント…現状の持続可能ではない課題のある社会から、望む持続可能なよりよい社会とのギャップを埋めていくのは、1人ひとりの行動。行動する人を育むために、「知る・考える・気づく」と「気づく・考える・行動する」を繋げていくことを提供するのが、開発教育・国際理解教育を実践するわたしたちの使命。

2. ふりかえり 15:02−[10]

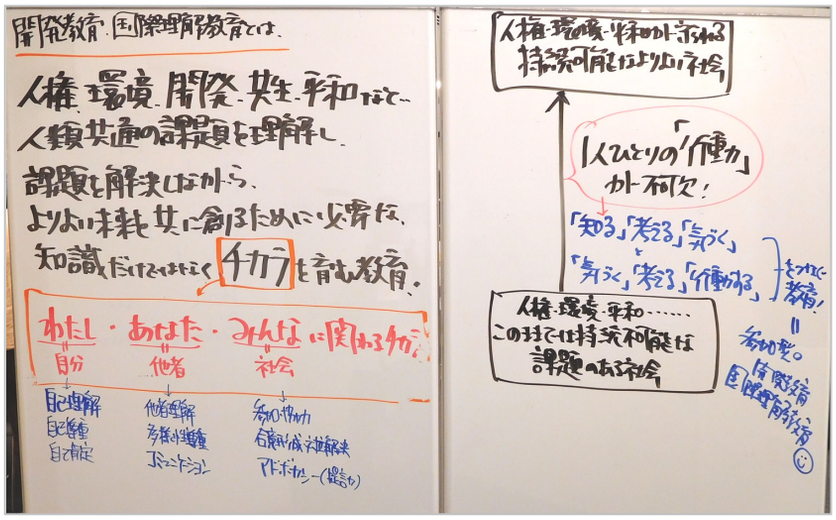
◇ 個人で2日間をふりかえり、①気づいたこと、②大切だと思ったこと、③これから実行しようと思ったことの3つをグループで紹介し合った。

◇ 数人が全体で感想を発表した。

3. 事務連絡 15:12−[04]

◇ 事務局から今後の連絡方法ついて確認し、過去の研修の報告書冊子を配付していることを伝えた。

★ 15:16 **2日目終了**



― 研修で使用した教材の出典等一覧 ―

・セッション2−1．写真教材を活用したアクティビティ…JICA 中部『教師海外研修ガイドブック』（2021）
・セッション2−1．写真教材を活用したアクティビティ…（公財）愛知県国際交流協会『わたしたちの地球と未来』キリバス教材　https://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/index.html
・セッション3−2．「この作物はどこから？」、「9歳から働き続けた、ゴッドフレッドくん」…白木朋子（ACE）『子どもたちにしあわせを運ぶチョコレート。−世界から児童労働をなくす方法』（2015）
・セッション3−2．「カカオ豆データ」…Food and Agriculture Organization of the United Nation(FAO)/FAOSTAT (2021)
・セッション3−2．「世界がもし100人の村だったら2020」、「マッチングシート」…総務省統計局『世界の総計2020』、（特活）オックスファム・ジャパン　他より NIED 作成
・セッション3−2．「世界がもし100人の村だったら2001年／2020年比較」…池田香代子著『世界がもし100人の村だったら』（2001）、総務省統計局『世界の総計2020』、（特活）オックスファム・ジャパン　他
・セッション3−2．「富の偏在化〜シャンパングラスの世界」…（特活）オックスファム・ジャパン　ウェブページ　http://oxfam.jp/news/cat/press/201799.html
・セッション3-4．「世界を変えるための17の目標 SDGs　世界・日本の現状」…認定 NPO 法人　国際協力 NGO センター（JANIC）ウェブページ　https://www.janic.org/world/about/
・セッション3-4．「The Sustainable Development Goals Report 2021」…国際連合広報センター『持続可能な開発目標（SDGs）報告2021』よりNIED作成
・セッション3-4．「SDGs ワークシート」…（特活）開発教育協会（DEAR）『SDGs ハンドブック−持続可能な開発目標を学ぶ』（2017）
・セッション3−5．「インタビューカード」「ワークシート」…（特活）開発教育協会（DEAR）『SDGs 実践教材集　身近なことから世界と私を考える授業Ⅲ』（2022）
・セッション3−5．「フェアトレードとは」…ウィキペディアよりNIED作成

私たちが豊かに気持ちよく学び合うために心掛けること

★聞き方

・話す人の方を向いて、話を最後まで聞こう
・相手の言葉、意見を受けとめよう！
・相手の話はしっかり聴いて、リアクションする what's up?
（いいね！、あいづち、アイコンタクト）

★話し方

・互いにここちよいバランスで話す
・相手の意見は受けとめつつ異なる自分の意見も伝える

★研修への参加のしかた

・参加の程度は自由、でもせっかくだから楽しもう
・情熱をもって関わろう
・オープンマインド
・自然体

★受講者同士の関わり方

・あいさつ あかるく（できれば） いつも さきに つづける
・もっときかせて！ 相手に興味をもつ
・雑談から自己開示！→関係性をつくる
・リラックスして自分を出そう！ 何でも言おう

★相互尊重、環境づくり

・お互いの意見を尊重し、認め合う
・ほめ合う
・安心して話せる雰囲気、反対意見も出せる環境
・心理的安全性（誰に対してでも安心して話せる状態）
・みんなちがってみんないい！

★学び方

・わからないことは素直に聞こう
・相手から学ぶ謙虚な姿勢で！
・パワーアップ！！！早く実践したい！

Ⅲ　開発教育指導者研修（実践編）第2回

■ 開催概要

◆ 日 時:2023 年 7 月 22 日（土）13:00~17:09、23 日（日） 10:00~15:14
◆ 場 所: JICA 中部なごや地球ひろば 2 階 セミナールームA
◆ 参加者数:
　［1 日目］受講者 33、NIED スタッフ 5 名、JICA スタッフ 3 名 合計 41 名
　［2 日目］受講者 31 名、NIED スタッフ 5 名、JICA スタッフ 2 名 合計 38 名
◆ ファシリテーター:（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第２回のねらい

① 開発教育と SDGs の中心的テーマである環境と人権について、参加型で学ぶ流れを体験する。
② よりよい社会を築くために、知るだけでなく「気づきを行動につなぐ学び」の作り方を学ぶ。
③ 「わたし・あなた・みんなに関わる力」の育成を参加型開発教育はどう支えるのかふりかえる。

■ プログラムの内容

● **セッション１ 「共通基盤づくり」** 7/22 13:00−15:03

1. 主催者挨拶／第2回のねらいの確認 13:00−[06]

◇ JICA 中部 奥田職員が、開会を宣言した。
◇ ファシリテーターが、本研修全体の流れとねらい、第2回のねらいについて、レジュメを基に説明した。

2. アイスブレーキング ①わたしは誰でしょう、②たぶんあなたはこんな人!? 13:06−[38]

◇ 次の2つのアイスブレーキングを行った。

①私は誰でしょう
・駄菓子の名前が書かれたカードを１人１枚背中に貼る。
・会場を歩いてペアを作り、自分のカードに書かれていることを知るための質問を１つ相手にする。質問は「はい」または「いいえ」で答えられるものとする。
・書かれている物が分かった人はファシリテーターに伝え、答え合せをする。

②たぶんあなたはこんな人!?
・5~6人でグループを作る。A4用紙を4つに区切り、右隣の人について次のことを想像して書く。
　ⅰ 好きな色、ⅱ 子どものころ好きだった遊び、ⅲ 青春時代に楽しんでいたこと、ⅳ 将来の野望
・１分間他己紹介をする。グループ全員が終わったら用紙を本人に渡し、「実は私はこんな人」と自己紹介をする。

【「たぶんあなたはこんな人!?」 感想 】

・人は見た目では判断できない。話してこそ分かると思った。

◇ ファシリテーターコメント…自分について誤解されたり茶化されたりする経験から、自分のことを話すのをやめていく。共感的で受容的な場であれば、自分のことを話してもいいなと思う。良い聞き手が良い話し手を育てる。人は多面的にできている。

3. 第１回ふりかえりと豊かに学び合うための約束確認 13:44–[22]

◇ 第１回研修の記録を配付。「セッション１-4. 参加と対話で作る学び合いの土台」で作成した「豊かに気持ちよく学び合うために心掛けること」を振り返り、印象に残った部分3か所に下線を引きながら個人で読み、下線を引いた部分とその理由をグループ内で伝え合った。

● セッション2 「生き物が生きる基盤である環境について学ぶ」 7/22 14:06–16:36

1. 自然からの恩恵 ―水・木・エネルギー資源と私たち／生態系サービス 14:06–[31]

1-1. 環境問題の影響を考える 14:37–[59]

◇ ファシリテーターが、開発教育・国際理解教育のテーマは大きく分けると「環境系」と「人権系」となり、本研修第２回はこの２つのテーマを扱うことを伝えた。

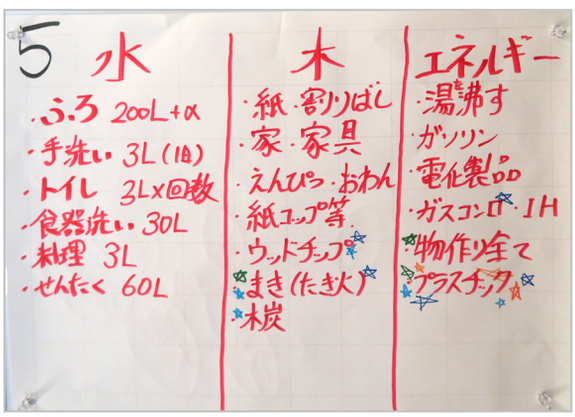
◇ 私たちは日常でエネルギーをどのように使っているか、ⅰ水、ⅱ木材、ⅲエネルギーの3つの視点から書き出した。

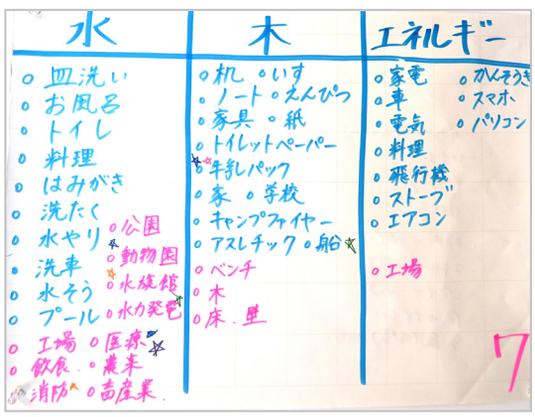
ⅰ水…個人の日常生活や家庭以外にも、社会の中でどのようなことに使われているか
ⅱ木材…木材由来のものとしてどんな商品を使っているか
ⅲエネルギー資源…どのようなエネルギー資源を、どのように使っているか

◇ 作業から分かったこと、気づいたことを話し合い、A4用紙に書き出した。

◇ 書き出したリストと気づきを隣のグループへ渡していき、全体共有した。他グループの意見のうち、印象的なものに★印をつけた。

【「水・木・エネルギー資源と私たち」リスト 成果例 】





リストアップから分かったこと

・水がいろいろなものに関わっている　・木は形を変えて生活を支えている
・エネルギーに使っているものは現代的。豊かさを求めてできたものが多い
・どれも生活に欠かせない　・家で使うものだけでなく、社会を動かすために必要なもの
・ないと困るけど、どれぐらい使っているか知らない　・有限と捉えていない。普段意識していない。
・どんどんエネルギーに依存している

1-2. 環境問題の影響を考える 14:37–[59]

◇ 私たちが自然から受けている恩恵を、ポップコーン方式にて全体で出し合った。

【 自然から受けている恩恵 】

・やすらぎ ・鉱物 ・温泉 ・太陽 ・観光資源 ・健康 ・土 ・気温 ・農業 ・漁業 ・エネルギー ・薬
・サーフィンの波 ・マイナスイオン ・酸素 ・食料 ・気持ちを伝えるための道具（贈り物の花など）

◇ 資料3（「生物多様性がもたらす自然の恵み 生態系サービス」）を読み、環境保全の重要性を確認した。

◇ ファシリテーターコメント…生態系サービスは、私たちの生活の根底にあり、根拠になっている、守っていかなければならないもの。だからこそ、COP などの世界的な会議が行われる。

2. 環境問題どんな問題?どうして問題? ～影響と原因～ 14:37–[101]

2-1. 環境問題の影響を考える 14:37–[59]

◇ ファシリテーターが番号を振り、指定の番号のテーブルに移動し、グループ替えを行った。

◇ ジャンケンをして勝った人がお題を決め、グループ内で自己紹介をした。

◇ 現代社会が抱える環境問題をポップコーン方式で出し合った。

【 現代社会が抱える環境問題 】

・砂漠化 ・温暖化 ・水面上昇 ・異常気象 ・プラスチックごみ ・森林破壊 ・海洋汚染 ・大気汚染
・土壌汚染 ・自然災害 ・オゾン層の破壊 ・水不足 ・外来種 ・絶滅危惧種 ・放射能汚染

◇ 次の8つのテーマをグループで１つ担当し、この問題の影響を派生的に考え、模造紙に書き出した。

ⅰ. 水資源問題（量的・質的）
ⅱ. ごみの多様化とごみの増加
ⅲ. 野生生物（動植物）の絶滅
ⅳ. 地球温暖化の加速
ⅴ. 食糧自給率の低さと食の海外依存
ⅵ. （熱帯林=ジャングルなど）森林伐採
ⅶ. 大気・水・土壌などの汚染

◇ 模造紙を隣のグループへ渡していき、意見を追加した。

◇ 元のグループに戻し、追加意見も含めて、自分にも影響が及ぶと思うものに名前のイニシャルを書き入れた。

◇ ファシリテーターコメント…自分とは遠いように思えるものも、よく考えてみると自分にも影響がある。それが環境問題である。

【「環境問題の影響」派生図 成果例 】

－ **休 憩** － 15:05–[11]

2-2. 環境問題の原因を考える 15:16–[26]

◇ グループから２人、それぞれ別のグループへ移動し、3つの環境テーマが集まるようグループ替えをした。

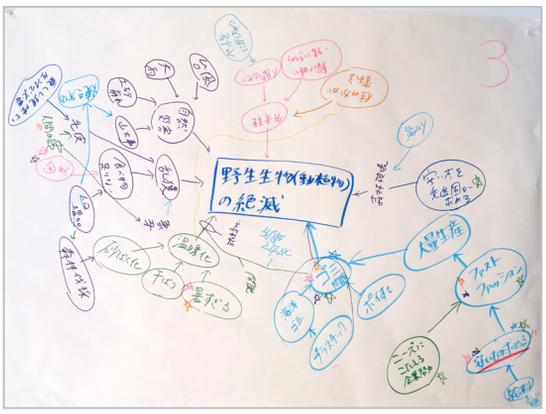
◇ 前グループで担当したテーマと自分にも影響が及ぶと思ったことをお題に自己紹介をした。

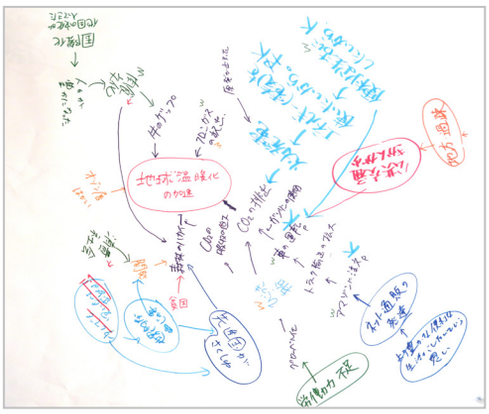
◇ グループに割り当てられた環境テーマについて、その問題が起きている原因を掘り下げ、因果関係図に書き出した。

◇ 隣のグループへ模造紙を渡していき、意見を追加した。

◇ 元のグループに戻し、自分もその原因に関わっていると思うものに名前のイニシャルを書き入れた。

【「環境問題の原因」因果関係図　成果例 】





◇ 問題を解決するためのプロセスを、板書を基にファシリテーターからレクチャーした。

<問題を解決するためのプロセス>

現状把握…今、何が起きているのか、何が問題か、現状を把握する
影響予測…問題を放置することの影響、多角的に予測し、影響と自分の関わりを見つける
原因分析…問題が起きている原因や背景を多角的に探り、自分との関わりを見つける
問題解決…原因を分析し、問題を解決するために役立つこと、必要なもの、できることを多様に考える

3. 一刻の猶予もない気候危機にフォーカス！ ～解決のための行動～ 15:42–[36]

◇ ここまでのワークで取り上げた7つのテーマのうち、「ⅳ. 地球温暖化の加速」に焦点を当て、資料4（「IPCC『1.5℃特別報告書』（2018年）の概要」）を分担して読んだ。

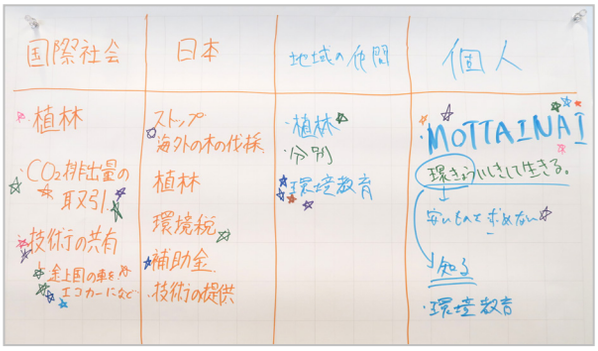
◇ ⅰ自分が読んだ資料は何について書かれていたか、ⅱ資料から分かったこと、ⅲ最も印象に残ったことの3点をグループ内で伝え合い、情報を把握した。

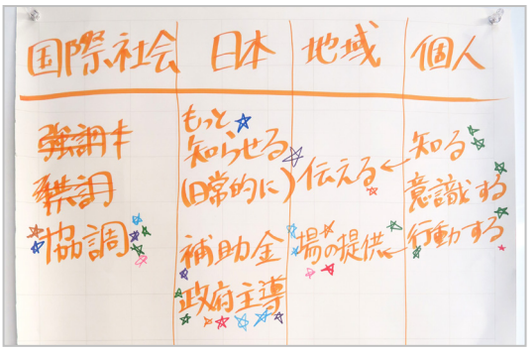
◇ 気候危機を止めるために何をすべきかを、行動主体ごと（国際社会、日本、地域・仲間、個人）にリストアップした。

◇ ギャラリー方式で、他のグループのリストを見て回り、共感した意見に★印をつけた。

◇ ファシリテーターから、行動を「短期的、中期的、長期的」に分けた計画表にし、各主体の行動を振り返るアクティビティの可能性を伝えた。

【「STOP!気候危機!! 気候危機を止めるために必要なこと」 成果例 】





国際社会

・化石燃料使用の制限、ルール化　・物を使う取り決め　・協調　・他国と協力　・教育　・技術の共有
・環境に悪影響の無い製品を作る

日本

・エコに減税→補助金　・もっと伝える　・もっと考える（工業・工場）　・教育　・研究　・企業で取り組む
・海外の木の伐採を止める　・過剰な包装を止める　・環境に悪影響の無い製品を作る

地域
・場の提供 ・節電仲間を作る ・みんなで活動する（ゴミ拾い） ・企業を支援 ・環境教育 ・植林
・カーシェアなどの促進 ・リユースの利用

個人
・知る ・意識する ・行動する→地域の場に参加する ・企業や活動を支援、参加 ・商品を選択する
・ごみの分別 ・MOTTAINAI ・環境を意識して生きる→安いものを求めない

－ **休 憩** － 16:18–[06]

4. 持続可能な環境のための4原則（循環、生物多様性、資源の有限性、低炭素） 16:24–[12]

◇ 同じグループになったことがない人を探し、グループ替えをした。

◇ 資料5（「持続可能な環境の4つのポイント」）を個人で読み、自然界の3原則+低炭素を確認した。

● セッション3 「生き物が生きる基盤である環境のために学ぶ」 7/22 16:36–17:09

1. 持続可能なまちを作ろう！ ーデザイン・コンペ企画ー 16:36–[29]

◇ グループに次の場面設定を割り振り、その場面が持続可能であるための「ハード面」「ソフト面」「人のつながり」を5分間のブレインストーミングで書き出した。

ⅰ都会の学校、ⅱ食堂、ⅲテーマパーク、ⅳコンビニ、ⅴ居酒屋、ⅵ駅と駅前広場、ⅶ田舎の学校

◇ ファシリテーターから、プロジェクトの評価の指標を説明した。

<プロジェクト・コンペ 評価の指標>

①色々なモノコトの循環
②生物多様性への配慮
③使用資源の持続可能性
④二酸化炭素排出減への努力
⑤人のつながり、多様性尊重、人権配慮
⑥無関心層へのアピール度
⑦斬新さ、先駆性、実現可能性

◇ 指標を踏まえて3分間のブレインストーミングを行い、アイデアを追加した。

◇ 書き出したアイデアを基に、模造紙にイメージを絵で描き、別の用紙にポイントを文章で書き出した。

◇ ファシリテーターコメント…絵にしてみることで、「こうなっていると持続可能に近づく」と分かる。「知り、考え、気づく」から「気づきを行動につなげる」までのプロセスを、絵を描く作業で体験するアクティビティを行った。

2. ふりかえり 17:05–[04]

◇ 1日目のプログラムを振り返り、グループ内で一言ずつ感想伝え、共有した。

★ 17:09 **1日目終了**

---

3. オープニング 10:00–[11]

◇ JICA 中部 奥田職員が、エッセイコンテストの紹介を行った。

◇ ファシリテーターが、1日目の振り返りと、2 日目の内容説明を行った。

◇ 第1回研修の記録より、「セッション1-4. 参加と対話で作る学び合いの土台-豊かに気持ちよく学び合うために心掛けること」を振り返り、自分の心掛けをグループ内で伝え合った。

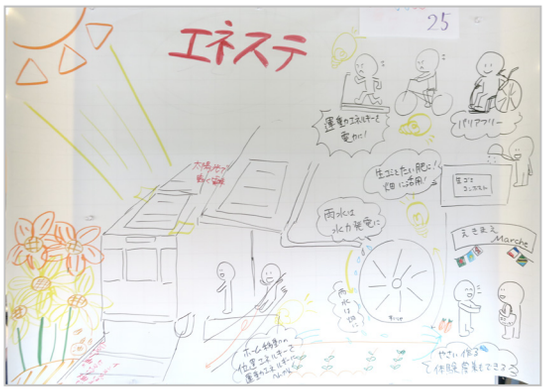
4. 持続可能なまちを作ろう！ ーデザイン・コンペ発表ー 10:11−[25]

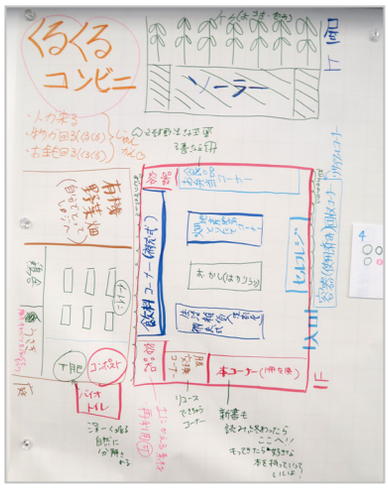
◇ １日目に描いたイメージ図について、3分間の準備の後、１分間のプレゼンテーションを行った。

◇ 評価の指標を再度確認し、多数決よりも票が分かれる「重みづけランキング方式」により投票、ランキングを行った。１人3点を持ち点とするが、3点全てを１チームに入れることはできない。１チームに2点までの投票、自分のチームに入れたい場合は１点のみとした。

◇ ファシリテーターコメント…東日本大震災からの復興において、大学と協働して同じような方法でまちづくりが行われた。評価の指標を知ることで、これから町を見る視点が変わったのではと思う。何かを作っていくとき、この指標のような視点を持って作られていくと良い。

【「持続可能なまちを作ろう！ デザイン・コンペ」 成果例 】





● セッション4 「人間らしく生きる基本である人権について学ぶ」 7/23 10:36−13:24

1. 人権＝人間の権利 では「人間」とは何か 10:36−[25]

◇ ファシリテーターが１〜8の番号を振り、指定のテーブルに移動してグループ替えを行った。

◇ 自分を紹介する3つのキーワードを各自で決め、自己紹介をした。

◇ 人権を考えるにあたり、まず人間とは何かを、アクティビティ「宇宙人がやってきた」を通して確認した。

・人間に興味を持っている宇宙人が地球に来たと想定。宇宙人に「これが人間だよ」と伝える人間の条件を書き出した。

・書き出したもののうち、すべての人間に共通する、他の生き物とは重ならない条件を選び、全体で共有した。

【「人間の条件」】

・時計を用いる ・言葉がある ・火を使う ・欲深い ・欲深いけど制限できる ・経済活動がある ・恥がある
・文明を持っている ・外見を気にする ・二足歩行 ・武器を使う ・一人一人名前がある ・服を身につけている

◇ ファシリテーターコメント…五体満足の人だけが人間か？そうではない。人から生まれた人は全員が人であり、その全ての人に保障されようとしているのが人権。

2. 人権とはどんな権利か 11:01−[47]

◇ 人権について、捉える立場を変えながら段階的に考えた。

①私にとっての人権

・「人間らしく十分に生きるために、自分にとって必要なもの」を個人で考え、付箋紙１枚につき１意見を、１人10〜15枚程度書き出した。

・カード式分類法を用いて、グループの意見を整理分類した。

②ここにいる私たちにとっての人権

・整理分類した意見を一般化し、分類名をつけ、ここにいる私たちにとって必要なものを確認した。

③ここにいない人も含めた、全ての人にとっての人権

・全ての人にとって必要なものを考え、気づいたことや足りなかったと思うことを書き足した。

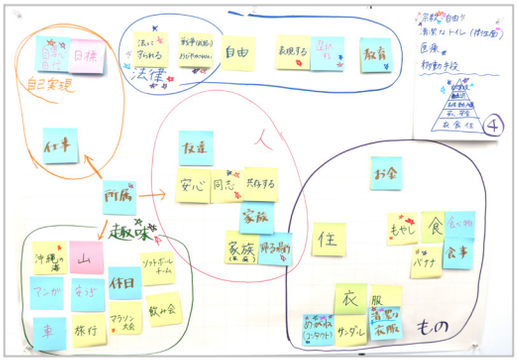
・隣のグループへ模造紙を渡していき、印象的な意見に印をつけた。

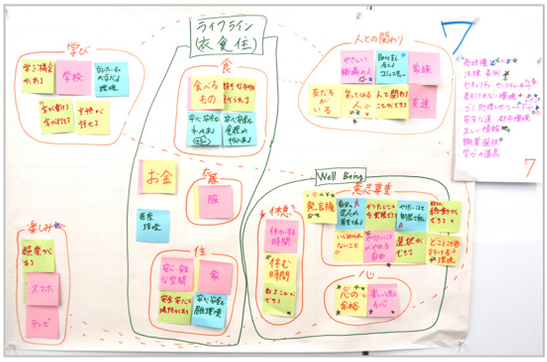
◇ ファシリテーターから、国連「世界人権宣言」も同じプロセスで作られたことを伝え、資料6（「やさしい言葉で書かれた世界人権宣言」）を個人で読み、内容を確認した。人権学習の目的の一つ「人権意識と人権を守る学力を身につけること」について伝えた

・人権意識…日常の中で具現化できる意識

・人権を守る学力…なぜ人権侵害が起きているかを知り、人権とは何かが分かり、人権が守られる社会を築く行動をすること

【「人権とはどんな権利か」 成果例 】





インフラ… ・太陽・空気 ・自然 ／ **ライフライン…** ・きれいな水 ・おいしい食事 ・安全な暮らし ／ **文明・人材…** ・言語、文化の尊重 ・平等、公平（差別×） ・教育 ・やりがい ／ **法律…** ・法に守られる・戦争（武器）に脅かされない ・表現する ・教育 ／ **社会生活、人との関り…** ・人との交流 ・認めること、認められること ・助け合えるコミュニティ ／ **Well Being…** ・休息 ・睡眠 ・発言権 ・意思尊重 ・心の余裕 ・選択ができる ・やりたいことがやれる自由 ／ **自己実現…** ・自尊心・自信 ／ **娯楽…** ・本 ・情報 ・音楽 ・笑うこと ・自分の時間がある ・移動すること ・旅行 ／ **愛…** ・愛情 ・やさしさの循環 ・自己肯定感

－ **休 憩** － 11:48–[60]

3. わたしの人権、あなたの人権、みんなの人権は守られているか 12:48–[36]

◇ ジャンケンをして勝った人と負けた人が移動し、グループ替えを行った。

◇ ジャンケンに勝って移動してきた人がお題を決め、自己紹介をした。

◇ ファシリテーターから、人権を学ぶ目的をレクチャーした。

<人権を学ぶ目的>

人権の大切さを自分事として理解し、人権を侵害された他者の気持ちに共感的になり、自分や他者の人権のために積極的な行動ができるようになること。

・人権について知る

・差別とは何かを知る→人権侵害がある社会であることを理解する

・人権尊重社会のビジョンを描く

・人権尊重スキルを身につける

・人権尊重社会実現の手立てを考え、行動する

◇ 資料7（「法務省人権啓発活動重点目標17項目の現状」）にて、日本における人権問題の現状を読み解いた。

◇ ファシリテーターから、人権問題をさらに深堀するために「世界の中で、日本の中で人権が守られていること／守られていないこと」を考えるアクティビティもできることを伝えた。

◇ ファシリテーターコメント…国連人権宣言を読んで「日本人は守られている」という意見が出た。自分が見えていないだけで、日本の中で様々な属性の人が、その属性故に不利益を受けている。人権を知識として知っていても、自分や他者の人権侵害を跳ね除ける力にはならない。人権を知らなければ、自分の権利が侵されていても、それに気づくことができない。自分事として気づき、何が大切かという行動に向かうための学びが必要。

● セッション5 「人間らしく生きる基本である人権のために学ぶ」　7/23 13:24−14:27

1. 人権が守られない、差別が続く原因を探る 13:24−[52]

1-1. 差別意識を振り返る 13:24−[35]

◇ 人権問題の背景を扱う3つのアクティビティを体験した。

①三段論法の落とし穴

・2つの属性「日本人」「性別」について、一般的にマイナスと捉えられている特徴を文章にする。

・三段論法「AはBだ、CはAだ、だからCはBだ」の「C」に自分の名前を入れ、グループで発表合う。

例：日本人は英語を話せない。〇〇さんは日本人だ。だから〇〇さんは英語を話せない。
［A］　［B］　［C］　［A］　［C］　［B］

・一般論が自分に当てはまっていたか、他の人の発表を聞いてどう思ったか、感想を話し合う。

・資料8（「人権はなぜ守られない？① 三段論法／偏見と差別の定義と人権侵害」）を読み、差別と偏見の定義を確認する。

・普段の自分の言動が三段論法に陥っていないかを振り返る。

②愛さえあれば

・資料9（「人権はなぜ守られない？② 「愛さえあれば…」立場が変わると…」）を配付。4コマ漫画の台詞を埋める言葉をグループで出し合う。

【「4コマ漫画の台詞」】

・非正規雇用の人 ・中卒の人 ・15歳年上 ・バツイチ ・子どもがいる ・家族が刑罰を受けたことがある
・〇〇の地区の人 ・Youtuber ・車椅子利用者

・他人の娘に対する「いいじゃないの、愛さえあれば」と、自分の娘に対する「どこの人？」の違いはなぜ起きるのかを考えた。

・資料9裏面「結婚紹介システム会員アンケート」の項目を見て、世の中にある差別とつながることはあるか、どのような問題が潜んでいるかを考えた。

・全体で疑問点を発表し、ファシリテーターがコメントを添えた。

【「結婚紹介システム会員アンケート」 疑問点 】

・相手の人の親が高齢だと介護のことを考えてしまう…社会の問題である介護を、女性がするとものという前提で考えてしまっているのでは

・年収や年齢、身長など、数字が判断基準になっている…年収が高ければ暴力をふるう人でも良いということ？

・ネット上で相手を探す場合、データでしか判断ができない。年収など、必要な情報ではあるのかなと思う。…人間性は知りたくないか。「人生で大切にしていること」などの項目がない。

・本人同士の結婚なのに家族構成が項目に入っているのはなぜだろう…結婚も離婚も、当人が決めるもの。

・家族構成で、両親がいることが前提になっている。どちらとも会ったことがない人や、祖父母しかいない人はどうするのか。健康状態も、病気や人に言いたくないことも書かなければいけないのかと疑問。

◇ ファシリテーターコメント…アンケートは、人間性よりも、周辺事項で判断し、優劣をつけ、当てはまらない人を排除している。優劣をつけることを許容していては、差別はなくならない。一人一人に問われている問題である。

③世間のせい？

・資料10（「人権はなぜ守られない？③　人権が守られないのは、世間のせい？［世間が悪い］／［世間って誰？］）を読んだ。

・世間とは自分のことであり、自分自身の中にある差別意識を振り返り、気づくことの大切さを確認した。

1-2. 差別が続く原因は 13:59–[17]

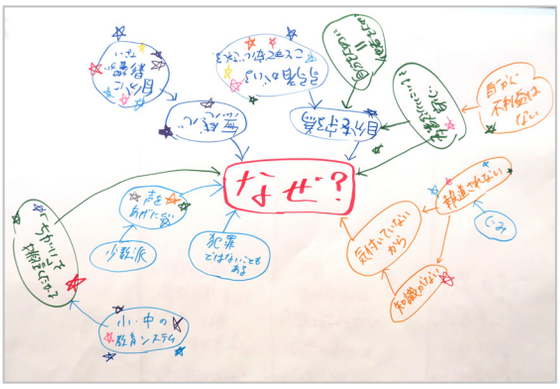
◇ 3つのアクティビティを振り返り、差別がなくならない原因として思いつくことを掘り下げて考え、因果関係図に書き出した。

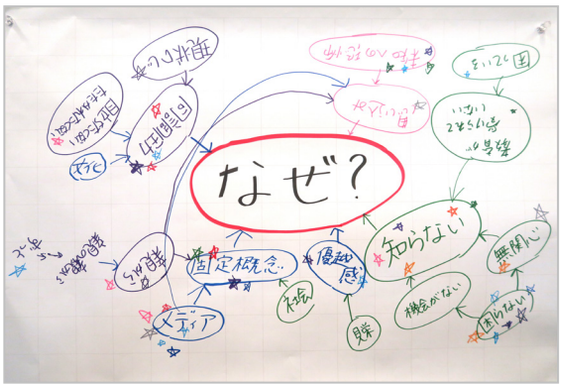
◇ ギャラリー方式で、他のグループのリストを見て回り、自分にも当てはまると思う意見に★印をつけた。

◇ どう行動することが人権尊重社会となるか、具体的に言えるよう、個人で考えた。

◇ ファシリテーターコメント…人権侵害のある社会は、社会の全体的不利益となる。事故で障害を負うなど、実は自分も差別される側になる可能性を持っている。「自分の権利は守ってね、あなたのは知らないけど」という意識では、全体の権利を守ることはできない。差別を見たら指摘すること、自分の中の差別意識を自覚することが大事。

【「差別がなくならない原因」成果例】





2. 差別しないだけでは人権侵害のある社会を変えることはできない 14:16–[11]

◇ 差別をせず、人権を守るために自分ができることを具体的に考え、肯定的な表現の5つの文章にしてA4用紙に書き出した。（〇〇しない→何があればそれをせずに済むのかを考え、「〇〇する、〇〇がある」などの肯定かつ積極的な言葉を用いた）

◇ グループ内で発表し合い、共有した。

◇ ファシリテーターコメント…人権教育は、「明るく楽しく、でも真剣に」。参加型の人権教育を広めていこう。先人達が闘ってきてくれた人権に無頓着でいると、いとも簡単に奪われていく。自分の自由は人権によって守られているという自覚が必要。今日のワークで気づいたことや印象的なものがあったら、一つでも自分の日常に持ち帰ってもらえたらと思う。

● セッション6「重大な人権侵害である貧困を解決するために知り・気づき・行動する」 7/23 14:27–15:14

1. 貧困とは 14:50–[12]

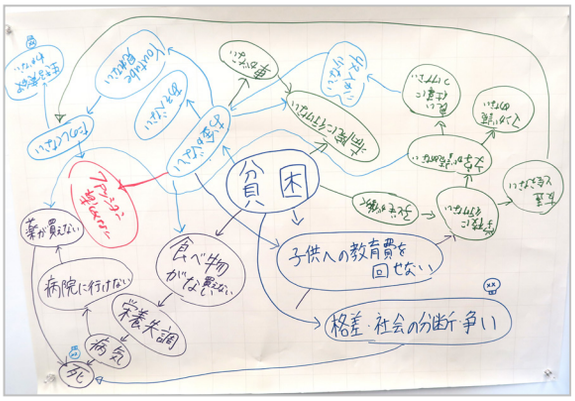
◇ ジャンケンをして勝った2人が移動し、グループ替えを行った。

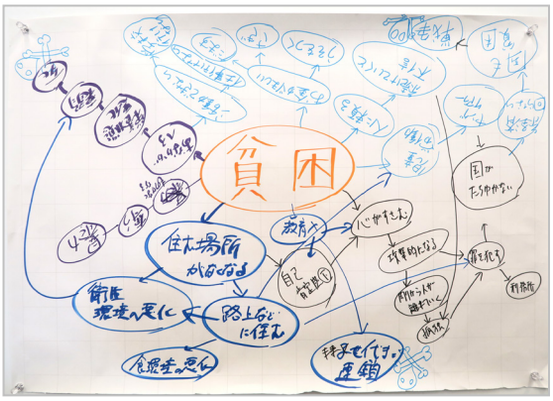
◇ 「今、10万円あったら何に使う？」をお題に、自己紹介をした。

◇ ファシリテーターが絶対的貧困の定義（１日2.15米ドル未満の生活）を伝え、お金がなくなるとどのようなことが起こるかを、派生的に意見を出し合い、模造紙に書き出した。

◇ 書き出した意見のうち、最悪の結末だと思うもの3つにドクロマークをつけ、死につながる貧困は重大な人権侵害であることを確認した。

【「お金がなくなると起こること」成果例】





最悪の結末

・死　・社会の分断　・未来の世代への連鎖　・戦争　・犯罪、犯罪者になる　・貧困が貧困を生む負のスパイラル

◇ 資料11（「貧困とは?」）を個人で読んだ。

◇ 貧困に陥ると自力では抜け出せない特徴があり、派生図の後、貧困の悪循環図にあるカードを並べ替え、その連鎖に気づくアクティビティもできることをファシリテーターから伝えた。

2. 人はなぜ貧困に陥るのか　14:50–[15]

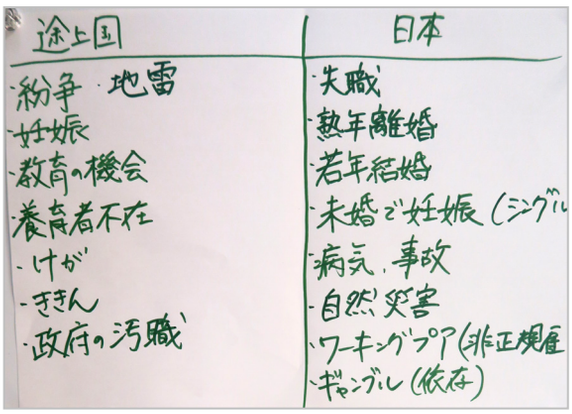
◇ 資料12（「飢餓のプロフィール」）を配付。写真の人物がどのような状況にいるかを想像し、グループで意見を出し合った。

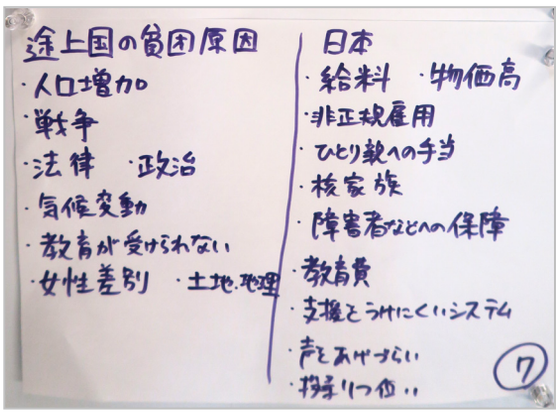
◇ 裏面の解説を読み、どのような理由で貧困状態にあるかを確認した。

◇ A4用紙に「途上国の貧困の原因／日本の貧困の原因」について意見を出し合い、対比させて書き出した。

◇ 隣のグループへ渡していき、共有した。

【「途上国の貧困の原因／日本の貧困の原因」成果例】





3. 貧困を脱するために必要なもの・役立つこと・できること　15:05–[05]

◇ 資料13（「貧困の輪」）を配付。何があれば貧困を断ち切ることができるのかをファシリテーターが問いかけた。

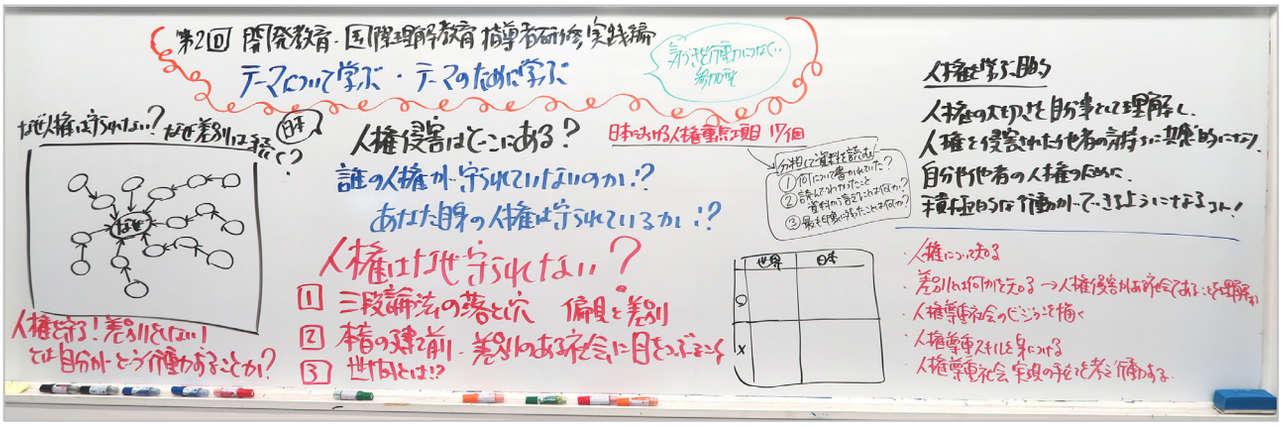
◇ 資料14（「多様な貧困解決の手立てと国際協力・開発援助」）を配付。貧困に介入する方法を確認、共有した。

◇ ファシリテーターコメント…解決方法は、募金以外にもたくさんある。募金の場合も、何のために使われているの

かまでチェックし、募金をする責任もあると気づけると良い。

4. ふりかえり 15:10−[04]

◇ グループ内で、2日間の感想を一言ずつ伝え合った。



★ 15:14 **2日目終了**

― 研修で使用した教材の出典等一覧 ―

・セッション2−1.「生物多様性がもたらす自然の恵み」…環境省パンフレット
・セッション2−3. IPCC『1.5℃特別報告書』（2018年）の概要…IPCC「1.5度特別報告書」の概要』（2018年度環境省）
・セッション2−4.「持続可能な環境の4つのポイント」…NIED作成
　生態系ピラミッド、江戸時代の消費生活…エコ・コミュニケーションセンター『FOOD』
　地球温暖化の仕組み…東京新聞
　温室効果ガスの定義と種類…朝日デジタル
　日本の部門別二酸化炭素排出量の割合、家庭からの二酸化炭素排出量…JCCCA
・セッション4−2.「やさしい言葉で書かれた世界人権宣言」…文科省
・セッション4−3.「法務省人権啓発活動重点目標17項目の現状」…法務省「人権啓発」サイト／名古屋市「平成30年度人権についての市民意識調査」
・セッション5−1①.「人権はなぜ守られない?① 三段論法／偏見と差別の定義と人権侵害」…NIED作成
・セッション5−1②.「人権はなぜ守られない?②「愛さえあれば…」立場が変わると…」…高知県教育委員会『みんなでつくる人権学習〜さいしょのタネをわたします』
・セッション5−1③.「人権はなぜ守られない?③ 人権が守られないのは、世間のせい?［世間が悪い］／［世間って誰?］」…高知県教育委員会『みんなでつくる人権学習〜さいしょのタネをわたします』
・セッション6−1.「貧困とは?」…NIED作成
　貧困の悪循環図 1…出典：ユニセフ
　貧困の悪循環図 2…出典：NPO 法人アクセス
　貧困の悪循環図 3…出典：外務省
・セッション6−2.「飢餓のプロフィール」…WORLD VISON AUSTRALIA「 PROFILES OF HUNGER 」（1995）
・セッション6−3.「貧困の輪」…（特活）開発教育協会（DEAR）『SDGs 実践教材集 身近なことから世界と私を考える授業Ⅲ』（2022）
・セッション6−3.「多様な貧困解決の手立てと国際協力・開発援助」…NIED作成

Ⅳ 開発教育指導者研修（実践編） 第3回

■ 開催概要

◆ 日 時:2023 年 8 月 19 日（土）13:00~17:08、20 日（日） 10:00~17:10
◆ 場 所: JICA 中部なごや地球ひろば 2 階 セミナールームA
◆ 参加者数:
［1 日目］受講者 37 名、NIED スタッフ 5 名、JICA スタッフ 3 名、オブザーバー1 名 合計 46 名
［2 日目］受講者 34 名、NIED スタッフ 6 名、JICA スタッフ 2 名 合計 42 名
◆ ファシリテーター:（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第３回のねらい

① 「わたし・あなた・みんなに関わる力」の育成を参加型開発教育はどう支えるのか、ふりかえる。
② 参加と対話を引き出す参加型手法とねらいを達成する流れのあるプログラムの作り方を学ぶ。
③ プログラム作りと模擬ファシリテーションを通して、参加型開発教育実践のイメージを持つ。

■ プログラムの内容

● セッション1 「ここまでのふりかえり」 8/19 13:00–13:47

1. 主催者挨拶／第3回のねらいの確認 13:00–[08]

◇ JICA 中部 奥田職員が、開会を宣言した。
◇ ファシリテーターが、本研修全体の流れとねらい、第3回のねらいについて、レジュメを基に説明した。

2. アイスブレーキング 自己紹介 13:08–[16]

◇ 「自分自身を紹介するキーワード3つ」と「この夏のわたし」を A4 用紙に書き出し、グループで自己紹介をし合った。

3. 第2回のふりかえり 13:24–[23]

◇ 個人で、印象に残ったところ3つに下線を引きながら第2回の記録を読んだ。
◇ 下線を引いたところとその理由を、グループで紹介し合った。
◇ ファシリテーターコメント…参加型学習は積み上げていく学習。自分で発見したことや体験したことなので、記録を見れば思い出すことができる。また体験したことのあるアクティビティは、提供することができる。

● セッション2 「開発教育・国際理解教育とスキル・ビルディング」 8/19 13:47–17:15

1. セルフエスティーム（SE）ーなぜ大切か・どうしたら育つのかー 13:47–[103]

1－1. SE が低いと、、、 13:47–[34]

◇ 個人で、資料7（開発教育・国際理解教育において「押さえたい3つの領域と力」）を読んだ。
◇ ファシリテーターが、「セルフエスティーム」についてミニレクチャーした。

〈セルフエスティーム（SE）の4要素〉

①わたしを好きだと思える ②わたしを大切にできる ③わたしにはわたしなりの価値があると自身がもてる
④他者のセルフエスティームも認め受け入れることができる
・4つ目の要素があるため、エゴイストやナルシストとは異なる

◇ グループで「もしも SE が低いままだったら」を考え、派生的に模造紙に書き出した。

◇ グループで話し合って、書き出されたもののうち「最悪の帰結」と思うもの2つにドクロマークを、「実際に起きていること」に★印を付けた。

◇ 成果物を回し読みで共有し、確かに!と思ったアイデアに個人で●印を付けた。

◇ 数人が全体で、この作業を通して気づいたことや感想を発表した。

【 派生図「もしもセルフエスティームが低いままだったら」の成果例 】

Ⅰ−2. SE タイムライン ～ 私たちの社会は互いの SE を育て合う社会だろうか？ 14:21−[28]

◇ 個人で、自分の人生をふりかえり、セルフエスティームの高低とその理由をタイムラインに書き出した。

◇ ジャンケンをしてグループを替え、「最近やった新しい挑戦」をお題に自己紹介をし合った。

◇ グループで、SE を育てるもの・高めるもの／阻害するもの・低めるものを考え、対比表に書き出した。

◇ 成果物を回し読みで共有し、確かに!と思ったアイデアに個人で★印を付けた。

◇ 個人で、資料3（「セルフエスティーム（Self Esteem）とは」）を読んだ。

【 対比表「SE を育てるもの・高めるもの／阻害するもの・低めるもの」の成果例 】

育てるもの・高めるもの
・家族、友達からみとめられる ・仕事がうまくいく ・成功体験 ・社会貢献 ・学ぶこと ・好きなことができる
・頼られる ・いのちを感じる ・推し活 ・ハグ ・お金（給料）がもらえる ・努力が実る ・恋 ・自由を感じるとき
・達成感を感じる ・社会的な立場 ・自分で決定する ・親からの愛 ・安心できる人と一緒にいる ・人との出会い

阻害するもの・低めるもの
・SNS（アンチコメント） ・失敗したとき ・同調圧力 ・挫折 ・味方や仲間がいない ・つながりがない
・いじめ ・認められない ・比較される ・評価される ・はしごを外される ・理不尽 ・ハードルが高すぎる

Ⅰ−3. SE を育てるスタートライン 自分を見つめる4つの窓 14:49−[24]

◇ 自分をみつめる4つの窓として、個人で以下のことを A4 用紙に書き出した。

①「わたしは・・・・・・」で始まる自分に関する文章を10個

② 今わたしの親しい10人の人

③昨年はできなかった、、、でも今はできるようになった!こと（できるだけたくさん）

④自分をほめてあげよう!（できるだけたくさん）

◇ ファシリテーターの問いかけとともに、書き出したことをふりかえった。

①属性（性別や家族構成など）が多かった？性格についてのことが多かった？プラスのこと、マイナスのことどちらが多かった？「１番自分らしい」と思うものに印を付ける。

②人間関係が自分を育てている。家族を書いた人、書かなかった人その理由は？所属、属性など多様な人が入っている？「その人の最大のピンチ！のときに駆けつけてあげたい」と思う人は何人いるか？「自分自身の最大のピンチ！のときに駆けつけてくれる」と思う人に印を付ける。

③おとなになると成長、小さな変化が見えにくくなるが、人は死ぬまで変化し続ける。

全体で数人が、発表してもいいと思えることを発表共有した。

④自分自身が自分の１番の理解者であり応援者。

全体で数人が、発表してもいいと思えることを発表共有した。

－ **休 憩** － 15:13–[10]

１–4. 自分や他者の SE を互いに育て合うために 15:23–[07]

◇ 個人で、自分や他者の SE を互いに育て合うために「わたし」ができることを、具体的に5つ書き出した。

◇ 書き出したものの中から2つを選び、グループで発表し合った。

【 「自分や他者の SE を互いに育て合うために「わたし」ができること」例 】

・趣味を楽しむ ・コミュニケーションを大切にする ・感謝する ・結果だけではなく過程を認める
・自分の理解していることを言葉にして相手に確認する ・肯定的に正直に気持ちを伝える
・コミュニティの仲間と失敗を共有し、笑い合える関係をつくる

2. コミュニケーション–定義と3要素、いろんな聞き方・伝え方– 15:30–[40]

◇ ファシリテーターが番号を振ってグループを替え、「自分を季節に例えると」をお題に一言自己紹介をした。

◇ ファシリテーターが、「コミュニケーション」についてミニレクチャーをした。

・コミュニケーションとは、情報の伝達と共有のこと

・3要素は、考える・伝える・聞く

・コミュニケーションはコミュニケーションをとることで身に付くスキル

◇ コミュニケーションスキルに関わるアクティビティをダイジェストで行った。

①いろんな聞き方

・ファシリテーターと NIED スタッフが、いろんな聞き方（無関心・否定的・上目線・乗っ取り型・傾聴）のロールプレイをモデル的に行い、その様子を観察した。

・全体で数人が、観察した感想を発表した。

②言葉の宝箱・ゴミ箱

・ファシリテーターが、アクティビティの進め方とねらいを説明した。

③わたしメッセージ

・資料5（「わたしメッセージとあなたメッセージ」）を読んだ。

・個人で、資料の練習用の場面について、あなたメッセージとわたしメッセージをそれぞれ考えた。

・グループで、考えたあなたメッセージとわたしメッセージを発表共有した。

◇ ファシリテーターコメント…よりよい関係性を築くためには、日常的に肯定的で丁寧なコミュニケーションをし合うことが大切。コミュニケーションは練習すればできるようになる、身に付くスキル。

3. 対立解決・合意形成　16:10−[65]

3−1. 対立の定義と特徴 16:10−[42]

◇ 資料4（「対立は悪くない！対立から学び対立を越えよう」）、資料6（「対立から学ぼう10の基本概念」）を基に、ファシリテーターが、対立の定義と特徴を説明した。

〈対立の定義と特徴〉

・定義：二人またはそれ以上の人々の間で起こる口論または意見の不一致のこと

・特徴：対立はどちらかが下りようとしない限り、感情を伴って激化する。対立を激化させる言動があり、対立緩和に役立つ言動がある。

◇ グループで、対立がどんどん激化していく場面を考え 1-2 分のロールプレイのシナリオを考えた。

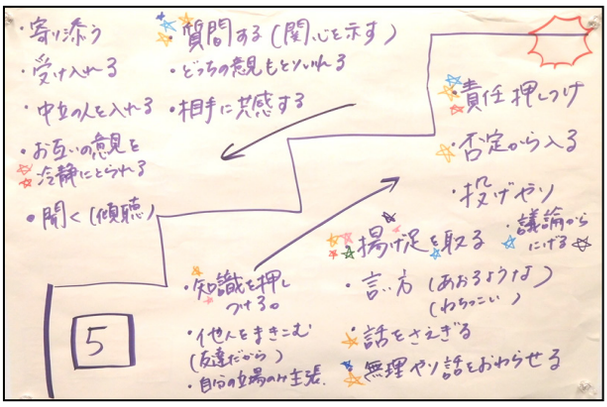
◇ いくつかのグループがロールプレイを実演した。

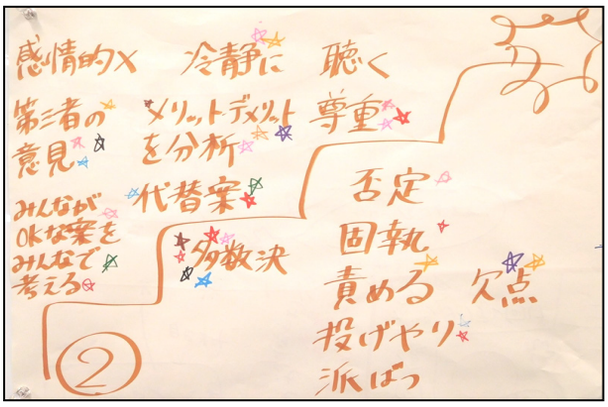
◇ 考えたり見たりしたロールプレイを基に、対立を激化させる言動・ポイントは何だったか、また、対立を緩和させる言動・ポイントは何かを話し合い、模造紙にまとめた。

◇ 成果物を回して共有した。

◇ 対立の場面にあったときの対応として覚えておこうとおもったことを3つずつ考え、グループで紹介し合った。

【「対立を激化／緩和させる言動やポイント」の成果例 】





3−2. 対立解決・合意形成 16:52−[23]

◇ グループのみんなで1週間のバカンスに行くという設定で、合意形成のプロセスをダイジェストで体験した。

①個人で、みんなで行きたいところをA4用紙に書き出した。

②右隣に座っている人の行きたいところを否定してみた。

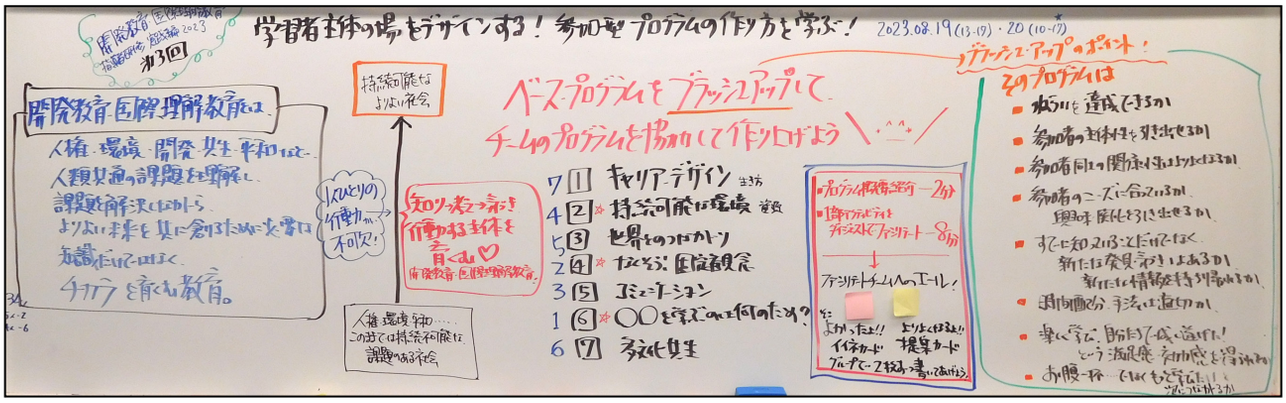
③自分が行きたいところの、行きたい理由（要望や本心）を因果関係図に書き出した。

④因果関係図を基に、本心を伝え合い、全員の本心に寄り添うことができる行き先を話し合った。

⑤行き先が決まったグループが、話し合いのプロセスを紹介した。

4. 1日目のふりかえり 17:15–[07]

◇ 本日の感想をグループ内で伝え合った。



★ 17:22 **1日目終了**

● セッション３「参加型で参加者を主人公に！ 場をアクティブに！」 8/20 10:00–12:04

1. オープニング＋ネパール教師海外研修報告 10:00–[36]

◇ 小グループに分かれ、ネパール教師海外研修に参加したメンバーからの研修報告を行った。

◇ 1 日目のふりかえりとして、資料 4 を読んだ。

◇ グループで、今日のわたしの心掛けと資料 4 を読んでの感想を共有した。

2. 参加型手法習熟

–アクティビティとは何か／参加型手法の目的と種類– 10:36–[38]

◇ ファシリテーターが、ガイドブック「ESDはじめの一歩」、資料 8（「参加型手法の解説～12 のものの見方・考え方～」）を基にファシリテーターの役割と参加型手法についてミニレクチャーした。

〈参加型手法を使う理由〉

・より多様な視点からクリエイティブに話し合うことが可能になる。
・多様な視点や考え方がある人どうしが、共通の枠組みで話し合うことができる。
・1つのテーマについてある枠組みに当てはめて分析することで、発見者同士共通理解を得られる。
・話し合いの内容が可視化され、共有しやすくなる。
・個人が考え、さらにグループで共に考えたプロセスが視覚的に残り、参加の満足感や達成感を得られる。
→“参加者が主人公になる”ということも、参加型手法を使うポイントである。

◇ グループで、資料 4 の「12 の参加型手法」について、これまでの研修で体験した手法にチェックをした。

◇ ガイドブックに掲載された13の参加型手法を分担し、その手法について、①どんな手法か、②どうやって使うか、③どんなお題で使うかをそれぞれ発表して共有した。

◇ ファシリテーターコメント…「聞いたことは忘れる、見たことは覚えている、体験したことは分かるし伝えられる」という言葉がある。さらに、学んだことを言語化し、他者に伝えることで学びの定着度は高くなる。

3. プログラムを作る5ステップの実践（個人作業） 11:14−[50]

◇ プログラムの作り方5ステップに沿って、個人でプログラム作りステップ4までを行った。

1）ステップ0： テーマを決める

2）ステップ1： テーマを理解する

・参加型手法「ブレインストーミング」を用いて、テーマからイメージすること、テーマに含まれること、テーマから広がることを書き出した。

3）ステップ2： 自分の「ねがい」を見極める

・参加型手法「対比表」を用いて、参加者に「知ってほしいこと・気づいてほしいこと／考えてほしいこと・どうなってほしいのか（行動）」を書き出した。

4）ステップ3： 「ねらい」を定める

・これから作るプログラムの目標、プログラムを通して参加者に提供したいことを明確にし、文章化した。

（例1）①＿＿＿＿＿について知り、＿＿＿＿＿に気づく。

②＿＿＿＿＿＿について考え、大切なことは何か共に確認する。

（例2）①まちの課題を出し合い、問題の原因を探る。

②望む町の姿を共有し、実現のための手立てを考える。

5）ステップ4： ストーリーラインを作る

・ステップ2で作った対比表に書き出されたものに、参加者の意識の流れに沿う（考えやすい）ように、順番に番号を振った。

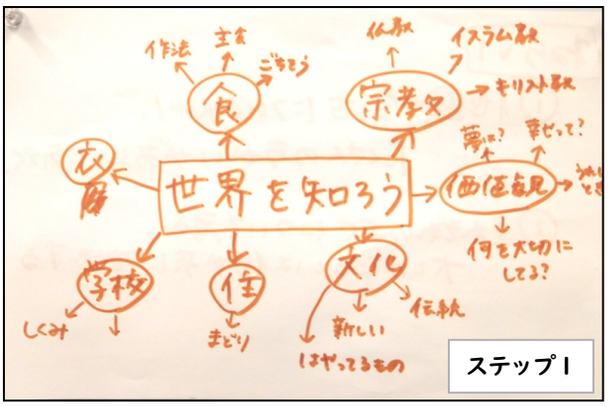
・資料12（参加型プログラムの作り方5ステップ）の「4行詩」の例を参考にしながら、番号に従い、プログラムのねらい達成に向けた、起承転結（1文ずつ）のストーリーを作った。

6）ステップ5： 起承転結（4行詩）にアクティビティを当てはめる

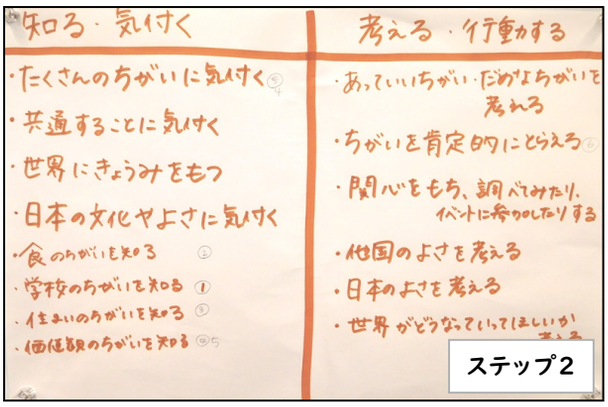
・ステップ４で考えたストーリーライン1文に1つずつ、アクティビティを当てはめて、プログラムを考える。

◇ グループで、午前中の感想を伝え合った。

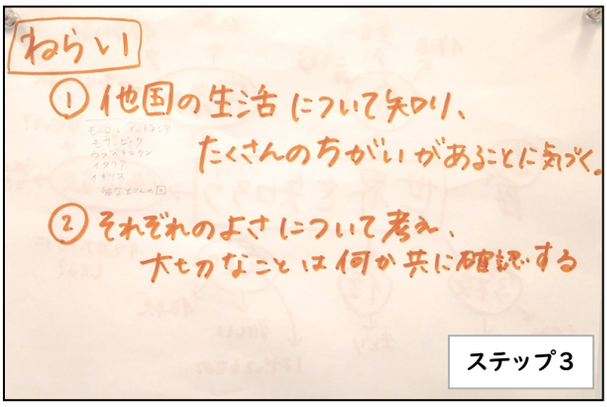
【「参加型プログラム作り5ステップ」の成果例 】



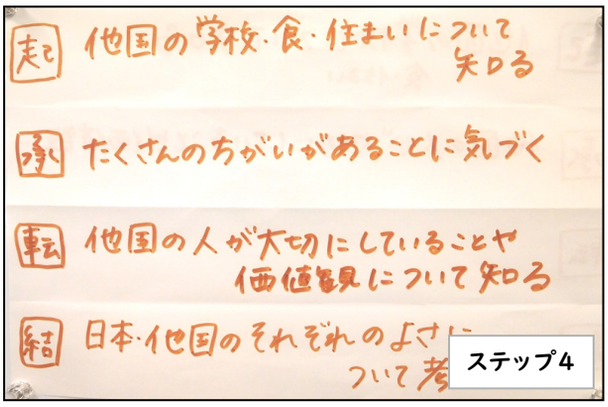
ステップ１



ステップ２



ステップ３



ステップ４

- **休 憩** - 12: 04–[61]

● セッション4 「チームで作る参加型プログラム！&模擬ファシリテーション」 13:05–16:32

1. グループで代表プログラムをブラッシュアップ 13:05–[95]

◇ 多様なメンバーが集まるように自由に動いてグループを替えた。グループ毎に自由にお題を決めて自己紹介した。

◇ グループで、自作プログラムをそれぞれプレゼンした後、グループで協力してブラッシュアップするプログラムを選んだ。

◇ グループで協力して、選んだ1つのプログラムをブラッシュアップして模造紙に書き出した。

【 プログラムのねらいと展開 】

1. ○○は必要？

ねらい	・生活に必要不可欠ではない音楽をなぜ学ぶのかを考える ・必要不可欠でないと思っていることを立ち止まって考えたり見直したりするきかっけとする、意識をもつ	展開	1）教科について考える 2）どうして音楽は大事ではないのか？ 3）音楽がないとどうなるかを考える 4）他教科や必要不可欠でないと思っているものについて、立ち止まって考え、見直す

2. なくそう！思い込み!!

ねらい	・身近な固定観念に気づき疑問をもつことができる。	展開	1）野球部といえば？ 2）ボウズである理由は？ 3）どうして固定概念はなくならないのか？ 4）なくそう！思いこみ！

3. YOU→I アップデート

ねらい	・攻撃的ではない伝え方があることを知る ・相手も自分も大切にできる伝え方ができる	展開	1）こんな伝え方、どう？ 2）「YOU メッセージ」？「Iメッセージ」？ 3）「Iメッセージ」で伝えてみよう！ 4）相手も自分も大切にできるコミュニケーションはどのようなものか考えてみよう

4. 守ろう！環境！豊かな生活！

ねらい	・環境を無視し開発を続けると自分たちに被害が返ってくることに気づく ・人々が豊かに暮らし、かつ持続可能な開発をすることについてイメージをもつ	展開	1）自分がお世話になっているものは？ 2）環境を無視して資源を使い続けるとどうなる？ 3）公害のリアルを知る 4）どうしたら持続可能な開発ができるか考えよう！

5. 私たちと世界

ねらい	・私たちの生活と世界のつながりに気づく ・世界とのつながりのよさについて考える	展開	1）一週間、自分がお世話になった物は？ 2）その中で世界とつながっている物は？ 3）もしも世界とのつながりがなくなったら？ 4）世界とのつながりのよさについて考える

6. 世界を知って！共に生きよう！

ねらい	・他国の生活について知り、たくさんのちがいがあることに気づく ・それぞれの国の良さについて考え、共に生きようと考える	展開	1）他国の学校、衣食住、価値観について知る 2）たくさんのちがいがあり、それぞれに良さがあることに気づく 3）多様な人たちが共に気持ちよく過ごせる〇〇をデザインする 4）多様な人と共に生きるために自分ができることを考える

7. わたしにもできる！世界貢献のキャリアプラン

ねらい	・世界の現状に肯定的に出会い、世界の課題をジブンゴトとしてとらえる大切さに気づく ・自分の人生設計の中で人のためにできることを考え、行動する勇気を共有する	展開	1）世界の現状を知り、課題を共有する 2）課題解決のために、私たちにできることを考える 3）世界平和に向けた自分のキャリアプランを立てる 4）一歩踏み出す勇気を共有し、世界平和に向けた行動する力を身につける

－ **休 憩** － 14:40–[10]

2. 10分プレゼン～よかったところ／よりよくするための提案の確認 14:50–[102]

◇ グループごとに、プログラム概要を発表し、一部を実際にデモンストレーションした。

◇ グループごとの発表を受けて、よかったところとよりよくするための提案をグループで書き出した。

◇ ほかのグループから受け取った、よかったところと提案を確認した。

〈参加型プログラムの評価の指標〉

・ねらいを達成できるか　・参加者の主体性を引き出せるか
・参加者同士の関係性はよりよくなるか　・参加者のニーズに合っているか。興味関心を引き出せるか
・時間配分、手法は適切か　・おなか一杯、、、でももっと学びたいと次につながるか
・すでに知っていることだけではなく新たな発見気づきはあるか。新たな情報を持ち帰れるか
・楽しく学び、自分たちで成し遂げた！という満足感、効力感を得られるか

● セッション5 「実践報告フォーラムに向けた確認・準備」 16:32–17:10

1. 第4回+フォーラムまでのスケジュールとフォーラムの概要の説明 16:32–[13]

◇ 事務局から、この先の研修と実践報告フォーラムの内容と、その準備について資料を基に説明した。

2. フォーラムで提供する体験プログラムの選定と有志チームの結成 16:45–[15]

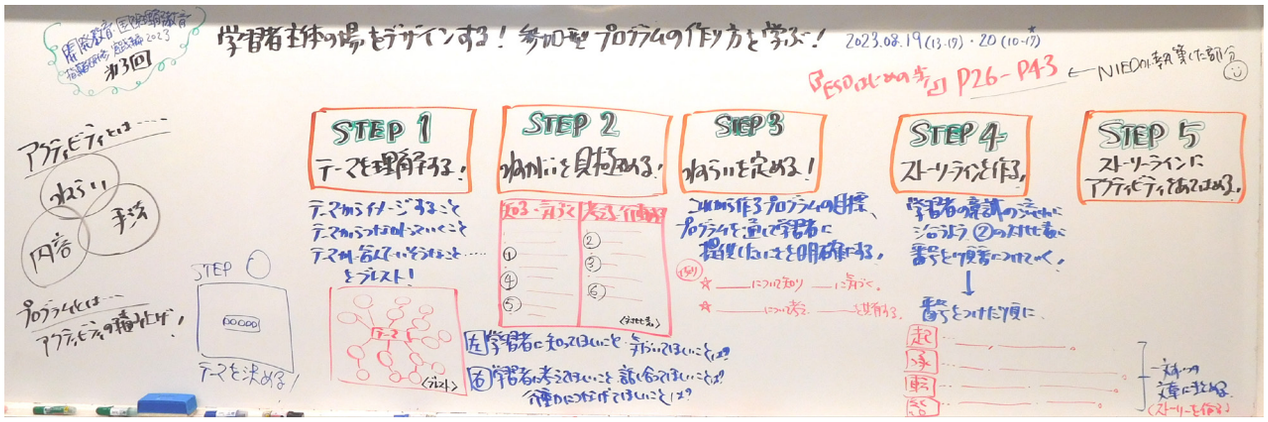
◇ グループごとに作成したプログラムのうち、フォーラムで提供するといいと思うプログラムに投票した。

◇ 選出されたプログラムをフォーラムで提供する有志を募った。

3. 第3回ふりかえり 17:00–[10]

◇ 2日間をふりかえり、①気づいたこと、②大切だとおもったこと、③これから実践しようとおもったことをグループで紹介し合った。

◇ JICA 奥田職員が実践に向けたエールを送り、閉会した。



★ 17:10 **2日目終了**

― 研修で使用した教材の出典等一覧 ―

・セッション2-1.「押さえたい3つの領域と力」…JICA 中部『教室から地球へ 開発教育・国際理解教育虎の巻』（2006）

・セッション2-1.「セルフエスティームとは」…スーザン・ファウンテン著、ERIC 国際理解教育センター編訳『一緒に学ぼう-Learning Together-』（1994）/ エザベス・キャリ スター、ノエル・デイヴィス、バーバラ・ポープ共著、ERIC 国際理解教育センター編訳『わたし、あなた、そしてみんな-人間形成のためのグループ活動ハンドブック-』（1994）、近藤卓著『子どもの自尊感情をどう育てるか』（2013）

・セッション2-3.「対立から学ぼう 10の基本概念」…ERIC 国際理解教育センター『対立は悪くない～学校・地域の問題解決に活かす～』（2000）

・セッション3-2.「参加型学習・研修のファシリテートのポイントと手法」…名古屋市『環境学習実践者向け ESD ガイドブック「ESD はじめの一歩」』（2015）※NIED・国際理解教育センター伊沢令子執筆箇所

V 中間会合

■ 開催概要

◆ 日 時:第 1 回 2023 年 11 月 25 日 (土)／第 2 回 2024 年 1 月 20 日 (土)
実践体験ワークショップ検討会 13:00～17:00、実践フォローアップ 16:30～17:00

◆ 場 所:JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA

◆ 参加者数:実践体験ワークショップ検討会
［第 1 回］受講者 18 名、JICA 2 名、NIED 4 名 合計 24 名
［第 2 回］受講者 20 名、JICA 1 名、NIED 3 名 合計 24 名
実践フォローアップ
［第 1 回］受講者 1 名、JICA 2 名、NIED 4 名 合計 7 名
［第 2 回］受講者 1 名、JICA 1 名、NIED 3 名 合計 5 名

◆ ファシリテーター:（特活）NIED・国際理解教育センター伊沢令子

■ ねらい

① 実践報告フォーラム 2024 における受講者有志による実践体験ワークショップの実施が円滑に進むようプログラム作成支援、当日の準備支援を行う。
② 受講者の各現場での実践状況を共有し、助言する。

■ プログラムの内容

● 第1回 実践体験ワークショップ検討会

◇「第3回研修から今日までの間の面白い出来事」をお題に、自己紹介アイスブレーキングを行った。

◇ 板書を基に、プログラムの作り方、プログラム再構築の指標、中間会合のスケジュール、ワークショップの対象者について、ファシリテーターが説明したり、再確認したりした。

◇ 第 3 回研修で作成したプログラムを確認し、それに対する他グループからの提案を参考にしながら、実践報告フォーラムの実践体験ワークショップで提供するプログラムを各グループで検討し、模造紙に書き出し、全体で発表した。

◇ 他のグループメンバーと NIED スタッフが、実践体験ワークショップで提供するプログラム案に対して、良いと思うところ、より良くするための提案を付せん紙に書き出した。

◇ より良くするための提案を受けて、各グループにおいて時間まで、再度プログラムを見直した。

● 第1回実践フォローアップ

◇ 個人の実践について、フォローアップを希望する受講者に対して、NIED スタッフが個別に相談を行った。

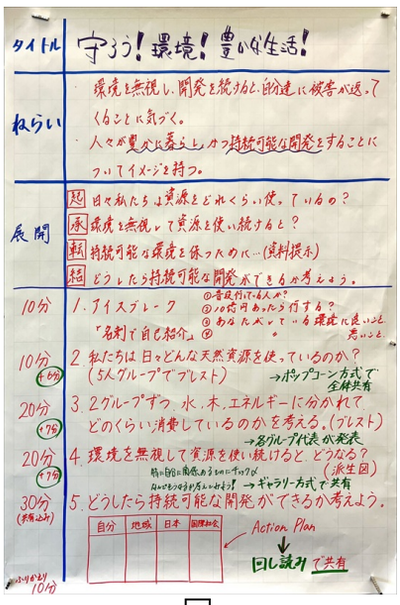
● 第2回実践体験ワークショップ検討会

◇ アイスブレークとして、以下のことを自分たちのグループメンバーと共有した。

① 今年の漢字1文字と理由　② 私の実践…こんな実践したよ

◇ 第1回中間会合で作ったプログラムを、チーム内で共有したうえで、ファシリテーターのアドバイスを受けながら、さらに、ブラッシュアップを行った。

◇ 最終プログラム、使用する教材、備品を記したシート（下図参照）を 2 月上旬までに提出する旨、確認し終了した。



■ 実践報告フォーラム 2024 実践体験ワークショップ プログラム【A2会場：定員30人】

テーマ	多文化共生	メンバー	いっしー、もすけ、オギ、沖さん、Sue、モカ、りょう
タイトル	我々は地球人		
ねらい	だれもが心地よく過ごせる社会をつくっていくためにどうすればよいか考える。（多様性受容力）		
対 象	フォーラム参加者 30人	所要時間	120分間
展開（四行詩）	起 ネパールの写真を見て、異文化と関わることの楽しさに気付く。 承 ネパールと日本の違いについて知る。 転 あってもよい違い、あってはいけない違いを考える。 結 だれもが心地よく生きられる社会に必要なものは何か考える。		
教材	教材1	写真（アイスブレイク）	
	教材2	エピソード	
	教材3	カード	
	教材4	いわた市データ	
	教材5		
WS 備品	模造紙	全形　0 枚　半形　18枚	
	付せん紙	6セット	マジック　6　セット
	A3用紙		A4用紙　30人分

時間	プログラムの流れ（手法、問いかけ言葉を含む）	準備物／担当（当日含む）
15 分	① アイスブレイク → ネパールに興味をもたせると同時に、場を和ませる ◆ 4つのコーナー、フォトランゲージ	・ネパールの写真(食べ物、街並みなど)
20 分	② ネパールについて知ろう！ → 日本とネパールを比べ、違うところに目を向けさせる ◆ エピソード（分担読み）	・エピソード 12 種類
20 分	③ あってもよい違い、だめな違いは？ → ②で出た違いや事前に用意したカードを分類させる ◆ 対比表、カードの並び替え、ワールドカフェ方式	・模造紙半形(グループ数分) ・マジック ・カード
5分	<トイレ休憩>	
30 分	④ なぜ外国人を受容できないのだろう？ → 磐田市の調査結果（日本人→外国人、外国人→日本人の親しみやすさ）を示し、外国人から日本人へ片思いである原因を考えさせる ◆ 因果関係図	・磐田市の調査結果 ・模造紙半形(グループ数分) ・マジック
25 分	⑤ 誰もが心地よく生きられる社会に必要なことは？ → 日本人と外国人が両想いになるために必要なことを考えさせる → 自分には何ができるか考えさせる ◆ ブレスト、ギャラリー方式、行動宣言（3個）	・模造紙半形(グループ数分) ・マジック ・A4用紙(参加者数分)
5分	⑥ ふり返り → ⑤の行動宣言とともに、本プログラムを体験した感想を伝え合う	

Ⅵ　実践報告シート

■ 実践報告シート一覧

No.	名前	対　象	時間数	テーマ	タイトル
01	都築はるか	小学校1年生（27名）	12	国際理解 共生 コミュニケーション	せかいと ともだちと じぶん
02	森谷朋香　K	小学校1年生（27名）	6	多様性	みんな なかよし だいさくせん！！
03	石川敬祐　K	小学校2年生（22 名）	9	セルフエスティーム ・人権・共生	なったらいいな！自分もみんなもハッピーなせかい
04	酒井陽香	小学校2年生（26名）	3	文化理解	はじめまして世界！～日本の国からこんにちは～
05	村田知美	小学校2年生（30名）	6	多様性	いろんなみんなが いっしょにいるには
06	西平祐紀	小学校3年生（65名）	15	共生	知ってみよう！世界のこと
07	植木ゆうな	小学校4年生（24 名）	24	SDGs、環境、共生	10 歳のわたしたちとSDGs
08	西村学　K	小学校4年生（25名）	2	多文化共生	ベジタリアンにとって日本はどんな国かな？
09	大島俊介　K	小学校4年生（30名）	13	多文化共生	NAPAL×JAPAN 多文化共生の街づくりへの第一歩
10	倉世古稔允	小学校4年生（58名）	9	異文化理解、 国際理解	異文化って何？異文化を知ろう！
11	渡邊可奈	小学校4年生（61名）	13	コミュニケーション	知ってほしいなわたしのこと！もっと知りたい仲間のこと！
12	道野大和	小学校4年生（69 名）	30	環境、共生、貧困	私たちのくらし ～カメルーンとの交流を通して～
13	宇野瑠璃子	小学校5年生（103名）	16	国際理解、 共生、SDGs	開こう 日本から世界への扉
14	鈴木友紀　K	小学校5年生（109 名）	5	文化理解、環境、 多文化共生	みんなが暮らしやすいIzumi Town をALT に提案しよう
15	川瀬達也	小学校5年生（124名）	5	環境	一人一人が創る未来
16	花木里帆	小学校5年生（31名）	5	SDGs、国際理解、 多文化共生	SDGs テーマ発表
17	國安里架子	小学校6年生（136 名）	9	環境	地球にやさしい！オリジナルカレーコンテスト
18	荻光平　K	小学校6年生（33名）	4	多文化共生	我々は地球人
19	竹内綾音　K	小学校6年生（30名）	7	貧困、国際理解	世界の貧困を僕らが救う！ ―フェアトレードで自分にできること―
20	勝又基之	中学校1 年生（288 名）	11	SDGs	SDGsについて知ろう！伝えよう！
21	坂口ひとみ	中学校1年生（131名）	11	多様性、共生	住みやすい町づくり～理想の町を考えよう～
22	太田梨理香	中学校1年生（6 名）	1	人権、民族衣装、 多文化共生	民族衣装から考える多文化共生
23	河村知里　K	中学校1年生（200名）、 中学2年生（200名）、教員40名	9	共生、外国人労働者、 食料自給率	We're the World.
24	渡邉亮祐　K	中学校2年生（240 名）	5	人権、異文化理解	虹色（私＋あなた＋世界）＝？
25	栗原果凛	中学校2年生（27 名）	2	平和	HEIWA な世界をつくるために
26	福内大策	中学校3年生(283 名）	4	SDGs×キャリア ⇒ 平和	わたしにもできる！ 世界貢献キャリアプラン
27	水野純次	高校1年生（33 名）	1	SDGs、国際理解	知ろうよ！ベトナム
28	栗原　遥	高校1年生（40 名）	2	共生、 コミュニケーション	世界の現状やSDGsについてより知ってより考えよう
29	石井亜矢子	高校2年生（14 名）	7	国際理解、環境	世界を知る、日常を変える
30	小澤祐太	高校3年生（60名）	1	環境、SDGs	橘高校100 周年に向けてできること
31	亀山広実	高校3年生（40名）	2	貧困	途上国の貧困、どうして起こる？
32	沖祐美帆　K	高校3年生（29 名）	6	貧困、格差、 環境、平和、共生	高校生 国際協力 アイデアコンテスト
33	山本実穂	教員（10 名）	5	異文化理解、 多文化共生	世界につながる教室へ～先生だからできること～

凡例：「K」…教師海外研修（ネパール）受講者

テーマ ： 国際理解　共生　コミュニケーション

せかいと　ともだちと　じぶん

01

所 属	愛知県名古屋立植田東小学校	**実践者**	**都築　はるか**
対 象	小学校１年生（27 名）	**実践日**	2023 年 11 月
実践教科	学級活動　道徳　音楽	**時間数**	12 時間
ねらい	・ 世界の文化や人々の多様さに気付き、進んで他国の文化に触れ、人々に関わっていきたいという思いをもつ。 ・ 友達との関わり方や、自分の在り方を考え、より心地良く過ごせる方法を見つける。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**「世界の文化や人々のことを少しでも知って、視野を広げよう！」** ①国名あいうえお　②世界の子どもクイズ	**※太字は絵本** ・世界地図
2	音楽「日のまる」 ①歌唱練習　②「日のまる」を聞いてどんな景色を思い浮かべるか絵に描く	
3	音楽「日のまる」のリズムでオリジナルの国旗の歌クイズをつくる。 ①班で1つの国の国旗の歌をつくる　②国旗の歌クイズをする	・国旗あわせカードゲーム（ダイソー）
4	なりきり自己紹介【フォトランゲージ】 自分の国と同じ・ちがう【対比表】 ①4 カ国の子どもが載っている写真についてなりきり自己紹介 ②裏に載っている本当の自己紹介を見る ③班に分かれて、その写真の子どもと自分たちとの相違点を書き出す。	・meiji　世界の国旗クイズ **・学校に行けないはたらく子どもたち**
5	旅の絵本でクイズ　世界の文化や人々の単元の振り返り **「友達との関わり方や　自分の在り方について　考えよう！」**	**・わたしのスカート（ラオス）** **・PEOPLE**
6	学校って必要？　学校がもし　なかったら【派生図】	**・世界とであう絵本**
7	4つのまど ①わたしはで始まる文　②今わたしが親しい人　③去年はできなかったけど今ならできること　④自分だけが知っている自分の努力	**・旅の絵本** **・世界がもし 100 人の村だったら**
8	言葉のゴミ箱　宝箱【ブレーンストーミング】 ①ピンクの付箋に宝箱、青い付箋にゴミ箱の言葉を書く　②班で仕分ける ③ギャラリー方式で模造紙を見る	**・世界のあいさつ**
9	自分の短所をリフレーミング	・リフレーミングお助けカード
10	あなたメッセージ　わたしメッセージ【ロールプレイ】 ①会話の例を見てきづいたことを話し合う　②ペアでロールプレイをする	**・ええところ** **・ひっくりかえる**
11	みんなでバカンス ①自分がどこに行きたいかを決める　②班で2週間バカンスに行く場所を決める　③自分がなぜ行きたいのか因果関係図を作る　④班で再度決める ⑤教師からの要望と本心の解説	
12	これからについて考えよう ①今までの学習で心に残った授業、難しかった授業を選ぶ。　②振り返り	

成 果	児童が、「この国に行ってみたい」「〇〇では、□□を食べるんだよね！」などと学習後に話していて、世界の文化や他国の人々に関心をもっている様子が多く見られた。また、「わたしメッセージ」や「言葉の宝箱」「リフレーミング」などを学んだことで、友達と関わる様子や、自分の内面の捉え方などに、少しずつ良い変化が出てきた。
課 題	１年生でも、理解して活動できるように授業構想を練ったが、難しいところもあった。また、教師側の課題として、世界のことを調べるときに、新型コロナウイルスの影響もあってか、最近作られたもので、正確な情報が載っている資料を探すのに難航した。（特に途上国）
備 考	絵本やクイズを用いながら学習することで、児童の印象に残りやすく、楽しく学習できたと感じる。

テーマ ： 多様性

みんな　なかよし　だいさくせん！！

02

所 属	名古屋市立　富士見台小学校	実践者	森谷　朋香
対 象	小学校１年生（27 名）	実践日	2023 年 9 月
実践教科	学活、道徳、生活	時間数	45 分×6 時限
ねらい	・ネパールについて知り、多様な文化や価値観の面白さに気付く。 ・他者とのよりよい関係づくりのために大切なことを考え、行動する。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**◇ネパールはかせになろう！！**	
	① クイズに答えて、ネパールの街や暮らしの様子について知る。【フォトランゲージ、クイズ】	写真
	② グループで日本とネパールの写真の仕分けクイズをして、共通点や相違点を見つける。【フォトランゲージ】	写真、A3紙
	③ 「おどろいた！」「すごい！」「似てる！」「もっと知りたい！」などの思ったことを個人で振り返り、ワークシートに書く。グループと全体で共有する。	振り返りシート①
2	**◇ネパールを体験しよう！！**	
	① 簡単なネパール語を知る。【クイズ、体験】	スライド
	② ネパールと日本の伝統音楽や民族楽器を体験する。【体験】	動画、楽器
	③ 日本とネパールの音楽の共通点や相違点を個人で振り返り、ワークシートに書く。グループと全体で共有する。	振り返りシート②
3	**◇ちがいを受け止めなかったら？**	
	① 違いを否定される場面のロールプレイを見て、困ることをペアで考え、書き出す。全体で共有する。【ロールプレイ】	台本 A4紙、ペン
	② 違いを肯定される場面のロールプレイを見る。【ロールプレイ】	
	③ 違いを受け止めたら、どんないいことかあるかを個人で振り返り、ワークシートに書く。グループと全体で共有する。	振り返りシート③
4	**◇「みんな　なかよし」になるためには？**	
	①「みんな　なかよし」になるために大切なことや必要なことをグループで書き出す。【ブレーンストーミング】	半模造紙、ペン
	② やってみようと思うランキング１～3位を個人で決め、グループで共有する。【ランキング】	A4紙、ペン
	③ 1～4回目の授業で知ったこと、思ったこと、気付いたことを振り返り、その中で家族に伝えたいことをワークシートに書く。	振り返りシート④ 今までの振り返りシートや教材データ
5、6	**◇すごろくをつくろう！！**	
	① 1～4 回目の授業の内容で、印象に残っていることを選び、カードに絵と言葉でかく。（一人3枚） ・なかよしカード：なかよしのために大切なこと、〇マス進む ・おじゃまカード：なかよしを邪魔するもの、〇マスもどる ・ネパールカード：ネパールのことで驚いたことなど	今までの振り返りシートや教材データ カード、すごろく台紙
	② グループですごろく台紙にカードを貼る。	
	③ できたすごろくで遊ぶ。（授業参観でも一緒に遊ぶ。）	

成 果	・異文化を知ったり体験したりすることの面白さに気付いたことで、家庭でネパールのことを話したり、世界の様々な国の情報収集をしたりしていた。 ・「みんな　なかよし」を意識して、友達との挨拶や言葉遣い、接し方を考えて行動する姿が見られた。
課 題	・今回は、日本とネパールの違いのことから、違いを肯定・否定する場面をロールプレイで示したが、それだけでなく、友達同士などの身の回りでも違いを肯定、否定する場面があることの具体例をロールプレイ等で示せば、さらに行動の変容につながると感じた。
備 考	

テーマ ： セルフエスティーム・人権・共生

なったらいいな！自分もみんなもハッピーなせかい

03

所 属	愛知県小牧市立篠岡小学校	実践者	石川 敬祐
対 象	小学校２年生（22 名）	実践日	2023 年 10 月～１月
実践教科	学級活動・道徳	時間数	９時間

ねらい

- 自分自身の生活との比較を通して、ネパールの現状を知る。
- 日本とネパールの共通点や相違点に気付く。
- わたし、あなた、みんなにとっての幸せを考え、行動する。

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**「自分はどんな生活をしている？」** ・ 自分の一日の生活（平日）をふり返る。【タイムライン】 ・ 仲間と比較し、共通点や相違点に気付く。	・タブレット（ロイロノート）の活用
2	**「自分や友だちのことをあらためて知ろう！」** ・ 自分の好きなこと、嫌いなこと/得意なこと、苦手なこと/大切な人、モノを見つめる。【ブレーンストーミング】 ・ 仲間と比較し、共通点や相違点に気付く。【ギャラリー方式】	
3・4	**「ネパールってどんな国？」** ・ ネパールについて知る。（都市部と農村部の様子、学校や子どもたち、食、石川が実際に感じたネパールにおけるハッピーなど） 【フォトランゲージ】【クイズ】【動画】【ジグソー法】【派生図】 ・ ネパールの文化を体験する。（楽器演奏）	・ネパールBOX ・教師海外研修（in ネパール）で撮影した写真や動画
5	**「自分たち（日本）とネパールの同じところ、ちがうところは？」** ・ ネパールに住むある男の子、女の子の生活を知る。【ジグソー法】 ・ 日本とネパールの同じところと違うところを考える。【対比表】	・World Vision（https://www.worldvision.jp/children/）の資料に加筆・修正
6～9	**「ハッピーライフゲーム（すごろく）を作ろう！」** ・ わたし（自分）、あなた（家族や友だちなど）、みんな（日本のみんな、ネパールのみんななど）にとっての幸せとは何か考える。 【ブレーンストーミング】【対比表】 ・ こんな世界になったらいいなという理想も含め、ハッピーライフゲームをグループ毎に作成する。 ・ 他グループが作成したハッピーライフゲームで遊び、みんなでハッピーをシェアする。【すごろくゲーム】 ・ 全体をふり返り、自分の夢や目標を掲げ、実現を目指す。【行動宣言】	

成 果

- 児童は、ネパールをはじめ、日本以外の国に興味関心を抱くようになった。
- 児童は、ネパールという国を通じて、食べたいものが食べれることや暖かい家で暮らせることなど、自分たちの生活が当たり前ではないということに気付くことができた。

課 題

- 低学年の児童に対して、世界の課題を自分事として捉えさせること。
- 既存カリキュラムとのつながりが弱く、汎用性が低い実践だということ。
- 連続した時間数を確保すること。

備 考

担任する学級での実践の他、全校児童対象に、ネパールの写真・モノの展示や楽器演奏体験、小牧市青年部員対象（約 150 人）に、平和学習会講話（ネパールの教育と貧困）を行わせていただいた。

テーマ ： 文化理解

はじめまして世界！～日本の国からこんにちは～

04

所 属	三重県立四日市市立大谷台小学校	実践者	酒井　陽香
対 象	小学２年生（26 名）	実践日	2024 年 1 月～2 月
実践教科	音楽･特活	時間数	３時間
ねらい	・世界を身近に感じ、自分たちの毎日の暮らしにも、さまざまな国が関わっていることを知る。 ・世界に肯定的に出会い、興味関心を持つ。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	■音楽でみんなとつながろう！ 「メッセージ」いろいろな国の挨拶の言葉を覚えよう。 ■１日2回国歌が流れる国 それぞれの国に国歌があり、聞く回数や場面は異なることを知る。 ■日本の国歌を聴く 日本の良いところはどこだろう？考えてみよう！	小学 2 年生の音楽の教科書「メッセージ」を歌う。 タイ国歌 タイ国歌が流れた際の動画を見る
2	■世界の国歌を聴く どこの国の曲が好き？どこに行きたい？ その国の映像と共に聴くことで、他国に興味を持つ。 ■世界と日本のつながり 自分たちの毎日の暮らしの中には、世界のさまざまな国が関わっていることを知り、世界を身近に感じてもらう。 ■どんなものを食べてるの？【フォトランゲージ】【ポップコーン形式】 いつ誰が食べていて何が入っているか想像する。 どんな味がするかを考える事でその食べ物と国に興味を持つ。	jica ホームページ「つながる世界と日本」参照
3	■世界の学校を覗いてみよう【フォトランゲージ】【ポップコーン形式】 世界の学校は、どんな教室だと思う？ 具体的に想像してから、日本と同じところと違うところを探す。 ■学びの振り返り ◯◯の国に行って◯◯する！【行動宣言】 外国の人と仲良くなるにはどうしたらいいだろう？　　授業の感想	ポプラ社「現地取材！世界の暮らし」参照

成 果	･「外国に興味がなかったが、興味を持った」という意見が聞けたり、外国に対してあまり良いイメージがなかった子供たちが、写真や動画を通して、肯定的に捉えるようになった。 ・低学年の生徒は、自分の意見を言語化する能力が不十分なだけで、考えていないわけではなく、日本の良さを理解していたり、改めて子供たちの可能性に気づくきっかけとなった。
課 題	･初めての参加型手法に慣れるまでに時間がかかり、あまり効果的に活用することができなかったので、普段の授業から取り入れたい。 ・面白い！楽しい！と感じてもらえるように授業を作成したため、世界の課題と向き合うことはできなかったが、今回の授業をきっかけに、世界を身近に感じ、関心を持つきっかけとなれば嬉しい。
備 考	

テーマ ： 多様性

いろんなみんなが　いっしょにいるには

05

所 属	愛知県岩倉立曽野小学校	実践者	村田　知美
対 象	小学校２年生（30 名）	実践日	2023 年 11 月～12 月
実践教科	学級活動	時間数	６時間
ねらい	・　人によって同じところ、ちがうところがあることを知る。 ・　ちがいを肯定的に捉える。 ・　いろんな人が共にいるために、自分にできることを考える。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**すき・きらいもいろいろ** ・ スタンドアップ（あなたはどっち？○か×か） ◆【アイスブレイク】 ・ 4つのコーナー（以下、毎回初めに行った） ★【アイスブレイク】 お題を聞いて、「はい」「どちらかというとはい」「どちらかというといいえ」「いいえ」という表示のところに動き、その理由を説明する。 ・ わたしを表す10の文 ★ 「わたしは…」で始まる文を 10 個書き、グループで交流する。	参考文献等 ★…NIED・国際理解教育センター「参加型アクティビティ集 コミュニケーション編」より
2	**ぞくせい、見た目もいろいろ** ・ ちがうところ・おなじところ 【ブレスト】 ★◆ グループの4人の、相違点・共通点を挙げる。 ・ 宇宙人に自己紹介 【KJ 法】【ロールプレイ】◆ 宇宙人に「地球人」を説明する設定で、地球人の特徴を考える。	◆…大阪府人権協会「人権学習シリーズ vol.4 ちがいのとびらー多様性と受容ー」より
3	**かんじ方、とらえ方もいろいろ** ・ 怒りの温度計 ◆ 「もしこんなことがあったら？」というお題を聞いて、自分ならどのくらい怒るか、メーターの上に消しゴムを置き、感じ方を伝え合う。 ・ おはなしづくり ◆ 同じ写真を見て、それぞれの視点や感じ方をシェアする。	●…映画「ぼくたちの哲学対話」より その他 ・大阪府在日外国人教育研究協議会「ちがいドキドキ多文化共生ナビ1・2」
4	**「ふつう」って何？** ・ 何に見えるかな ● 同じ形を見て、何に見えるかを伝え合う。 ・ 「ふつう」ではじまる10の文★ 「ふつう…」で始まる文を 10 個書き、グループで交流する。	
5	**「ちがったらだめ」の国** ・ 自分とちがうと、どう感じる？ （ここまでの振り返り） ・ 「ちがったらだめな国」だと、どうなるかな？ 【派生図】	
6	**いっしょにいるには** ・ いろんなみんなが、かなしくならずに、いっしょにいる方法 【ブレスト】 ・ 自分にできることはなんだろう？	

成 果	・「自分のことがわかった」「仲間のことがもっと知りたい」という感想や、「同じでも違ってもいい」「なかまはずれや攻撃はしない」と、違いを否定しない、排他的行動をしない、という声が多く聞かれた。 ・全6回の参観を校内で呼びかけた。アクティビティのうちいくつかは、同僚にも使ってもらっている。
課 題	・「違いを否定はしない」声は多く聞かれたが、「肯定的に捉える」という当初立てた目標に迫る内容になっていなかったと反省した。次に生かしたい。 ・自己受容、感情リテラシー等の側面も加味した、低学年の段階からのプログラムが作りたい。
備 考	・日頃から定期的に、感情とニーズを聴き合う活動を行っている。 ・第6時で「けんかになりそうな時は、すぐに謝るほうがいい」「自分の思いは引っ込める」という声が散見された。攻撃的にではなく、相手のことも思いながら、自分の思いを伝える方法があることを伝えたところ、児童から続編のリクエストがあったので、3学期に継続して実施してみている。

知ってみよう！世界のこと

06

所 属	愛知県名古屋市立伊勝小学校	実践者	西平　祐紀
対 象	小学校３年生（65 名）	実践日	2023 年 11 月～2024 年２月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	15 時間

ねらい

・他国の生活について知り、自分たちと似ているところや違うところがあることに気付く。
・あってもいい違い、あってはいけない違いについて考え、多様な文化や考え方を受け入れることの大切さや、なくしていかなければならない違いがあることに気付く。
・違いを認め合いながら、共に生きていくためにできることを考える。

実践内容

回	プログラム	備 考
1･2	◆ 世界と肯定的に出会おう ① 国名あいうえお【アイスブレーク】 ② クイズどこの国でしょう？【クイズ】	・偕成社「世界のともだち」シリーズ
3･4	◆ 日本と似てる？違ってる？ ・ 前時で紹介した6つの国（アメリカ、モンゴル、ウズベキスタン、フィンランド、ペルー、ケニア）と日本との類似点、相違点を見つける【対比表】 ・ 回し読みで読み合い、すてきだと思うところに♡印をつけ、共有する	
5･6	◆ ちがいのちがい ・ 前時で見つけた相違点を含む、10個のちがいを、あってもいいちがい、あってはいけないちがい、どちらか迷う違いに分類する ・ あってもいいちがいとあってはいけないちがいの特徴を考える	・ロイロノート
7･8	◆ もしも他国に住んだら？ ・ 他国に住む日本人へのインタビューから、他国で暮らす困難さや文化の違いについて知る ・ 5人の日本に住む外国人の話から、その人たちの気持ちを想像する	・愛知県「みんなでつくろう多文化共生社会」
9～14	◆ みんなが気持ちよく過ごせる〇〇をデザインしよう ・ みんなとは誰のことかを考え、 気持ちよく過ごせるための視点を知る ・ 誰もが気持ちよく過ごせるために必要な要素をグループで出し合い、全体で共有する【ブレーンストーミング】 ・ 公園、コンビニエンスストア、レストラン、スーパーマーケットの4つの施設をグループごとにデザインする【イメージ図】 ・ プレゼンして、評価の指標に合わせて投票	
15	◆ みんなで目指そう！多文化共生社会！【行動宣言】 ・ 誰もが気持ちよく過ごせる社会を実現するために、自分にできることを考える	

成 果

・6つの国の子どもを紹介し、共通点を探したことで、他の国に親しみをもつことができた。
・個人の好みや考え方、文化などの違いはあってもよく、不平等や誰かが傷つく違いはあってはいけないという特徴をとらえることができた。
・学区には多くの外国の方が住んでいて、「困っている人がいたら声を掛けたい」など自分たちにできることを考えることができた。

課 題

・プログラムの多くの部分を外国の人に焦点を当ててきたため、「誰もが気持ちよく過ごせる〇〇をデザインしよう」の誰もがを考える時に、「世界中の人みんな」などという意見が多く出て、具体的に考えることが難しかった。

備 考

テーマ ： SDGs、環境、共生

10 歳のわたしたちとSDGs

07

所 属	名古屋市立南陵小学校	実践者	植木　ゆうな
対 象	小学校４年生（24 名）	実践日	2023 年 10 月～2024 年２月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	24 時間

ねらい

・ SDGsについて知る。
・ よりよい世界を作っていくために、今の自分ができることを考え、行動する。

実践内容

回	プログラム	備 考
1～6	★SDGsについて知ろう。 ・ 1 学期に水資源について学習したときに出てきた SDGsを紹介する。 ・「ひろがれ！いろとりどり SDGsのうた」を歌う。 ・ SDGsすごろくをする。 ・ クイズ、資料を読むこと、動画の視聴を通して、どんなことが目標に挙げられているのかを知る。 ・ 食料や水、エネルギーなど生活でお世話になっている物を挙げ、自分の生活と世界の課題が関わっていることを知る。【ブレーンストーミング】 ・ 17の目標カードを使って、班で話し合い、目標の仲間分けをする。 ・ 17の目標の中で、子どもにとって大事だと思う目標ベスト3と、大人にとって大事だと思う目標ベスト3を考え、友達と伝え合う。【ランキング】	★使用教材 ・NHK「SDGs１７目標のおぼえうた」 ・国連広報センター「すごろくでSDGsを学ぼう」 ・日本ユニセフ協会「SDGs CLUB」 ・JICA「SDGs を学ぼう、SDGs で学ぼう！」 ・JICA「共につくる私たちの世界」 ・図書室の資料
7～14	★自分の関心をもった目標について調べてみよう。 ・ 本やインターネットを使って、自分の選んだ目標について調べる。 ・ その目標がなかったらどんな問題が起きるかを考えることで、目標の重要さを知る。【派生図】 ・ 自分の調べたことをスライドにまとめ、友達に発表する。	
15	★未来の地球のために、わたしたちができることを考えよう。 ・ 10歳の自分たちが、今取り組めることのアイデアを思いつく限り書き出す。【ブレーンストーミング】	
16～22	★SDGs かるたを作り、ペア学級の2年生と遊ぶ。	
23～24	★ここまでの授業で学んだことを保護者に向けて発表する。	

成 果	始めはどこか遠い国の問題だと捉えていた児童も多かったが、地球上で起きている問題を真剣に捉え、自分にできることを積極的に考える姿が多く見られるようになった。他教科の学習でも、「これって SDGs の～番に関係するね。」という会話が増えた。また、調べて終わりではなく、実際に行動に移すことができた。
課 題	児童の中に地球上の課題への意識が強くあることを感じ、世界を肯定的に捉えるためのアイスブレイクを途中から行ったが、カリキュラムとして、最初に「世界を知ることは楽しい・面白い」と感じられるように構成する必要があると考えた。SDGs というテーマは4年生までの学習内容を考えると難しい項目も多くあった。
備 考	毎時間、最初の5分～10分程度の時間を使い、話し合いの基盤づくりのためのアイスブレイクや、多文化を知ることができるアクティビティを行った。

ベジタリアンにとって日本はどんな国かな？

08

所 属	石川県金沢市立扇台小学校	実践者	西村　学
対 象	小学校４年生（25 名）	実践日	2024 年 1 月
実践教科	（道徳）	時間数	２時間
ねらい	・ベジタリアンの気持ちを考えることを通じて、誰もが安心して過ごせる社会をつくっていくためにどうすればよいか考えようとする心情を育てる。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	1. ネパールタイム（日本語学校の様子）【フォトランゲージ】 ・日本にいるネパール人は、 3649 人（2000 年）→17575 人（2010 年）→156333 人（2023 年） ・4.8 倍、8.9 倍･･･これからもどんどん増えていきそう。 ・外国人も約 320 万人。石川県の人口の約3倍。すごい数だ。 2. 本時の課題を確認する。 外国人が安心して過ごせる日本にするにはどうすればいいかな 3. いくつかの商品を紹介し、ベジタリアンマークを知る。 ・食べ物だけでなく、石けんにもついている。 ・どんな意味があるのかな。 4. ベジタリアンについて説明する。 ・世界で6. 5億人もいる。 ・先生のホームステイ先のカルパネイさんもそうだったんだね。 ・ネパールのレストランのメニュー表にも必ずあったんだ。 5. もしカルパネイさん(ベジタリアン)が日本で過ごすとき、どんな困ったこと（問題）が起こるか想像する。【派生図】→【成果物の回し読み】 ・僕たちが普段食べるお菓子もだめかもしれないんだ。 ・食べるものが毎日同じになって日本が嫌になるんじゃないかな。 6. ベジタリアンの声を紹介し、ふり返りをする。	・日本語教室の写真や動画 ・ベジタリアンマークのある実物や写真 ・日本の食品、食品表示の写真
2	7. 問題を解決する方法を調べ、発表する。【二次元軸】 ・代替卵がスーパーで買えるといいよ。 ・日本の食品にも同じようなマークをつけたらどうかな。 8. 同様に外国人が日本で過ごすときに困っていそうな事例を教師が紹介し、解決方法を考えてみる。【ブレスト】→【二次元軸】 ・イスラム教の人は礼拝、トイレでもきまりがあるみたい。 ・手で食べる人たち、左手を使わない文化もあるんだって。 9. 外国人が日本で心地よく過ごすために何ができるか、個人レベルと地域（国）レベルで考える。【できることビンゴ】 10. ふり返りを交流する。	・事例の動画

成 果	教師がお世話になったホームステイ先の家族という「人」、数多くあるベジタリアンマークの商品という「モノ」、ベジタリアンの困る「コト」に出会わせたことで児童が意欲的に取り組み、日本という国を違う視点で見つめ直せ、未来の日本の在り方を子ども自身が考えられたこと。
課 題	「実際に困っている人の声」をインターネットやYouTubeで紹介したが、例えばベジタリアンやネパールの方をゲストティーチャーとして呼び、話を聞くことで問題意識がより高まったと考える。次回行うときにはそのような方に来てもらい、話を伺う機会をつくり、より学びを深めたい。
備 考	

NAPAL×JAPAN　多文化共生の街づくりへの第一歩

09

所 属	愛知県津島市立東小学校	実践者	大島　俊介
対 象	小学校４年生（30 名）	実践日	2023 年 10 月～11 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	13 時間
ねらい	・異文化交流を通して、異文化の面白さに気付き、多文化共生社会の実現に向けてできることを考える。 ・外国人の視点で自身の生活を振り返り、外国人にとってやさしい街づくりを目指すためのアイデアを考える。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**「ネパール報告会」** ・ネパールで食べた料理や、体験した音楽やダンスについての紹介を聞く。【クイズ】 ・ネパールの小学生と一緒に踊ったソーラン節の動画を視聴する。	クイズ用紙 〔写真〕料理、飲み物、店舗食べ方等 〔動画〕民族楽器、伝統舞踊、ソーラン節等 〔実物〕楽器、国旗等
2・3	**「ネパール博士になろう！ネパールクイズ」** ・グループで協力してクイズに答える。【クイズ】 ・ネパールで取材してきた動画や写真を見て、答え合わせをする。	
未実施	**「ネパール料理を実際に食べてみよう」** ・ネパール国籍の保護者にネパール料理の体験教室を開いてもらう。 ・民族楽器の演奏を聞き、言語を越えたコミュニケーションについて理解する。	〔実物〕 楽器、スパイス等
4～6	**「実録 NEPAL ドラマ！研修中の実話7」** ・共通点と相違点に肯定的に出会う。【ロールプレイ】 ・共通点と相違点を分類する。【カード式整理法】 ・自分にできることかどうかを考える。【二次元軸】	付箋紙、A3用紙、模造紙、ペン 〔写真〕二人乗りノーヘル ホームステイ中、視覚障碍者と高校生 〔取材〕現地コーディネータ・通訳から
7・8	**「外国人が友達になったらどんな未来に…ベスト3」** ・外国人と友達になることでどんな未来が待っているかを考える。【派生図】 ・待っている良い未来と悪い未来をふくらませる。【ブレーンストーミング】 ・ベスト3を決めて、どちらの未来をめざしていくのかを決める。【ランキング】	A3用紙、ペン
9	**「世界の言語であいさつゲーム」** ・1回目：世界の言語の人口比率に合わせる。世界の現状について理解する。 ・2回目：愛知県の人口比率に合わせる。少数派になったときの感覚を養う。 **「異文化コミュニケーションゲーム バーンガ」** ・自国のルールと他国のルールの違いを体感し、少数派になったときの感覚を養う。	あいさつカード 愛知県人口比率 バーンガカード
10～12	**「外国人にとって優しい街づくりデザイン」** ・日常生活で利用する施設を書き出し、7つに絞り込む。【ブレーンストーミング】 ・『こんな〇〇があったらいいのに』というアイデアをイラストと言葉でかく。【イメージ図】 ・作成したイメージ図の中で、この仕組みを早く作った方がよいというアイデアが書かれたものをえらび、投票する。【重みづけ投票】	A3用紙、ペン 丸シール(投票用) タブレット端末
13	・学習を振り返り、自分にできることを考え、行動宣言をする。【行動宣言】 ・第6時の二次元軸から自分の考えの変化について気付かせる。	ワークシート

成 果	実践が終わった12月に、日本語を話せない外国人Aを受け入れることになった。子どもたちは、あいさつの仕方を調べてきたり、同じ国にルーツがある子を中心に自己紹介の仕方を勉強したりした。転入後は翻訳ツールを使いこなしながら話したり遊んだりしている。小学生が主体となって、自分たちの生活の中で自分たちの力で言語の壁を越えていくことができている様子を見て、子どもたちの可能性に驚かされている。本実践が有益に働いたことが理由にあるのであれば、この上なくうれしい。
課 題	・JICA 青年海外協力隊や JICA ネパール職員など、現地で活動している方とオンラインでつながる機会を設けることができれば、外国への関心はより広がったのかもしれない。 ・外部講師との日程調整がうまくいかずに、実践の中に組み込むことができなかった。外部講師は、前向きに検討してくれているので、年度内に実践できる時間を設けられればと考えている。
備 考	・株式会社ハートクエイク「異文化コミュニケーションゲーム『バーンガ』」を参考に教材開発 https://heart-quake.com/article.php?p=592 ・教師海外研修で収集した取材資料

テーマ ： 異文化理解、国際理解

異文化って何？異文化を知ろう！

10

所 属	三重県桑名市立在良小学校	実践者	倉世古　稔允
対 象	小学校４年生（58 名／2 クラス）	実践日	2023 年　１０月～１月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	９時間

ねらい

・世界や異文化に肯定的に出会う。
・他国の文化に出会うことで、日本との相違点に気づく。
・いろいろな人が暮らしている世界で、幸せに暮らすためにできる行動を見つけ、つなげる

実践内容

回	プログラム	備 考
第1回	**〇国名クイズ** ・「国名あいうえお」でたくさんの国名を出し合う。 ・地図帳で国名があるか探し、位置や国旗も確認しながら親しむ。	
第2・3回	**〇世界のいろいろな文化を知ろう** ・人間知恵の輪でアイスブレイキング。 ・タブレットでいろいろな国の文化（食文化、学習等）を調べる。 ・班でクイズを作って出し合う。【クイズ】	明治 「比べてみよう！世界の食と文化」
第4・5・6回	**〇バーンガをやってみよう。** ・素敵なハートでアイスブレイキング。 ・バーンガのカードゲームをして、楽しいゲーム→言語の難しさ、伝えるために感じたことを考えていく。	・トランプ各班分 ・ルール説明の紙（各班分）
第7・8回	**〇みんなが過ごしやすい町とは？** ・タブレットで過ごしやすい桑名市にするために大事なことをまとめる。【回し読み、ギャラリー方式】	・社会科や総合で学習した福祉関連の考えも入れてよいことにした。
第9回	**〇過ごしやすい町を表現しよう** ・各班で自分たちが考えた過ごしやすい町には何が必要か模造紙に書き、コンペをする。 ・いいねと思うところに☆印を入れる。	

成 果

・世界と肯定的に出会うことを第一の目標としたので、児童は意欲的に様々な国のことを知ろうとし、スムーズに進んでいくことが多かった。

課 題

・異文化交流体験ゲーム「バーンガ」を取り組んだ時に、児童が異文化と出会う体験ができ表情が変わるタイミングを見ることができ、とてもよかったが、ルールを理解できない4年生児童が多く、練習に時間を要した。高学年や中学生だとより適切な時間でルールをきっちり理解できたうえで進めることができると考えられる。
・外国の文化にはかなり親しみに自発的に調べる児童も多かったが、過ごしやすい町に表現していくところは考えつかない児童も多かった。

備 考

・どこかで、ゲストティーチャーとして外国の暮らしや文化を学習する機会を検討したが、日程が合わず、来年度に持ち越した。
・総合での福祉学習を絡めて行ったので、過ごしやすい町に対しての認識に違いが産まれた。

テーマ ： コミュニケーション

知ってほしいなわたしのこと！もっと知りたい仲間のこと！

11

所 属	愛知県津島市立東小学校	実践者	渡邊 可奈
対 象	小学校４年生（61 名）	実践日	2023 年 10 月～12 月
実践教科	総合的な学習の時間・学級活動	時間数	13 時間

ねらい

・ありのままの「わたし」について振り返り、自分を知ってもらうためにはコミュニケーションが大切であることに気付く。
・よりよいコミュニケーションについて考え、お互いを大切にして生活するために自分にできることを確認する。

実践内容

回	プログラム	備 考
1･2	**○わたしはこんな人！あなたはどんな人？** ・呼ばれたい名前で名札を作る。 ・「3つのホント　1つのウソ」を行う。 ・10個のわたし、好き好きメーター作りを行い、自分についてよく考える。	名札A4用紙、ペン ワークシート
3･4･5	**○いろいろなコミュニケーションを体験しよう！** ・「人間コピー機」を行い、言葉のみでのコミュニケーションについて考える。 ・「新聞紙で動物を作ろう」「ジェスチャーゲーム」を行い、言葉なしでのコミュニケーションについて考える。	見本の絵、Ｂ４用紙、ペン 新聞紙、A3用紙、ハサミ、のり、お題
6･7	**○コミュニケーションについて考えよう！** ・コミュニケーションと聞いて思いつく言葉や物を付箋に書き、グループで分類する。【カード式整理法】 ・もしもコミュニケーションがなくなったらどんな未来になるのかを考える。【派生図】 ・なってほしくない未来ベスト3を決める。【ランキング】	付箋、ペン、半模造紙 A3用紙、ペン A4用紙、ペン
8 9 10･11	**○よりよいコミュニケーションについて考えよう** 「聞き上手になれるかな」 ・いいかげんな聞き方、熱心な聞き方などを体験する。【ロールプレイ】 ・熱心な聞き方、熱心ではない聞き方について考える。【対比表】 「どのように伝えたらいいのかな」 ・ある場面で気持ちを伝えるときにどんな伝え方をしたらよいかを考える。 ・アイメッセージについて知る。 「言葉の玉手箱　～天国言葉かるたを作ろう～」 ・今まで受け取ったほかほか言葉やちくちく言葉を書き出し、全体で共有する。【ブレーンストーミング】 ・玉手箱の言葉のかるたを作成し、グループで実際にかるた大会を行う。	 B4用紙、ペン ワークシート A4用紙、ペン、模造紙 カルタ用の画用紙
12･13	**○自分にできることを考えよう！** ・よりよいコミュニケーションをとっていくために大切なことを考え、自分がこれから実践したいことを決める。【ブレーンストーミング】【指標づくり】 ・「みんながみんなのサポーター」を行い、お互いの行動宣言にエールを送り合う。	A3用紙、ペン ワークシート、ペン

成 果

自分についてよく考えたことで、自分のことをもっと知ってもらいたい、仲間のことも知りたいという意欲が高まった。何気なく使っている言葉やジェスチャーが、自分たちの生活の中でとても大切なものであることに気付き、言葉遣いや聞き方に気を付けていこうとする子が増えた。そして何より、グループで一緒に体験したり、考えたりする中で、仲間のよさを認める様子がたくさん見られたことが、一番の成果であると考える。

課 題

・コミュニケーションの体験が楽しむだけで終わってしまいそうな場面が見られた。始める前に、ねらいをよく確認してから実践し、それを基にした振り返りを行う必要があると考える。

備 考

・コミュニケーションの体験については、実践内容以外にも「ステキなハート」「こころの握手」「ペンタワー」などをアイスブレイクで取り入れて実践を進めていった。

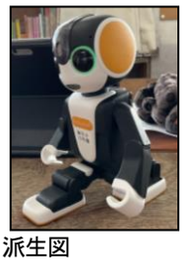
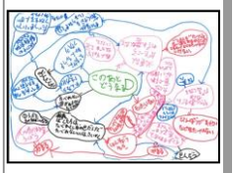
テーマ ： 環境、共生、貧困

私たちのくらし　～カメルーンとの交流を通して～

12

所 属	愛知県津島市立神守小学校	実践者	道野 大和
対 象	小学校 4 年生（69 名）	実践日	2023 年 6 月～1 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	30 時間
ねらい	・日本とカメルーンの「水・ごみ事情」の違いに気づく。 ・日本と海外の国とのつながりについて知り、自分たちにできることを考える。 ・日本とカメルーンの交流を通して、世界がつながることの大切さに気づく。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1-2	◆ カメルーンとのオンライン交流（青年海外協力隊　橋爪綾香氏） ① カメルーンの「ごみ・水」について ② カメルーンの「くらし・学校」について	Teamsのビデオ会議を利用
3-6	◆ 日本と世界は、つながっている？ ① 「海外に頼っているものランキング」クイズ ② もしも海外とのつながりがなくなったら【派生図】【ギャラリー方式】 ③ 「カメルーンにまつわるウソ？ホント？」 ④ 「豊かさについて考えよう」【ランキング】	愛知県国際交流協会 HP より
7－12	◆ SDGs の問題を解決したい！～ロボホンと共に～ ① SDGsの目標12～15の目標について知る ② 学んだことを共有する【ジグソー法】 ③ 目標達成へ向けての課題を整理する ④ 具体的な解決案を考える ⑤ ロボホンにプログラムする ⑥ 発表	ロボホン 
13－24	◆ 世界の様々な問題～環境・貧困・児童労働～ ① これって何の植物？ ② カカオ豆にかくされた問題【フォトランゲージ】【派生図】 ③ 児童労働の現実【ジグソー法】 ④ 文字が読めないってどういうこと？ ⑤ 学校に行けないってどういうこと？【フォトランゲージ】【因果関係図】	派生図 
25－30	◆ あやか先生からのお誘い！？～写真展に参加へ～ ① どんな写真を展示するか話し合う【ブレインストーミング】 ② 写真を撮影する ③ 写真に添える文章を考える ④ 出展 ⑤ カメルーンの方々の反応を知る ⑥ これからの行動について決意表明をする	写真展のようす

成 果	・日本のくらしが当たり前ではないことに気づくとともに、世界とのちがいを受け入れることができた。 ・様々なアクティビティを経験することで、話し合いの手法を知り、積極的に学習することができた。 ・世界とのつながりを経験し、身近な行動を変えていこうとする意識をもつことができた。
課 題	・学習したことを実生活に生かすことが難しかった。食品ロスはいけないことと分かりつつ、給食に対して無関心な児童もいた。学習したことを行動にうつせるようにしたい。 ・子どもたちの関心が広がりすぎてしまい、一人一人の「もっと知りたい」に対応することができなかった。
備 考	

テーマ ： 国際理解・共生・SDGs

開こう　日本から世界への扉

13

所 属	愛知県名古屋立植田東小学校	実践者	宇野 瑠璃子
対 象	小学校５年生（103 名）	実践日	2023 年 11 月～2024 年 1 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	16 時間
ねらい	・世界の国について視野を広げる。 ・世界の国のすてきなところを下級生に知ってもらう。 ・SDGsについて知り、SDGs達成のために自分にできることを考える。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	① **どんな国を知ってる？** ・国名あいうえお【表】【ギャラリー方式】 ・ぼくがラーメン食べてるとき、世界では何が起きている？ 【絵本読みきかせ】	書籍「ぼくがラーメンたべてるとき」
2	② **1つの国を選んで調べよう！** ・リトルワールドに展示されている13か国の中から1つの国を選んで調べる	
3～7	③ **「リトルワールド」に行こう！** ・民族衣装を着てみる？世界の国の食べ物を食べてみる？	校外学習「リトルワールド」
8	④ **世界のいろんな国のすてきなところを伝えよう！** ・紹介したい国選び ・2年生に楽しみながら知ってもらうには？【KJ法（カード式整理法）】 ・グローバルボックスの中身を見てみよう	フィリピンのグローバルボックス
9～12	⑤ **選んだ国のすてきなところを伝える準備をしよう！** ・（選んだ国）の（伝える内容）（伝える方法）を考える ・調べる　・練習する	2～4人のグループ 1クラス10グループ程度
13～14	⑥ **2年生に伝えよう！** ・2年生に世界の国のすてきなところを知ってもらおう！ 【ギャラリー方式】【クイズ】【フォトランゲージ】	5年生の教室に 2年生1クラスずつ来てもらう
15	⑦ **世界はすてきなところばかりじゃない！？世界の課題について知ろう！** ・SDGsゴール解説やってみた 【カード】 ・SDGsカードを仲間分けしてみよう 【カード】【ギャラリー方式】	SDGsカード
16	⑧ **これからどのように行動していく？** ・世界規模の課題は？〈動画〉 ・SDGs達成のために自分にできることは？	映像資料 「世界につながる教室」JICA

成 果	下級生に伝えるためにまず自分たちが世界の国のことを知ろうとすることができた。聞く人の立場に立って、分かりやすく伝えるために自分たちで提示資料や伝え方を工夫することができた。世界の国に興味をもった上でSDGsや世界規模の課題を知り、自分と世界はつながっていることを理解することができた。
課 題	今回は自分が選んだ国のすてきなところを調べるに留まった。選んだ国の課題も自分たちで調べて見つける時間を確保できるとよかった。
備 考	紹介したい国は、愛知県国際交流協会の国際理解教育教材がある「2005 年愛知万博の公式出展国 120 か国」の中から選んだ。

テーマ ： 文化理解、環境、多文化共生

みんなが暮らしやすい Izumi Town を ALT に提案しよう

14

所 属	石川県金沢市立泉小学校	実践者	鈴木 友紀
対 象	小学校５年生（109 名）	実践日	2023 年 10 月～11 月
実践教科	道徳科、英語科	時間数	5 時間（単元全体 10 時間）
ねらい	・ネパールと日本の良さや課題について気づくことができる ・両国共通の課題を踏まえた持続可能な街の施設について考えることができる ・自分たちの考えた施設を ALT に英語で紹介することができる		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	＜ネパールや日本の良さは？＞ ・ネパールの写真から気づく良さを書き出す【フォトランゲージ】【回し読み】 ・各班ごとに発表する ・校区地図から見える地域の良さを書き出す（各班同じ地図） ・各班ごとに発表する ・両国それぞれの良さをまとめ、ネパールを身近に感じる	・A3用紙（各班） ・水性ペン（各班） ・ネパール写真 ・泉校区地図
2	＜ネパールや日本の課題は？＞ ・ネパールの写真から気づく課題を書き出す【フォトランゲージ】【回し読み】 ・各班ごとに発表する ・資料から気づく日本の課題を書き出す【ジグソー法】 ・各班ごとに発表する ・両国それぞれの課題をまとめ、両国共通の課題に気づく	・A3用紙（各班） ・水性ペン（各班） ・ネパール写真 ・資料「優しい英語で SDGs ！」（合同出版）
3	＜課題解決のポイントは？＞ ・日本の取り組みを知る【ジグソー法】 ・各班ごとに発表し、アルビスで働く人の思いを知る ・ネパールの取り組みを知る【ジグソー法】 ・各班ごとに発表し、ラブグリーンで働く人の思いを知る【エピソードシート】 ・みんなが暮らしやすい施設のポイントになりそうなキーワードを整理する【ポップコーン方式】	・A3用紙（各班） ・水性ペン（各班） ・資料「環境報告書」（アルビス株 HP） ・資料「Love Green の活動」（Love Green Japan HP） ・エピソードシート
4	＜ポイントを踏まえた施設を考えよう＞ ・グループで考えたい施設をいくつか決め、重ならないように調整する ・図や言葉にしながらみんなが暮らしやすい施設を班でまとめていく ・それぞれの班の様子を参考にする【ギャラリー方式】 ・みんなが暮らしやすい施設を再度班でまとめる	・模造紙 1/4（各班） ・水性ペン（各班）
5	＜考えた施設をルカ先生に提案しよう＞ ・校区地図と施設図を示しながら各班ごとに、ALT に紹介する	・泉校区地図（新） ・4 時の模造紙

成 果	ネパールと日本を比較しながら、良さや課題について話し合うことで今の日常が当たり前ではないことや両国を肯定的に捉えようとする児童の様子が見られた。施設を考える際、児童が見つけたエネルギー・ゴミ・食品ロスの問題について解決すべく新たな施設作りに真摯に向き合う姿が見られた。
課 題	両国の良さや課題について取り組むには、2 時間では短かった。図書資料とラブグリーンの資料が細かく、読み解くのに時間がかかった。ポイントを整理した資料作りをすることが必要であった。
備 考	英語科の単元全体の中で開発教育として 4 時間組み込んだが、考えた施設を英語を使って十分に説明することは難しかった。英語表現は知るにとどめ、日本語で紹介する構成を他教科で考えていけるとよい。

テーマ ： 環境

一人一人が創る未来

15

所 属	三重県朝日町立朝日小学校	実践者	川瀬　達也
対 象	小学校 5 年生（124 名／4 クラス）	実践日	2023 年 12 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	5 時間
ねらい	・環境を無視し、開発を続けると、自分たちに被害が返ってくることに気づく。 ・人々が豊かに暮らし、かつ、持続可能な開発をすることについてイメージを持つ。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**環境を無視して開発を続けると…** 「この1週間でお世話になったもの。」【ブレーンストーミング（リスト）】 ①挙げたものがなくなると？ ②どのように作られている？ →どの製品も金属、木材、石油など「資源」から作られていることに気づくとともに、「資源」はどれも有限であることに気づく。 ③このまま開発を続けていくと？【派生図】⇒【回し読み】	A3用紙・マジック A3用紙・マジック
2	**四日市公害のリアル** ①四日市公害当時の写真を紹介し、四日市公害のリアルを知る。 【フォトランゲージ】 ②四日市公害のリアルを知り、どんなことを感じたか？ →環境を無視し、開発を続けると、自分たちに被害が返ってきたことを捉える。	四日市公害の写真
3	**気候変動を止めるために必要なことは？** ①資料「私たちの暮らしと気候変動」を読む。【分担読み】 ②自分が読んだ資料の内容を共有する。 （1）何について書かれていたか （2）資料から分かったこと （3）最も印象に残ったこと ③気候変動を止めるために必要なことは？【ブレーンストーミング】 ④各グループで考えたことを共有する。【回し読み】 ⑤共有して大切だと思ったことを書き足す。	「私たちの暮らしと気候変動」 （三重県気候変動適応センター） A3用紙・ペン
4 5	**人々が豊かにかつ、持続可能な開発をするために** **自分たちができること【対比表】** ①　個人で、家族・学校で、地域・社会全体での3つの単位で考える。 ②　班ごとにプレゼンをする。	1/2 模造紙・ペン

成 果	・第1時で自分達は資源を使い生活をしていることを実感したことで、地球温暖化の問題を切実な問題として捉えることができていた。 ・四日市公害を捉えた上で気候変動を止めるために必要なことを考えたことで、四日市公害の問題と地球温暖化の問題を重ね合わせて考えることができていた。
課 題	・第4・5時では、地域・社会全体でできることについて深く考えることができなかったように感じた。前時までに社会で行なっている取り組みついて触れておくと良かったと感じた。
備 考	・第1時での成果物は教室掲示を行った。 ・3学期は四日市公害の「環境を無視し、開発を続けると、自分たちに被害が返ってきたこと」について人権の視点から考えた。

テーマ ： SDGs、国際理解、多文化共生

SDGs テーマ発表

16

所 属	静岡市立清水袖師小学校	実践者	花木　里帆
対 象	小学校５年生（31 名）	実践日	2023 年 11 月
実践教科	総合的な学習の時間・国語	時間数	５時間

ねらい

（総合）
・SDGs について知り、理解を深める。
・目標 14「海の豊かさを守ろう」について問題や原因、自分にできることを考える。
（国語） 単元「グラフや表を用いて書こう」（光村図書）
・SDGs の 17 の目標の中から、興味をもったものについて調べて、統計資料を用いて自分の考えをまとめる。

実践内容

回	プログラム	備 考
1	イントロダクション　SDGs とは ・アイスブレイク「国名アイウエオ」「行ってみたい国とその理由」 ・世界の国の数は？日本は世界で何番目？（面積・人口・幸福度） ・SGDsとは（NHK for School を視聴） テーマ決め ・17 の目標から自分が興味をもったものを一つ選び、それについて調べ、情報を集める。	Google スライド ワークシート Chromebook （一人一台端末） Google フォーム
2 3	グラフや図などの統計資料を用いて、自分の考えをレポートにまとめる。 「初め」…自分の考え 「中」…自分の考えを裏付ける資料を入れて説明を書く 「終わり」…まとめ（自分の考えでしめくくる） の 3 段落構成を意識して書く。	Google ドキュメント 手本を作成し、書き方を示す
4	完成したレポートを読み合い、書き方や内容について良いところや感想を互いに伝え合う。	
5	17 の目標のうち、最も関心度の高かった目標14「海の豊かさを守ろう」について考える。 ・目標14「海の豊かさを守ろう」についての説明（調べた子から発表） ・海のゴミが増えるとどうなるか【派生図】 ・海のゴミが増える原因について【因果関係図】 ・自分たちができることを考える。 ・まとめ（動画視聴、振り返り）	A3 用紙、ペン Google フォーム

成 果

SDGsについて興味関心をもち、調べ学習を通して SDGs やそれぞれの目標についての知識を得た児童が多くいた。世界が抱える課題や現状を知り、自分にできることは何か考える機会となった。

課 題

国語の学習として、「統計資料を用いて自分の考えをまとめる」ことに重点を置いてしまい、アウトプットの場を十分に設けられなかった。今回はレポートを作成する形をとったが、パワーポイントや Google スライドなどにまとめてプレゼン（コンペ発表・重みづけランキング投票など）にすると、より参加型のアウトプットの方法がとれたかもしれない。今後もいろいろな方法に挑戦し、実践していきたい。

備 考

授業では、SDGsについてまとめられた NHK for School や YouTube の動画を視聴したり、サイトを閲覧したりした。また、JICA 発行のパンフレットや書籍「小学生からの SDGs」（深井宣光　著）などを学級文庫として置いた。学習の最後には SDGsシールを配付した。

テーマ ： 環境

地球にやさしい！オリジナルカレーコンテスト

17

所 属	名古屋市立汐路小学校	実践者	國安 里架子
対 象	小学校６年生（136 名）	実践日	2023 年 11 月～12 月
実践教科	外国語科	時間数	９時間

ねらい

・日本の食の多様性に気付く。
・食料自給率について知り、普段食べているものと世界のつながりを考える。
・「地球にやさしい」オリジナルカレーを考えて発表し、自分達が大切にしていきたいことを考える。

実践内容

回	プログラム	備 考
1-2	○ 日本の食の多様性に気付く。 私たちは普段どんなものを食べている？スライドを見ながら、日本の食の多様性に気付く。	パワーポイント
3	○ 日本の食料自給率について知る。 様々な食材の食料自給率について、クイズ形式で知る。	パワーポイント
4	○ 食料自給率が低いことの問題点を考える。 食料自給率が低いことによる問題点の資料を提示する。 ・フードマイレージ　・バーチャルウォーター	井出留美.「食品ロスの大研究」から引用
	○ 「海外からの輸入がストップしたら？」どうなるかを話し合う。 食生活が世界とつながっていることを考える。 【派生図・因果関係図】	児童用タブレット ロイロノート 共有ノート機能活用
5	○ 今まで授業内で学習してきたことや、栄養士の食育授業、家庭科の授業内で学習してきたことをもとにオリジナルカレーの食材を考える。	（以下最後まで） タブレット ロイロノート
6-7	○ 前時で考えた食材の生産地や栄養素などを、英文にし、発表の練習をする。	共有ノート機能活用
8	○ 地球にやさしいオリジナルカレーをグループ発表する。 発表内容は、カレーのテーマ・使用食材と産地、栄養素グループ（英語）と、地球環境への配慮（日本語）で行う。 スライドを提示しつつ、英語で発表をする。英語で説明しきれない環境問題のところは１分以内に日本語で話す。発表グループ以外の児童は審査員も兼ね、発表態度や地球環境を考えているかを審査し、投票する。1位のグループのカレーは教員が実際に調理する。	

成 果

参加型手法を用いたことで、食べ物のことについて自分が得た知識などを共有しながらみんなで考えることができ、児童が自分事として捉えることができた。またグループでオリジナルカレーを考え投票させる形式にしたことで、地球環境に配慮した食について、熱をもって考え、発表することができた。

課 題

食に関わる問題を提示する際に、時間の関係上、指導者側から駆け足で提示しただけになってしまった。ここで参加型手法などを用いてもう少し深く考えることができたら、その後の発表もより深まるのではと思った。また、学習を終えた時点で参加型手法をとって自分の考えを深められるとよかった。

備 考

この授業を行う際に、事前に栄養士の食育についての授業（食品ロスなどがテーマ）や社会科や家庭科の授業でも学習したこともあり、児童が本授業以外で得た知識も取り入れて考えることができていた。

我々は地球人

18

所 属	静岡県磐田市立東部小学校	実践者	荻 光平
対 象	小学校６年生（33 名）	実践日	2023 年 １１月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	４時間

ねらい

日本とネパールの国の違いを比べたり、調べたりする活動を通して、様々な文化や考え方をもった人々がいることに気付き、国籍に関わらずだれもが心地よく過ごせる地域社会を作っていくにはどうすればよいか考えることができる。

実践内容

回	プログラム	備 考
1	○ネパールについて知ろう。 ・ネパールクイズ【4つのコーナー】 ・ネパール（途上国）に対するイメージを書き出す。 【ブレーンストーミング】 ・グループごとに写真について話し合い、考えたことを発表する。 【フォトランゲージ】 ・写真についての説明を聞く。	写真・実物
2	○日本とネパールの同じところ・違うところを見付けよう。 ・もしも、世界の人々が金太郎あめのようだったら【派生図】 ・写真やエピソードなど参考に日本とネパールの対比表を作る。【対比表】 ・それぞれのいいところを探す。	写真（街並・学校・家・市場など） アンケート結果
3	○あってよい違い・ダメな違い ・子どもたちの考えをもとにしたちがいカードを並べる。【マトリックス】 ・あってよい違い・いけない違いについての考えを共有する。 【ワールドカフェ】	写真・ビデオ エピソード カード
4	○だれもが心地よく生きられる社会に必要なものは何（物、心、考え方）？ ・磐田市（東部小）がもし100人の村だったら【クイズ】 ・日本に来る外国人の思いを知る。 ・「多文化共生」の定義を知る。 ・行動宣言を考える。 自分ができることは何だろう？	資料 ビデオ （日本語学校）

成 果	児童が外国の文化や宗教について興味をもつきっかけになった。また、自分たちとは異なる国に様々な考え方や思いをもって生きている人々がいることを知り、多様性を受け容れ、互いに尊重しあいながら生きていくことが大切であると多くの児童が気付けた。
課 題	途上国に対するマイナスイメージを持つ児童が多かったため、その国や人々の良さに気付かせるための資料提示が不十分であった。
備 考	

テーマ ： 貧困、国際理解

世界の貧困を僕らが救う！ ―フェアトレードで自分にできること―

19

所 属	三重県四日市市立日永小学校	実践者	竹内　綾音
対 象	小学校６年生（30 名）	実践日	2023 年 10 月～11 月
実践教科	国語科	時間数	７時間

ねらい

・世界には様々な暮らしがあり、各国の課題である極めて貧しい生活を強いられている家庭や学校に行けない子供がいることに気づく。
・学校に行けない子供の生活が分かる資料から、不当な取引による貧困の過酷さを知り、改善するための「フェアトレード」という仕組みを知る。
・「フェアトレード」と自分の関り方を考え、自分にできる支援方法を原稿用紙にまとめる。

実践内容

回	プログラム	備 考
1	＜世界の暮らしと課題＞ ●「海外」の暮らし（街並み・食事・家など）の様子をイメージする。 ●日本・韓国・アメリカ・ネパール・ガーナの 5 か国の暮らしをイメージし、①主な食事②主な街並み③子供とその子の子供部屋（写真集「Where Children Sleep」より）を紹介する。【ブレーンストーミング】 ●国によって違う様々な暮らしの様子があることに気づき、その中にも貧困の課題があることに着目する。 ●韓国7・日本21・アメリカ43・ガーナ125・ネパール137の国と数を知る ●End of Childhood Index Ranking 2021（THE TOUGHEST PLACES TO BE A CHILD より）掲載の順位の数字であることを知らせ、各国の「子供が子供らしく生活することができている国」の順位であることを伝える。 貧困が国ごとの課題ではなく世界の課題であり、私たちの課題であることに気づく。【クイズ形式】 ●貧困課題を抱える家庭の子供が、学校に行くことができない現状があることにについて知る。 ●貧困は連鎖することに気づく。【貧困の輪カード】	「海外」のイメージ脱却！ 世界の課題は日本の課題！
1	＜生産地の暮らしから見える物＞ ●好きなお菓子を聞く。【ポップコーン方式】 ●子供たちに身近なチョコレートの原材料であるカカオの生産地出身ゴットフレッドさんの生活を資料（ACE スマイルガーナプロジェクトホームページより）で見る。【分担読み】 ●「ものすごく大変な仕事をする小さな手／ゴットフレッド」を読む。 ●貧困の輪カードのように起こる負の連鎖防止方法を考える。	貧困の過酷さ想像を超える
5	＜公平な取引＞ ●フェアトレードマークや身近にあるフェアトレード商品・国外（ネパール）のフェアトレード商品を実際に知り、日本人にもっと知ってもらうためには自分がどう行動するか作文に書く。【ブレーンストーミング】	自分の行動で世界が変わる

成 果

・海外のイメージがステレオタイプであることに気づき、各国に課題があることに気づくことができていた。
・貧困により登校困難な状況で暮らす同世代の子供の存在に気づき、過酷さを痛感していた。
・フェアトレード商品が近くのコンビニやスーパーにあることに気づけるようになっていた。

課 題

・意見文で終わるだけでなく、書いた実践方法を生活に取り入れ、経過を見て、実践効果を感じる所までできれば良かったと感じた。
・資料収集の時間を取り、日本のフェアトレード商品に関与する団体等をもっと採り上げれば良かった。

備 考

国語科　東京書籍「新しい国語六」 p.158 世界に目を向けて意見文を書こう

テーマ ： SDGs

SDGsについて知ろう！伝えよう！

20

所 属	愛知県尾張旭市立東中学校	実践者	勝又　基之
対 象	中学１年生（288 名）	実践日	2023 年 10 月～3 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	第１次・５時間/第２次・６時間
ねらい	・SDGsについて理解を深める。 ・SDGsを自分ごととして考え、主体的に社会に関わる姿勢を育てる。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**「貧困から学ぶSDGs」** 〇貧困に苦しむ人々の生活について考える。【イメージマップ】 【ギャラリー方式】 〇貧困の人々の生活はSDGsのどの目標と関連しているか考える。 ・貧困からイメージしたものと関連するSDGsの目標は何番かを考え、イメージマップ上に目標カードを置く。 ☆ SDGsの17の目標はお互いに関連していることに気付く。	・名前ペン ・模造紙 ・SDGs目標カード
2	**「SDGsと自分たちとの関わり」** 〇他国とのつながりや環境問題からSDGsと自分たちとの関わりを考える。 【スマホはどこから？】【どの村に住みたい？】 ☆ 全世界がSDGsの目標達成のために行動しなくてはいけないことに気付く。	・白地図 ・世界貧国ワーストランキング（出典：IMF）
3	**「気になる目標の調べ学習」** 〇日本のSDGs達成度を予想し、自分の予想と現状とのギャップがある目標の、日本の現状について調べる。 〇分散学習の訪問先に関連している目標の、日本の現状について調べる。 ☆ 日本の達成状況を知る。達成するためには、目標達成のために一人一人が行動しなくてはいけないことに気付く。	・名古屋SDGs街HP
4	**「分散学習」** 〇SDGsに取り組む施設を７か所に分かれて訪問し、学ぶ。	・訪問先は下記備考欄
5	**「分散学習で学んだこと」** 〇学んだことを発表し合う。 ☆ SDGsに取り組む施設が多くあることを知り、自分たちも目標達成のために行動に移したいという意欲をもつ。	
6～11	**「学んだSDGsを伝える」** 〇学んだことを用いてSDGsすごろくを作り、校区内の小学6年生に遊んでもらう。	

成 果	第1次で参加型の授業及び分散学習で自ら学び、気づく場を設定したことで、SDGsについて、より身近に感じることができた。また、そこで得た知識でSDGsすごろくを作ることで、よりSDGsについて自分事にすることができた。
課 題	分散学習では、予約の都合上、先に訪問場所が決まっていたが、気になる目標に合わせた施設を自分で選ぶことができると、より主体的に学ぶことができたと思われる。
備 考	訪問先①でんきの科学館②名古屋市科学館③トヨタ産業技術記念館④エコパル名古屋⑤ネックスプラザ⑥愛知学院大学⑦メタウォーター下水道科学館あいち

テーマ ： 多様性、共生

住みやすい町づくり～理想の町を考えよう～

21

所 属	弥富市立弥富北中学校	実践者	坂口　ひとみ
対 象	中学校１年生（131 名）	実践日	2023 年 4 月～9 月, 11 月～12 月
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	11時間

ねらい

・「多様性」「豊かな社会」「ごみ問題」「防災」「福祉」などの視点から、みんなが住みやすい「理想の町」を考える。
・世界にはいろいろな人が暮らしていることを知り、それらの人々の立場に立って生活をイメージし、みんなが住みやすい町にするには何が必要かを考える。

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**◆豊かな世界にとって大切なこととは？【ランキング】** ・「豊かな世界にとって大切なこと」を考え、その中から特に大切なものを3つ選ぶ。 ・日本の子どもたちにとって大切なこと、社会的弱者にとって大切なことなど、異なる立場から「豊かな世界」の在り方を考える。	ワークシート
2	**◆ちがいのちがい～多様性について考えよう【対比法】** ・カードに記された内容をあっていい違い、あってはいけない違いに分類し、それらについて考える。	「世界一大きな授業2019」資料より
3	**◆POIゲームで、ごみの分別を考えよう** ・カードゲームを通して、ごみの分別についての課題を探す。	POI カード(アークライト) 半模造紙・ペン
4	**◆津波が起きたらどうなる？** ・津波が発生したのち、何が起こるのかを考える。【派生図】 ・自分の命を守るための行動を考える。	ワークシート
5	**◆もし学校が避難所になったら・・・** ・学校に避難してきた様々な人たちを、グループのメンバーと協力して避難誘導する。 ・災害時に、自分たちにできることは何かを考える。	教材「避難誘導に協力しよう」（防災教育普及協会） 校内見取り図
6	**◆お年寄りや障がいのある人たちについて知ろう** ・福祉実践教室で、手話・車いす体験・点訳・音訳・高齢者疑似体験・視覚障がい者ガイドヘルプのうち１つを体験し、障がいがある人が、日ごろの生活のどのような点でのサポートを必要としているかを知る。	弥富市の社会福祉協議会を通じて、講師の方をお招きした。
7	**◇住みやすい町づくり～理想の町を考えよう～** ・これまでの学びを踏まえて、個人で理想の町を考え、企画書にまとめる。	ワークシート
8～10	**◇みんなで案を出し合って、モデルタウンを作成しよう！【ブレーンストーミング】** ・各自の企画書をもとに、グループで意見を出し合い、１つのモデルタウンを提案する。	模造紙・ペン
11	**◇グループで考えた「理想の町」をポスターセッション形式で発表する。**	

成 果

さまざまな人たちの立場に立って、日常生活の過ごしやすさを追求した町づくりのアイデアを出したことで、これまで学んだことをより現実的に捉えることができた。

課 題

今回は、実現可能かどうかということより、自由にアイデアを出し合うことを優先した。しかし今後は、世界の問題についてもっと深く考える授業を重ねることで、さらに現実的な理想の世界を思い描けるようにしていきたい。

備 考

これまでの総合的な学習の時間での学びを振り返ることができるような掲示物を廊下に掲示した。

テーマ ： 人権、民族衣装、多文化共生

民族衣装から考える多文化共生

22

所 属	公益財団法人 名古屋国際センター	実践者	太田　梨理香
対 象	中学校１年生　６名	実践日	2024 年 1 月 24、25 日、2 月 1 日
実践教科	名古屋国際センター3F リソースルーム	時間数	１時間×３回

ねらい

・民族衣装から文化の多様性を知る。
・名古屋に住む人々が幸せに暮らすために大切なことが何かを考える。

実践内容

時間	プログラム	備 考
10 分 10:10	1.　アイスブレイク ★行動や様式には理由があると気が付く ・「制服の好きなところ、嫌いなところについて話す」	A4 用紙、ペン
7 分 10:17	2.　自身の服装について振り返ってみよう！【タイムライン】 ★服には外的要因が影響していると気が付く ・昨日一日の服装、なぜそれを着たのか書き出す	A4 用紙、ペン
18 分 10:30	3.　民族衣装について知ろう！ ★民族衣装が、文化と関連がありその形になったと気づく ・「もしも・・・あなたが●●に住んでいたら」【シミュレーション】 ・実際に民族衣装を紹介してその理由を考える【フォトランゲージ】	A4 用紙、 モンゴル民族衣装、 写真
10 分 10:40	4.　文化や環境が異なると？ ★民族衣装と同様に文化が異なると、異なるもの・同じものについて考え、違いを尊重する大切さに気が付く ・同じもの・違うものを比較して考える【対比】 ・全体で共有【ポップコーン】	A4 用紙、ペン
15 分 10:50	5.　誰もが幸せに暮らすためには ★異なる文化の人が幸せに暮らすためには何が大切か考える ・名古屋市の在住外国人について説明 ・誰もが幸せに暮らすために大切だと思うことを書きだす	A4 用紙、ペン
5 分	6.　まとめ 文化によって服装や考え方はさまざまであり、共に幸せに暮らしていくためには、互いに尊重しあうことが必要	

成 果

身近な衣服をテーマにすることによって、多様性や多文化共生について知ってもらうこと、更に後の施設見学や事業紹介に繋がる流れができた。（本講座は当センター社会見学と連携させて行った。）また、ただ話をするだけでなく参加型にすることにより、より参加者に興味関心を持たせることが出来たと感じる。

課 題

「知る・気づく・考える・行動する」までをプログラムとして組んでいたが、「考える・行動する」にしっかりと時間をとることが出来なかった。今後、「考える・行動する」までしっかりとカバーできるような開発教育を活かした講座も実施してみたい。

備 考

子どもニック・ニュース 2023 冬号

テーマ ： 共生、外国人労働者、食料自給率

We're the World.

23

所 属	愛知県豊明市立豊明中学校	**実践者**	**河村　知里**
対 象	中学校１年生（200 名） 中学２年生（200 名）、教員 40 名	**実践日**	2023 年 6 月～2024 年 1 月
実践教科	英語、総合的な学習、学活	**時間数**	９時間
ねらい	・世界の中の日本やネパールの立場を知り、世界とつながることの大切さを考える。 ・地球に住む 1 人としてできることを考え、行動するきっかけをつくる。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1・2	**ネパールについて事前アンケート調査** ・ ネパールの位置クイズ ・ ネパールイメージ【ブレーンストーミング】 ・ ネパール語で「将来の夢」を書こう	・愛知県国際交流協会「私たちの地球と未来 ネパール版」
3・4	**ネパールについて知ろう！** ① アイスブレイク【4 つの角】 ② 写真クイズ【フォトランゲージ】	・ネパール現地で撮影した写真を使用。
5	**ネパールについて知ろう！』（＊教員向け報告会）** ① 写真クイズ【フォトランゲージ】 ② 防災教材【ジグソー法】	・ネパールの教育や防災教育教材を中心にした報告会。
6	**日本とネパールの食料自給率について知ろう！** ① 食料自給率を知ろう ② 日本の食料自給率 ③ 輸入食品がなくなったら【派生図】	・NHK for School「食糧自給率」
7	**日本の外国人労働者とネパールの出稼ぎ労働者について知ろう！** ① 日本総人口と外国人労働者数 ② 外国人労働者 職業別ランキング【ランキング法】 ③ 日本にいるネパール外国人労働者【ジグソー法】 ④ 外国人労働者がいなくなったら【派生図】	・「外国人雇用状況」の届出状況まとめ
8	**世界とのつながりについて考えよう！～もの編～** ① 「昨日お世話になったもの」を書き出す【ブレーンストーミング】 ② ジャンル別にグループ化 ③ どの国から来たものか？	・③の調べ学習では、生徒はタブレットを使用。
9	**今後世界とどう関わるか考えよう！** ① 今課題だと思うものをたくさん出そう！ ② 世界が取り組むべき課題と日本が取り組むべき課題【二次元軸】 ③ 行動宣言（want to を使った文を書く）	・「Sustainable Development Report 2023」

成 果	外国籍生徒が多い本校でも、世界とのつながりに関して意識が低い部分があったが、プログラムを通して、「世界の中の自分」という意識が高まった。ネパールも身近な国という意識が高まった。
課 題	外国籍生徒がいるので、もっと「世界から見た日本」という目線を多く取り入れて、より充実させても良いと考えた。（外国籍生徒の了承次第では、その外国籍生徒の母国についても紹介すると良いと考えた。）
備 考	外国籍生徒（フィリピン、ブラジル、ベトナム、ロシア、ペルー、中国など）

テーマ ： 人権・異文化理解

虹色(私＋あなた＋世界)＝？

24

所 属	静岡県御殿場市立御殿場中学校	実践者	渡邉　亮祐
対 象	中学２年生（240 名）	実践日	2023 年 12 月～２月
実践教科	社会科・総合的な学習・道徳	時間数	５時間

ねらい

・世界も私たちも多様であることを知り、多様だからこそ支え合って生きていくことが大切であることに気付く
・肯定的に「ありのままの私」「ありのままのあなた」などの違いに出会い、その違いを受け止めるとともに尊重することの大切さに気付く。

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**★違いを楽しむ★** ① 私たちの違いを楽しむ【アイスブレイク;4つのコーナー】 ② ネパールクイズ **→異文化に触れながら、違いが生む楽しさ・面白さに気付く。**	ネパール現地教材 写真・動画・実物
2	**★私たちの世界は多様である＝豊かであることに気付く★** ① 私が冬休み中お世話になったものは？【ブレスト:リスト】 ② もしも、世界が全く同じ国だったら・・・【ブレスト】 **→私たちの生活は違い＝多様性に支えられていることに気付く。**	A4 用紙・ペン タブレット
3	**★世界の違いによる問題を知る・気付く★** ① 日本とネパールの違いは？【対比表】 ② ネパールの「違い」が続いたらどのような社会になるだろう【ブレスト】 ③ 世界における「違い」の現状を知ろう。 **→違いは豊かさを生む反面、違いが生む問題があることを知る。また、その違いが広がっていることに気付く。**	ネパール現地教材 タブレット 『世界がもし 100 人の村だったら 2020』
4	**★「違い」による問題は「私ごと」「私の中にもある」と気付く★** ① 今の「私たち」の中にある問題は？【対比表】 ② 問題は私たちの周りにある？【因果関係図】 **→誰の心の中にも偏見や差別意識があることに気付く。**	アクティビティ 「愛さえあれば」 タブレット
5	**★多様性、ありのままの私・あなたを認める。互いの違いを尊重し合う★** ① ネパールエピソードからもう一度違いを見直そう。 ② 私たちはなぜ違いを受け入れられないのだろう？【因果関係図】 ③ 私の虹色宣言【行動宣言】 **→違い＝多様性を認め合い、誰もが「ありのまま」でいられるために、自分ができることを『虹色宣言』として宣言する。**	ネパール現地教材 タブレット A4 用紙

成 果

違い・多様性が生む楽しさから始まり、その違いに私たちが支えられていること、違いによる問題があること、違いが生む問題は人ごとではないこと、違いを認め合い、気持ちよく生活するために自分ができることと段階を踏んで授業を展開できたため、自分ごととしてじっくりと考える生徒が多く見られた。

課 題

「肯定的に出会う」ということを意識したが、違いを楽しさや面白さではなく、否定的な受け止め方をしてしまう生徒も見られた。教材との出会いの場面における教材選択の難しさを改めて感じた。自分目線の「肯定的」ではなく、誰にとっても「肯定的」に出会える教材選択、場面設定を意識していきたい。

備 考

本校は 7 学級、240 名の生徒が在籍しているため、1時は全体で一斉に行い、2時は実践者が各学級で実施した。その後は、学年部の教員に授業の目的や意図を伝えながら学学級の担任がそれぞれの学級で実践を行った。

テーマ： 平和

HEIWA な世界をつくるために

25

所 属	静岡県沼津市立今沢中学校	実践者	栗原　果凜
対 象	中学校２年生（27 名）	実践日	2023 年　９月
実践教科	学級活動	時間数	２時間
ねらい	・平和について考え、国内外で起きている問題を他人事と捉えるのではなく、そのことを調べたり、他者を理解しようとしたりし、問題解決のために行動する。		

実践内容

回	プログラム	備 考
1回	**平和な世界／平和でない世界** 導入：学級合唱曲「HEIWA の鐘」を聴く ①今の自分の生活は平和だと思う？ ②平和な世界／平和でない世界ってなんだろう？【比較表】 ・班ごと、模造紙に自分たちが考える［平和な世界］と［平和でない世界］を書き出す ・他の班に模造紙を回し、「たしかに！」と思ったものに☆を書く ③［平和でない世界］はなぜ作られると思う？【因果関係図】 ・班ごと、模造紙の真ん中に［平和でない世界］と書き、そこに向かって、平和でない世界を作る要因を探って書く ・他の班の模造紙を見て回り、［たしかに！」と思ったものに☆を書く ④生徒の平和作文朗読 ・何人かの生徒が夏休みに書いた平和作文をグループごとに朗読する	・「HEIWA の鐘」 作詞・作曲　中西 幸広
2回目	**身の回りの平和** ①今の自分は平和だと思う？ ②平和ってなんだろう？ →「前回の〔平和でない世界〕の逆じゃない？」という生徒の疑問から ・他の人が考える平和な世界を読んでみよう！『PEACE AND ME』を4人班2種類ずつ読み、他の班に内容を共有する ③HEIWA な世界を作るために自分にできること・仲間とできること・国ができることはなんだろう？【計画図】 ・班ごと、模造紙を縦に3分割し、上記の3つのことを書き出す ・他の班の模造紙を見て回り、［たしかに！」と思ったものに☆を書く ④「HEIWA の鐘」にどのような思いを込めて歌いたい？【イメージ図】 ・どのような思いでこの歌を歌いたいか書き、自分がイメージするこの歌の絵を描く	・PEACE AND ME わたしの平和 アリ・ウィンター［文］、ミカエル・エル・ファティ［絵］、中井　はるの［訳］

成 果	生徒は、自分たちが歌う合唱曲「HEIW の鐘」の内容や、当たり前のようにある平和な生活について、深く考えたことがなかったようだが、この学習を通して、仲間と関わりながら平和とは何か、自分の身の回りのこととして考えていた。
課 題	他の授業との連携を強化することが課題に挙げられる。すべての教科において、平和学習の要素が含まれることから、教科横断型の授業を計画し、長期的に実践できるようにしたい。また、他クラスとも合同で行えるとよい。そうすることで、平和な世界をつくるための具体的な手立てが考えられたのではないか。
備 考	使用文献： 『PEACE AND ME　わたしの平和』アリ・ウィンター［文］、ミカエル・エル・ファティ［絵］、中井　はるの［訳］

テーマ ： SDGs×キャリア ⇒ 平和

わたしにもできる！ 世界貢献キャリアプラン

26

所 属	愛知県大府市立大府中学校	実践者	福内 大策
対 象	中学校３年生（283 名）	実践日	2023 年 1 月
実践教科	社会科公民分野	時間数	４時間

ねらい

・中学校 3 年間の社会の授業を振り返り、世界の現状・課題について確認する。
・課題解決のため、私たち日本人にできることを考え、ジブンゴトとしてとらえる大切さに気づく。
・自分の人生設計の中で、世の中のためにできることを描き、行動する主体者を育む。

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**世界の現状を知り、課題を共有する**	＜場所：教室＞
（15 分）	・社会の授業を振り返り、世界の現状を再認識し、課題について羅列する。【ブレーンストーミング】	・ワークシート A4
（10 分）	・みんなのワークシートを見て回り、「イイネ！」と思ったものに〇をする。【ギャラリー方式】	・やさしい言葉の世界人権宣言 ・ロイロノート
（5 分）	・ユニセフの資料を用い、共有した課題を SDGs17の目標に分類する。	・ユニセフ SDGs副教材：私たちがつくる持続可能な世界
（20 分）	・SDGs17の目標を、ピラミッドランキングで順位づけする。【分類/ランキング】	
2	**課題解決のために、私たちができることを考える**	＜場所：図書室＞
（5 分）	・前時の内容を振り返り、世界の課題を班で共有する。【ブレーンストーミング】	
（5 分）	・日本との対比をすることで、その格差に気づく。【対比】	
（25 分）	・その差を埋めるために、「私たち日本人ができること」を考える。 iPadや図書室内の書物や文献を参考に、アイデアスケッチに書いていく。	・アイデアスケッチ ・iPad
（15 分）	・ギャラリー方式で、全員と共有する。【ギャラリー方式】	
3	**世界貢献に向けた自分のキャリアプランを立てる**	＜場所：教室＞
（30 分）	・前時に作成したアイデアスケッチをもとに自分事に落とし込んでいく。 ・時系列（中学・高校・大学・社会人など）に分け、「どのタイミングで始めるか」にフォーカスしながら、記入していく。【タイムライン】 ・今すぐできることや将来のため今から計画的に動いていく必要性を知る。	・キャリアプランニングシート A3 ・教えて！現場の人
（20 分）	・次回の発表の準備をする。	・マジックペン
4	**世界貢献に向けて行動宣言を発表し、一歩踏み出す勇気を共有する**	＜場所：教室＞
（5 分）	・ポスターセッション形式で発表していく。【行動宣言】 ・発表者１人に対し、観客が5人になるように場をセッティングし、それを6か所つくる。	・セクションボード ・iPad
（40 分）	・一人当たり、3分発表＋2分質疑応答＋1分移動準備の計6分を6回行う。 ・観客は、発表を聞き、感想を書く。	・感想記入用紙 A4
（5 分）	・最後に全体のまとめを記入する。	

成 果

「この授業がキッカケで、世界に貢献することと自身の将来の夢を結びつけて考えられた。」
「現実味のある意見が多くて、皆が実行すれば目に見える成果になると実感できた。自分もやろう！」
「皆がそれぞれ違うキャリアプランだけど目指すことは同じ。手段・方法はいくらでもあることに気づいた。」

課 題

時間が足りなかった。特に、2限と3限はもう一時間ずつ時間を取り、厚みを持たせられれば良かった。

備 考

上記の授業後、まとめの授業を1コマ追加した。「世界がもし 100 人の村だったら 2001 年/2020 年比較」や World's Largest Lesson（世界一大きな授業）の動画、『ファクトフルネス』よりチンパンジークイズを行い、「それでも世界は良くなっている」と、悲観ではなく未来に対して希望を抱かせて終えるようにしました。
「無力ではなく微力」「想うだけ祈るだけでなく、みんなで動けば変わる」ということを伝えられたと思います。

テーマ ： SDGs、国際理解

知ろうよ！ベトナム

27

所 属	愛知県立中村高等学校	実践者	水野　純次
対 象	高校 1 年生（33 名）	実践日	2023 年 10 月 10 日（火）
実践教科	グローバル・スタディーズ （学校設定科目）	時間数	1 時間
ねらい	・ベトナムの風土と気候について知る。 ・日本とベトナムの SDGs の取り組みを知る。 ・「自分の中のベトナム」のイメージを具体的に持つ。		

実践内容

回	プログラム	備 考
2 分	あいさつ・これからの授業の案内	
10 分	【アイスブレーキング】(3つのホントと 1 つのウソ) 2 分モデルプレイ,、2 分準備、 3 分発表	
10 分	【ブレインストーミング】 半模造紙の真ん中に　ベトナム　と書かせる。 「ベトナムってどんな国？」を合言葉にどんどん書かせる。	世界地図(白地図)
	白地図を渡し、ベトナムの位置を確認 ベトナムの「地理的特徴」について知る。 標高図を示し、「白地図」と「標高図」をヒントに、ベトナムのイメージをさらに半模造紙に書かせる。	ベトナム標高図 自然地理図
10 分	ベトナムの SDGs について、SDGs カードを置いて視覚化していく。	SDGs 付箋
	ベトナムの SDGs の取り組みを見せる。	SDGs レポート
13 分	【ベン図】 日本の SDGs と比較させ、半模造紙を用いて「日本の課題」「ベトナムの課題」「共通する課題」を考えさせる。 ギャラリー形式で他グループの意見を見、「この考えいいね」or「この考えなかったわ」というところに●を書かせる。	
5 分	振り返り 自分の言葉で、「ベトナムってこんな国」を書き、グループの人と意見を共有する。	

成 果	ブレインストーミングではあまり言葉がでてこなかったが、最後の振り返り作業ではスムーズに書ける生徒がほとんどで、今回の学習を通して生徒たちの中にベトナムのイメージが湧いてきたと感じた。その点から、概ね狙いを達成できたと思えた。
課 題	余裕を持って計画したつもりだが時間が足りず、急かすような授業展開になってしまった。また、社会科で学んだ知識を活かしてほしくて地理的特徴から風土や気候について想像してほしかったがなかなか深められず、余分な活動になってしまった。
備 考	本授業は、今後、本校生徒たちがベトナム研修に赴くにあたって、ベトナムへの興味・関心を引き出せるようにしてほしいと依頼を受けて立案した。

世界の現状や SDGsについてより知ってより考えよう

28

所 属	岐阜県立可児高等学校	実践者	栗原　遥
対 象	高校１年生（40 名）	実践日	2024 年　１月
実践教科	地理歴史	時間数	２時間

ねらい

・世界の国々の多様な文化・生活様式について知り、多様性を受け入れる
・世界が抱える課題とそれに対する解決策をさまざまな視点から考える
・仲間とともに、前向きにかつ自分ごととして SDGsを捉える

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**世界の現状を把握する** ①アイスブレイキング 国名アイウエオ →自分たちが書いた国について白地図にチェックをいれる ②世界のことを知る－国当てクイズ 国当てクイズ世界各国の学校や食事などの写真から、国名を当てる 気づき・学び　多様性の存在、多様性が存在することによるおもしろみ ③世界のことを知る－世界がもし100人の村だったらワーク 世界の実態を知り、諸課題に目を向ける 気づき・学び　困難な環境で生活をしている人々の存在、世界における格差	４～５人のグループ 隊形で実施 用意したもの ・紙（大・A3） ・白地図（世界） ・付箋 ・ペン ・各種ワークシート
2	**SDGsについて理解する** ①SDGs ゴール解説 １人3～4つのゴールについて、世界の現状とゴールの意義を解説する 気づき・学び　SDGsとはなにか、世界の現状と課題 ②課題が達成できない社会を考える 各グループで任意のゴールを選び、そのゴールが達成できていない社会において想定されることを書き込む【派生図】 →回し読みをして、他グループの派生図を確認する（興味深いものや良い視点のものについては「♡」を記入 ③日本・可児高・自分、それぞれの立場でできることを考える 上で選んだゴールについて、ゴール達成のために行動できることを考え、表に記入する 気づき・学び　世界の課題と自身の生活とのつながり ④感想記入　学びになったこと・取り組んだ感想をそれぞれ付箋に書く	

成 果

生徒は大変意欲的で、仲間とともに考えることで新たな視点を獲得し、活発な意見交流を行っていた。また、多様性あふれる世界について、興味関心をもって受け入れている様子であった。生徒の感想のなかに「知識が増えることで、日々の中で面白いと感じられることが増えそう」というものがあり、今回の授業が学習意欲向上に繋げられたことも有意義であった。

課 題

2回目の①「課題が達成できない社会について考える」派生図作成と、②「それぞれの立場でできることを考える」については、選択したゴールによってはやりにくさを感じるものもあり、助言が必要な様子であった。

備 考

【参考】 国際連合広報センター. “SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは？ 17 の目標ごとの説明、事実と数字”. 2019 年 1 月. https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31737/ （参照 2024 年 1 月）

テーマ ： 国際理解、環境

世界を知る、日常を変える

29

所 属	静岡県立浜松大平台高等学校（定時制）	実践者	石井　亜矢子
対 象	高校２年生（14 名）	実践日	2023 年９月
実践教科	現代の国語	時間数	7時間

ねらい

・プラスチックごみから連鎖的に生じる環境問題について知る
・日常の行動が環境問題を解決する糸口になることに気付く
・新しい価値観を元に、今後環境問題とどのように付き合っていくのか行動目標を立てる

実践内容

回	プログラム	備 考
1	プラスチックごみが及ぼす影響について知る ・教科書の教材を形式段落ごとに担当者を決め、それぞれの段落を個人で要約する ・個人で要約したものを全体で共有する	教科書 ワークシート パソコン
	レジ袋のメリット・デメリットを考える ・個人でレジ袋に関するメリットとデメリットを付箋に書き出す【ブレーンストーミング】 ・挙がったアイディアを全体でグルーピングする【KJ 法】	付箋 模造紙 ペン
2	プラスチックごみについて多方面からアプローチする ・他教科の教員から、プラスチックごみにまつわる情報を提供してもらう （地歴公民科）各国のプラスチックごみとの付き合い方 食べられる包装紙（インドネシア）、草のストロー（ベトナム）、ごみ拾いツアー（オランダ） （理科）ナノプラスチックから見る生物への影響 プラスチックではない物は少ない、ナノプラスチックが胎児に影響を及ぼす、プラスチックの使用を止めることは可能なのか	ワークシート ビデオ パワーポイント 他教科の教員
3	情報の整理をする ・どの情報が自分にとって最も有益だったのかまとめる ・自分が得た情報を他者に伝えることでどのような影響を与えることができるのか、派生図を書く【派生図】 ・派生図を回覧し、参考になるアイディアに〇を付ける	ワークシート
	行動目標を考える ・学習したことを参考に、今日から自分はプラスチック（または環境問題）とどのように付き合っていくのか、行動宣言を作り、作文を書く	ワークシート

成 果

生徒の身近にあるプラスチック製品をきっかけに環境問題について考えることができた。段階的に思考を整理するということも生徒に経験してもらうことができた。〇〇について初めて知ったという声も毎時間挙がっていたため、対象生徒によっては土台となる知識を提供することにも重点を置く必要がある。

課 題

立てた目標を元に、具体的なアクションを取れるようにもっていければよかった。今回学んだことが実生活にどの程度影響を与えたのかを把握することができなかった。今回は環境に特化した教材だったが、異なる単元でも生徒自身が自分事として捉えられるよう、この経験を活かしたい。

備 考

使用教材：中嶋亮太「どこもかしこもプラスチック！」（『新編現代の国語』大修館書店）

テーマ ： 環境、SDGs

橘高校 100 周年に向けてできること

30

所 属	常葉大学附属橘高等学校	実践者	小澤　祐太
対 象	高校 3 年生（60 名／2 クラス）	実践日	2023 年 11 月 28 日
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	1 時間

ねらい

・橘高校で取り組んできた SDGs に関する活動を振り返り、理解を深める。
・橘高校の SDGs 推進の提案書を作成する中で、SDGs を継続的に取り組む姿勢を身につける。
・アクティビティを通してコミュニケーション能力を向上させる。

実践内容

回	プログラム	備 考
1	**1.アイスブレイク** 4 つのコーナー（クイズや質問） （SDGs の 17 の目標を確認しながらコミュニケーションをしやすい雰囲気を作る） →本時のねらいとルールを説明する。	・スライド
	2.橘高校で取り組んできた SDGs に関する活動を振り返る。 (1)3～4 人の班を作り、橘高校で取り組んできた SDGs に関する活動を付箋に書き出し、17 のゴールに分類してみる。【ブレーンストーミング】 (2)他の班のプリントを見に行き、「いいね！」と思うものに星印をつける。 (3)SDGs 宣言達成状況報告書（本校）を見てみる。	・付箋 ・プリント① ・プリント②
	3.橘高校 SDGs 推進の提案書を作成する。【コンペ】 (1)3～4 人の班を作り、橘高校 SDGs 推進の提案書（①課題、②目標・改善点、③自分たちができること、④後輩たちに託したいこと）を作成する。 (2)他の班のプリントを見に行き、重みづけ投票で順位をつける	・プリント③
	4.活動を振り返り、SDGs に関する自分の行動計画や橘高校の SDGsのスローガンを考える。 (1) SDGs に関する自分の行動計画（①今からできること、②大学生・専門学校生になって取り組みたいこと、③社会人になって取り組みたいこと）を考える。 (2)橘高校の SDGsのスローガンを考える。 (3)アンケートに回答	・Classi アンケート

成 果

・SDGs に対する理解度は「深まった（約 53%）」「やや深まった（約 41%）」と回答した。
・SDGs に関する活動への意欲は「高まった（約 46%）」「やや高まった（約 44%）」と回答した。
→多くの生徒が本時の授業に対して肯定的で、SDGs に関して理解を深め、意欲を高めることできた。

課 題

3 年間かけて系統的に「SDGs」に関する理解を深め、主体性を高めていきたい。オンラインと対面のハイブリッドでの実施であったため、なかには表面的な理解に終わってしまう生徒もいた。ファシリテーションやフォローアップが必要だと感じた。

備 考

実践者が各クラスに Webex で配信を行い、アクティビティの指示を出した。

テーマ ： 貧困

途上国の貧困、どうして起こる？

31

所 属	愛知県岡崎東高等学校	実践者	亀山　広実
対 象	高校３年生（40 名）	実践日	2023 年 9 月～10 月
実践教科	コミュニケーション英語Ⅱ	時間数	２時間+α(50×2＋20)
ねらい	・途上国の貧困はどのようなものかを知り、その原因を考える。 ・他国と我々の生活とのつながりに気づく。 ・貧困の連鎖を断ち切るために、各々ができることを考える。		

実践内容

回	プログラム	備 考
20 分	◆Introduction ・『世界がもし100人の村だったら』の動画を見て、気づいたことや感想をペアで共有する(in English)。	動画
(時間外)	・教科書"Floating Education"(バングラデッシュの貧困について)の内容を把握する。	教科書(数研出版 Big Dipper)
20 分	◆貧困ってどういうもの？ ・「世界で最も貧しい生活ってどんな生活」とはどんなものか、グループで意見を出し合う(in English)【ブレインストーミング】 ・他のグループの成果物を見て回る。【ギャラリー方式】 ・教員が貧困の定義を説明する。	模造紙、ペン
20 分	◆どうして貧困に陥るの？① ・『貧困の輪のカード』を用いて、貧困の因果関係を考える。	模造紙、ペン、 貧困の輪のカード
25 分	◆どうして貧困に陥るの？② ・貧困の輪の各カードの原因をグループで考える。【因果関係図】 ・1人1枚担当した資料を読み、貧困の原因となるキーワードを付箋に書き出し、模造紙に貼る。【KJ法】 ◆他国とのつながりを、「一杯のごはん」から考える	模造紙、付箋、ペン 資料：愛知県国際交流協会の国別資料 (ブルンジ、タンザニア、エチオピア、パキスタン、ブルキナファソ、ウガンダ、アンゴラ)
15 分 20 分	◆貧困の連鎖を断ち切るためにはどうしたらいいの？ ・グループで、個人、NGOs/Organizations、日本政府ができる Action をそれぞれ考える。【対比表】 ・1人1枚担当した資料を読み、Action Plan として参考になるキーワードを付箋に書き出し、対比表に付け加える。【KJ 法】 ◆振り返り	模造紙、付箋、ペン 資料(ザンビア、ガーナ、バングラデシュ、タイ、エチオピア、フィリピン、マリ) ワークシート

成 果	普段の生活の中で、他国の貧困を意識することはほとんどない生徒たちが、それについて考え、話し合い、意見を持つことができた。また、日本とのつながりを意識したことで、貧困は他国の出来事という視点を脱して、問題を身近に感じることができ、今度とるべき Action について考えることができた。
課 題	・Action Plan がやや表面的なものになった。それぞれの国の問題について調べて、どのような支援が可能かを考えるなど、深い学びにつながる工夫が必要と感じた。 ・他国と我々の生活とのつながりについて、時間がとれれば何か気づきのある活動ができると良かった。
備 考	バングラデシュの貧困について学んだ後の、Post Reading 活動として実施した。授業を公開し、他の先生方にも見にきていただいた。

テーマ ： 貧困、格差、環境、平和、共生

高校生 国際協力 アイデアコンテスト

32

所 属	愛知県立常滑高等学校	実践者	沖 祐美帆
対 象	高校３年生（29 名）	実践日	2023 年 9 月～10 月
実践教科	地理 A	時間数	6 時間

ねらい

・南アジアの地理的特徴について知る
・発展途上国や日本の課題について考える
・高校生が実践できる国際協力について考える

実践内容

回	プログラム	備 考
1	「南アジアの地理的特徴について知る」 ・教師海外研修でネパールに訪問した際に撮影した写真を用いてクイズ大会を行った 【クイズ】 ・写真の項目…食・スイーツ・街並み・村・人 ・動画の内容…ネパールの語学学校での日本語授業の様子 ・学習項目として、南アジアの自然環境と生活、歴史と宗教、語族・民族、農業・工業、経済発展と今後の課題、これからの南アジアと日本を扱った	「使用した道具」 写真・動画 スクリーン
2	「途上国の課題について考える」 ・途上国の課題を個人で書きだす【ブレインストーミング】 ・グループごとに課題を共有する【リストの作成】 ・グループごとに作成した課題を回し読みし、新たな視点にマークをつける ・「課題解決のためにどのような支援の例があるか？」という発問を行い、挙手および指名で生徒に発表させた →本当に必要な支援、支援する側・される側のメリットについて考える 【対比表】	「使用した道具」 カラーペン 紙 ・既習事項の復習を行った ・自身の海外研修での体験談を話した
3～5	「ポスター作成」 ・模造紙にカラーペンを利用してポスターを作成する ・ポスター項目…タイトル・解決したい課題・・高校生ができること なぜ解決しなくてはいけないのか ・日本とのつながりを明示することを留意事項とした	「使用した道具」 カラーペン 模造紙 タブレット スマートフォン
6	「ポスター発表」【宣言】 ・4 人または 5 人グループ 7 班で、1 班につき 5 分以内で発表する ・発表の形式は自由だが、要点をまとめることを留意事項とした ・すべての班の発表終了後、1 人 3 票ずつ投票を行った ・投票における評価のポイント…ポスター部門・発表部門・総合部門	・JICA 職員の方、校長・教頭等多くの方々に参加していただくことで生徒の気持ちを高めた

成 果

・クイズ大会やコンテスト形式にすることで、生徒が関心を持って積極的に取り組めた
・ポスターをあえてICTで作成せず、ペンと紙で作成することで班ごとに特徴あるポスターが完成した
・発表やポスターの形式を指定しなかったことで生徒の自ら形式を考える機会となった

課 題

・本年度は同じクラスで政治経済の授業も担当していたので、さらに地理と政治経済を関連させて教科横断的な授業にできると、より有意義な授業となったのではないか
・昨年度学習した世界史の知識を生かした項目を設けるとより効果的だったのではないか

備 考

教科書 『基本地理 A』（二宮書店）

テーマ ： 異文化理解・多文化共生

世界につながる教室へ～先生だからできること～

33

所 属	可児市立広見小学校	実践者	山本　実穂
対 象	岐阜県内の先生方（希望者 10 名）	実践日	2023 年 8 月 3 日
実践の場	国際理解教育講座（岐阜県教育委員会）	時間数	５時間
ねらい	国際理解教育に興味をもつ先生が、さらに広い視野で異文化を理解するとともに、多文化共生教育の指導力を高め、校内での実践へとつなげる。		

実践内容

時間	プログラム	備 考
10分	① **アイスブレイク「素敵なハート」** 多くの人と話す機会を作り、場を和ませる。	小さな紙・ペン
15分	② **アイスブレイク「名刺で自己紹介」** 自分のことを振り返り、グループの仲間のことを知る。	A4用紙
15分	③ **アイスブレイク「同じところ・違うところ」** 仲間の同質性・多様性を理解し、その違いを楽しむ。	半模造紙
20分	④ **家族自慢をしよう**【フォトランゲージ】【ロールプレイ】 多様な国や人と肯定的に出会い、異なるものへの関心をもつ	家族の食卓
10分	⑤ **世界の多様性と身のまわりの多様性**【ブレスト（リスト）】 世界には多くの多様性があり、同じように学校にも様々な多様性が存在することに気づく。	半模造紙
12分	⑥ **多様性が認められないと・・・**【派生図】 多様性が認められない学校でどんなことが起こるかを考える。	半模造紙
20分	⑦ **多数派少数派ゲーム**【シミュレーション】（やってみましょう）	シール
35分	⑧ **実践紹介・協力隊の経験談** 国際理解教育の実践事例や協力隊の経験から学ぶ。	協力隊経験のある先生・JICA 推進員の方
25分	⑨ **わたしの国際理解教育**【KJ 法】 自校の状況を把握し、国際理解教育を自分ごととして捉える。	半模造紙
25分	⑩ **解決のための手立てを考える。**【対比表】 同じ立場の人同士で、国際理解教育の実践するためにできることを考え、行動計画を立てるための参考にする。	半模造紙
15分	⑪ **自分の立場から、行動計画を書く。** 国際理解教育を実践するための自らの計画を作成し、実現へのきっかけとする。	A4 用紙

成 果	国際理解教育の特徴である「参加型で学ぶ」ということの良さを体感しながら、多文化共生について知っていただくことができた。国際理解教育に興味をもつ先生方が、実践に向けて一歩踏み出すためのきっかけを作ることができたと考える。
課 題	プログラムの内容を詰め込みすぎたことで、参加者が負担を感じる場面があった。 もっと身近で簡単に取り入れやすい実践例を紹介することができたら、初めて実戦に挑戦する先生方も真似しやすかったと思う。
備 考	今回は、岐阜県内の小・中・高の先生方を対象とした選択型研修で実践をさせていただきました。岐阜県で国際理解教育に携わる先生が一人でも増えるように、これからも自分にできることを実践していきたい。

Ⅶ 開発教育指導者研修（実践編）第4回

■ 開催概要

◆ 日 時：2024 年 2 月 24 日（土）10:00～18:00
◆ 場 所：JICA 中部なごや地球ひろば 2 階 セミナールームA
◆ 参加者数：一般受講者 31 名、NIED スタッフ 5 名、JICA スタッフ 3 名 合計 39 名
◆ ファシリテーター：（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子

■ 第４回のねらい

① 実践の成果と課題を共有し、1 年間の学びをふりかえり、開発教育の意義と可能性を確認しあう。
② 開発教育を通して学んだことを一般に向けて発表し、学びの好循環を作る「はじめの一歩」を踏み出す。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修のふりかえり」 2/24 10:00–11:05

1. 主催者挨拶／第4回のねらいの確認 10:00–[15]

◇ JICA 中部 奥田職員が、開会を宣言した。
◇ ファシリテーターが、本研修全体の流れとねらい、第4回のねらいについて説明した。
◇ 実践報告フォーラムに向けて各自名札を作成した。

2. アイスブレーキング 10:15–[25]

◇ 次の2つのアイスブレーキングを行った。
①自分の大切なモノでモノローグ
・わたしの大切なモノを 10 個リストアップした後にその中から 3 つを選んだ。
②60 秒メッセージと傾聴
・ペアをつくり、わたしの大切なモノ 3 つを 60 秒で伝え、聞き手は傾聴を意識して聞き合った。

3. 第1回～第3回のふりかえり 10:40–[25]

◇ 個人で、資料「第 1 回～第3回研修アクティビティ一覧」を読み、3つの視点でのふりかえりを A4用紙に書き出した。①研修を通してわたしが学んだこと3つ、②自分の中で変化したこと2つ、③もっと知りたくなったこと 1 つ
◇ グループで、3つの視点でのふりかえりを紹介し合った。

● セッション2 「実践の共有」 11:05–14:30

1. 実践の共有 11:05–[15]

◇「実践報告フォーラム 2024」における実践報告の流れをファシリテーターが説明した。

<実践報告の時間配分>
発表者の持ち時間 14 分/1 人×3 回（9 分以内でプレゼンテーション、残りの時間～14 分までで質疑応答）

◇ 個人で、グループメンバーの実践（「実践報告シート集」）を読み、メンバーの実践について「いいね!」と「聞きたいこと」をメモしながら、実践の概要を確認した。

2. 実践報告 11:20–[130]

◇ 翌日の実践報告フォーラム 2024 の準備も兼ね、本番と同様の流れで、グループ内で順に報告を行った。質疑応答では、実践して分かったことや、よりよくするための提案も話し合った。

- **休 憩** - 12:15–[60]

◇ グループを替えて、同様に報告を行った。

● セッション 3 「実践の成果とネクストステップの共有」 14:30–15:52

1. 体験して実感した開発教育の可能性～実践を通した成果・よい影響（自分／学習者／周囲） 14:30–[35]

◇ ファシリテーターが番号を振ってグループを替え、実践報告の感想を一言で紹介し合った。

◇ グループで、研修参加と実践を通して得られた成果・よい影響を、①自分、②学習者、③周囲（同僚・保護者・地域など）の3つの視点で模造紙にまとめた。

◇ 自由に動き回って、良いと思うアイデアに★印を付けながら他のグループの成果物を見て回った。

◇ グループで、★印を付けたアイデアを共有した。

【「開発教育・国際理解教育の実践で得られた成果・よい影響（自分／学習者／周囲）」の成果例】

①自分にとって
・仲間と出会えた ・肯定しようという気持ちが高まった ・責任感が生まれた ・世界で起きていることを自分事に
・教科の可能性を探るようになった ・授業の引き出しが増えた ・学習者の知らなかった一面を知った
・自分の活動を発信できる ・開発教育のハードルが下がった ・低学年でもできることがわかった

②学習者にとって
・視野が広がった ・外国やニュースに興味を持つようになった ・意見を言い合える環境 ・アイスブレイクやりたがる
・日本国籍ではない子がのびのび ・違いを受け入れられるようになった ・意見が発表できる／聞くことができる
・探求のおもしろさに気づいた ・学校に行くのが楽しい ・肯定的に受け止めるようになった

③周囲（同僚／保護者／地域）にとって
・会議が参加型で意見を言いやすくなった ・同僚に開発教育を身近に感じてもらえた ・同僚との絆が深まった
・仲間の新しい一面を知った ・学校間のつながりがうまれた ・おそれずに挑戦できる環境が作れた
・保護者も巻き込めた ・周囲が肯定的に ・同僚に協力してもらえた ・他の先生も巻き込んでできた

2.「持続可能なよりよい未来を創る人を育む教育者」の使命 15:05–[42]

◇ じゃんけんをしてグループ替えをし、「お似合いのイニシャル」をお題に一言自己紹介をした。

◇ グループで、持続可能なよりよい社会を創るために、①必要な知識・情報、②大切な価値観、③育てたいスキルを考え、模造紙に書き出した。

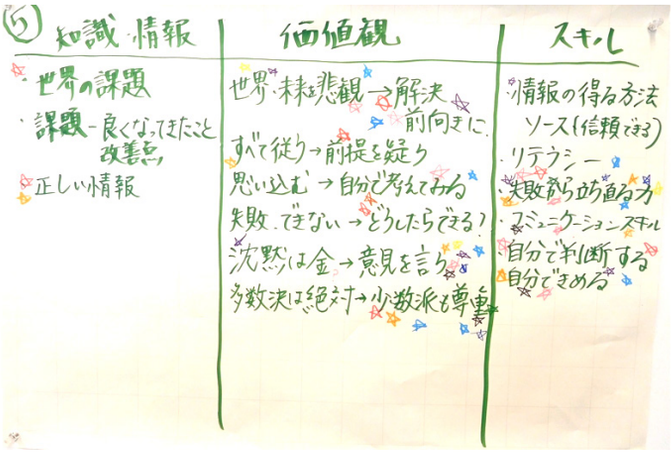
◇ 成果物を回して共有し、良いと思うアイデアに★印を付けながら他のグループの成果物を見て回った。

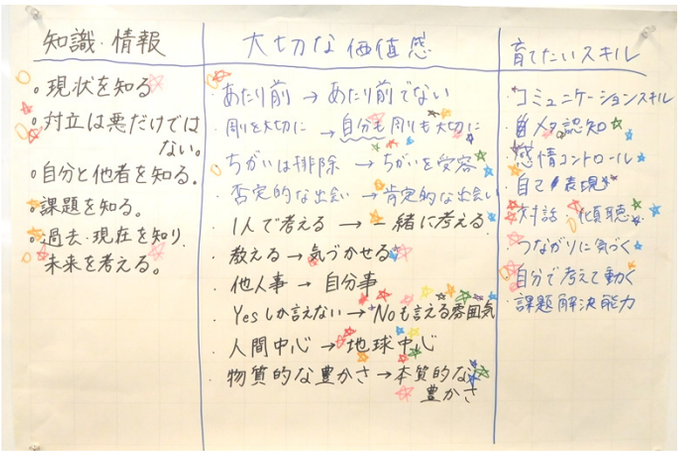
◇ 持続可能でよりよい社会を創るために、教育者の使命は何か考え、「私たち教育者は〇〇する！」という文章を50音行動宣言として書き出した。

◇ グループで担当して書き出した行を読み上げて共有した。

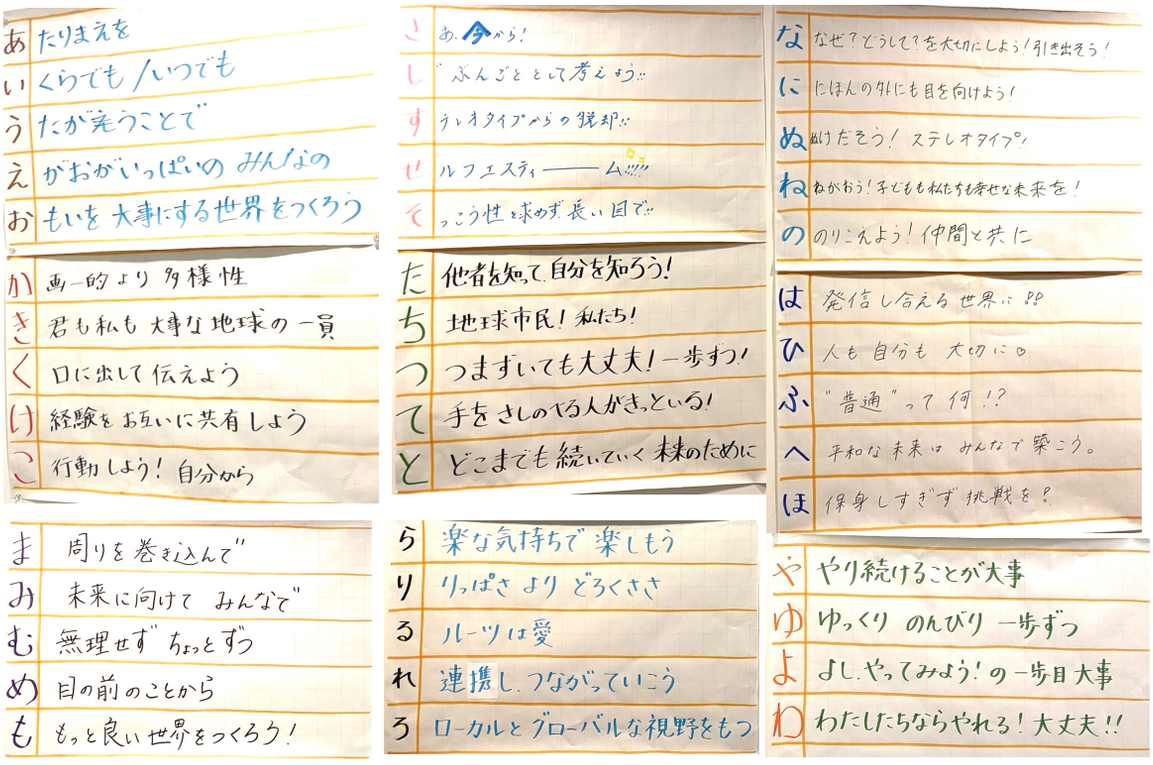
◇ グループで、研修の感想を一言ずつ共有した。

【「持続可能なよりよい社会をつくるために、必要な知識・情報／大切な価値観／育てたいスキル」の成果例】





【「持続可能なよりよい未来をつくる人を育む教育者の使命 50音行動宣言」の成果例】



- **休 憩** - 15:47–[05]

● **セッション4 「実践報告フォーラムの準備（全体）」** 15:52–16:30

1. 実践報告フォーラム2024の進め方と各自の動きの説明 15:52–[23]

◇ 配付資料「実践報告フォーラム 2024 の進め方」を基に、当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明した。

◇ 質疑応答を行った。

2. フォーラム参加者に持ち帰ってほしいこと、期待すること、自分が貢献できること 16:15–[15]

◇ 実践報告フォーラム 2024 の最後に挨拶をする受講者代表者を決めた。

◇ 実践報告フォーラム 2024 を通して、「参加者に持ち帰ってほしいこと」「自分が明日に期待すること」「自分が明日貢献できること」を、グループ内で発表し共有した。

● **セッション5 「実践報告フォーラムの準備（チーム or 個別）」** 16:30–18:00

1. 有志ワークショップ／教師国内研修報告／個人の実践報告の準備及び相談 16:30–[80]

◇ 実践体験ワークショップの有志4チームは別の会場に移動し、それぞれの打合せを行った。

◇ 実践報告の準備と会場設営を行った。

2. 事務連絡 17:50–[10]

◇ 実践報告フォーラム2024に向け、事務連絡を行った。

★ 18:00 **終了**

Ⅷ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2024

■ 開催概要

第１部「実践報告フォーラム」

◆ 日 時:2024 年 2 月 25 日 (日) 10:00~16:00
◆ 場 所:JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
◆ 参加者数:一般参加者 128 名、受講者 32 名、JICA5 名、NIED 6 名、合計 171 名
（一般参加者内訳:教員 92 名、学生 11 名、JICA 関係者 8 名、その他 17 名、
愛知87名、岐阜８名、三重12名、静岡９名、北陸３名、関東・関西・九州９名）
◆ ファシリテーター:（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏、研修受講者

第２部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」

◆ 日 時:2024 年 2 月 25 日 (日) 16:15~18:00
◆ 場 所:JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
◆ 参加者数:過年度受講者 21 名、本年度受講者 31 名、JICA5 名、NIED 6 名、合計 63 名
◆ ファシリテーター:（特活）NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2024 のねらい

第１部「実践報告フォーラム」

①【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
②【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
③【主催者】開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

第２部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」

① JICA 中部が過去 21 年に亘り“開発教育支援事業”の一貫として提供してきた「開発教育指導者研修（実践編）」の受講者有志が集まり、持続可能な社会の担い手育成の鍵となる開発教育・国際理解教育の中核的指導者として、仲間とつながり、実践を続け、実践の輪を広げていくための手立てを共に考える。

■ プログラムの内容

● **第1部「実践報告フォーラム」** 10:00－15:20

1. あいさつ 10:00 - [15]

◇ 主催者（JICA 中部 宮本次長）が主催者挨拶を行った。
◇ 開発教育指導者研修（実践編）および教師海外研修の概要をパワーポイントで JICA 中部 奥田職員が説明した。
◇ 実践報告フォーラム2024のねらいとプログラムについてファシリテーターが説明した。

2. 教師海外研修報告　10:15 - [20]

◇ 同行ファシリテーター挨拶の後、次の流れで、現地の写真と共に研修報告を行った。

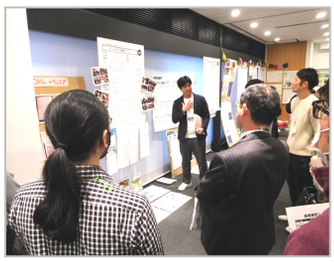
① ネパールクイズ

② 学びの柱と各訪問先の紹介、印象に残っていること

③ 本研修の目的と現地研修で得た学び、気づき、自分自身の変化

3. 実践事例ポスターセッション（実践報告） 10:35 - [100]

◇ 奇数番号を前半、偶数番号を後半に分け、実践報告シートや参考教材等を使いポスターセッションを行った。14 分間を一つの区切りとし、1 人 3 セッションの報告と質疑応答を行った。



4. 午後の部の説明　12:15 - [5]

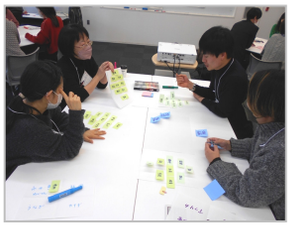
◇ ポスターセッション終了後、「午後のプログラム」「実践体験ワークショップのテーマと会場」「昼食」について説明した。

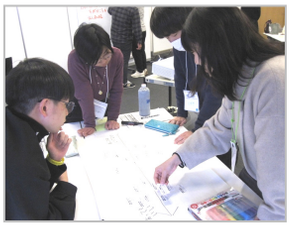
－ 休 憩 －　12:20 - [60]

5. 実践体験ワークショップ　13:20 - [120]

◇ 4 つの会場に分かれ、以下の4チームがワークショップを実演した。詳細は P.75~82 参照。

- 分科会 1:A1 会場…「〇〇は必要？」（多様性・必要性）
- 分科会2:A2 会場…「我々は地球人」（多文化共生）
- 分科会3:B1 会場…「守ろう環境！豊かな生活」（環境）
- 分科会4:B2 会場…「なくそう！偏見」（人権）





－ 移 動 －　15:20 - [10]

6. ふりかえり・閉会　15:30 - [30]

◇ 実践報告フォーラム 2024 のふりかえりを各自シートに記入した。

◇ 一般参加者 3~4 名から、本日の感想を全体へ発表した。

◇ 受講者を代表して大島俊介さんが、閉会のあいさつを行った。

★ 16:00 **終了**

● 第2部「ネットワーク会合 つながりワークショップ」 16:15－18:00

1. ねらいの確認 16:15 - [15]

◇ レジュメを基に第 2 部のねらいと進め方をファシリテーターが説明した。

2. 自己紹介「開発教育との関わり／開発教育の魅力／実践継続に必要なもの」 16:30 - [15]

◇ 5~6 人のグループを作り、「開発教育との関わり／開発教育の魅力／実践継続に必要なもの」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

3. 開発教育実践を継続するために、みんなでこんなことをやってみないかい?! 16:45 - [35]

◇ 次の流れで、開発教育実践を継続するためのアイデアと具体的なアクションプランを考えた。

① 中核的指導者としてこれからも開発教育の実践を続け、仲間とのつながりを築くために話し合いたいテーマをグループ毎にブレストする。→各グループ優先順位の高いテーマ2つを発表する。

② グループごとにテーマを発表し、ファシリテーターがホワイトボードに書き出して全体で共有する。

③ 整理されたテーマについて、「情熱と責任を持って話し合いを進めたい」人（リーダー）を募る。

④ 参加したいと思うテーマを個人で選ぶ。今回は「リーダーのなり手がいる」かつ「メンバーが3人以上いる」テーマのみプロジェクトとして扱う。

⑤ リーダーはメンバーとテーマを確認したのち、セッションを進め、情熱と責任を持って話し合い、 具体的なアクションプラン（目的と内容）を生み出す（模造紙に議事録を作成する）。

【「開発教育実践を継続するためのプロジェクトテーマと話し合い」の成果 】

- この教育の効果や取り組むことのメリット
- 情熱を持ち続けるための方法
- 地域に広げる方法
- 仲間に理解してもらう方法、協力の輪を広げる方法
- 無関心層へのアプローチ
- 低学年向けワークショップの内容と方法
- 学校や行政、他セクターとの連携のしかた、小中高の接続

4. プロジェクト毎のアクションプランと次回の約束の共有 17:35 - [20]

◇ チーム毎に話し合った内容を全体へ発表した。詳細は P.75~82 参照。

5. あいさつ・事務連絡 17:55 - [05]

◇ 事務局より、事務連絡を行った。

★ 18:00 **終了**

●実践体験ワークショップの内容［A1会場］

テーマ	多様性・必要性	タイトル	○○は必要？
ねらい	①生活に必要不可欠ではない○○（教科）をなぜ学ぶかを考える。 ②身近な教科をきっかけに「必要不可欠ではないと思っていること」を立ち止まって考えたり、見直したりするきっかけとする。意識をもつ。		
参加者	合計 29 人（内訳：参加者 23 人、提供者 5 人、スタッフ 1 人）		

時間	プログラム	参加者の反応
13:20	**1. アイスブレイク　仲間探し** ①好きな季節は？(a) ②好きな教科(b) ③大事だと思う教科(c)	(a)みんな手を挙げて好きなものを大きな声で言いながら短い時間で集合していた。 (b)好きな教科は社会、体育が多数派。理科なし。音楽は 3 人。 (c)大事な教科は、最初に「むずっ」と声が上がる。結果は、半数ぐらいの人が国語、次いで社会と英語。音楽は 0 人だった。
13:26	**2. 自己紹介　4つのうち1つウソ** ◇名前、出身地、好きな食べ物、行ってみたい国。(a)	(a)楽しそうな様子で自己紹介。盛り上がった様子。大きな笑い声も聞こえてきた。
13:38	**3. 教科を学ぶ上で必要な教科ランキング【ダイヤモンドランキング】** ◇個人(a)→グループで共有(b)（国語、算数、理科、音楽、体育、社会、英語、図工、家庭科） ◇グループのランキングをもとに、1教科考えるものをファシリテーターが決める。	(a)個人：難しい、という声がちらほら聞こえてきた。その割には意外と全員3分ほどで貼り終わった。 (b)グループ：決まったところからどんどん貼り出していくグループ、話し合い中心でなかなか貼り出さないグループ、様々である。それでも制限時間の3分＋αで全グループランキングし終わる。「1位国語、最下位図工はすぐ決まった。国語はなくては生きていけない、図工はなくても生きていける。」「図工、体育、音楽の下3つは他でも補える。」
13:50	**4. 教科○○の強み（良いところ）、弱み（悪いところ）は？【対比表】** ◇指定された教科の強み、弱みを、個人で付箋に書き出す。(a) ◇対比表に張り、グループ内で共有する。 ◇成果物を回して全体で共有する。 →付け足すことがあったら書き加える。(b)	(a)各教科、どんどん付箋に書き出されていく。 (b)付け足しも盛んに行われる。どの教科も半模造紙からあふれるほど付箋が張られていった。
14:10	**5. 教科○○がなかったら？【派生図】** ◇グループ→ギャラリー方式で書き足す。(a) ◇確かに！と思ったら星をつける。	(a)順調に書き進んでいる感じ。考えやすいようだ。
14:25	**6. プレゼンテーション準備** ◇小学生に「～なんかしたくない」と言われたときに説明するようなイメージ。(a) ※弱みを解決（納得）できるようなプレゼンテーションを作ろう！	(a)熱心に話し合っている。5で作った派生図を指さしたりさらに書き加えたりしながら話し合いをしているグループが多い。また、4で書き出した「強み」を張りなおして参考にしているグループもある。アクティビティが効果的に積み重なっているようだ。

14:50	**7. プレゼンテーション「〇〇は必要！」** ※子どもや不必要だと思っている人に対してどう伝えるかという視点でプレゼンテーションを考えてもらう。（フォシリテーターと他の班から質問する形。ロールプレイ的に話してもらう。）(a)	(a)劇で発表。 ・図工：図工の嫌いな生徒と先生の会話。笑いを取りながら図工の良さ（強み）を説明するストーリー。 ・家庭：：家庭科は必要ないという生徒と先生の会話。家庭科を勉強するとよいことを、話の進行に沿って少しずつ提示していた。 ・理科：科学の発展と理科との関係性を生徒に説明。医学の発展、天気予報などを例に出していた。 ・英語：疑問に思った子に3人の人が説明。小さい頃に言葉を通して他の人に気持ちを分かってもらったときのこと、外国の人たちとのつながりができること、最後に年代の近い高校生からのお話。 ・音楽：音楽の発表をしたい二人の子どもとしたくない子どもの間に立って説明する先生。嫌いだって気持ち自体を音楽で表そう。 ・設定が同じにも関わらず、どのグループも独自の色を出しつつ、見事にプレゼンしていた。全体的に笑い多数。
	8. まとめ・発展 ◇海外（ケニア・ネパール）の教育事情についての説明を受ける。(a) ・ケニアは JICA 海外協力隊 OV ・ネパールは教師海外研修受講者	(a)熱心に聞きいる。 ☆多様な教科を学ぶことに意味がある。 ☆他国の教科の例を紹介する（ケニアとネパール） ☆世の中の必要不可欠でないものについても今回のように問い直す。

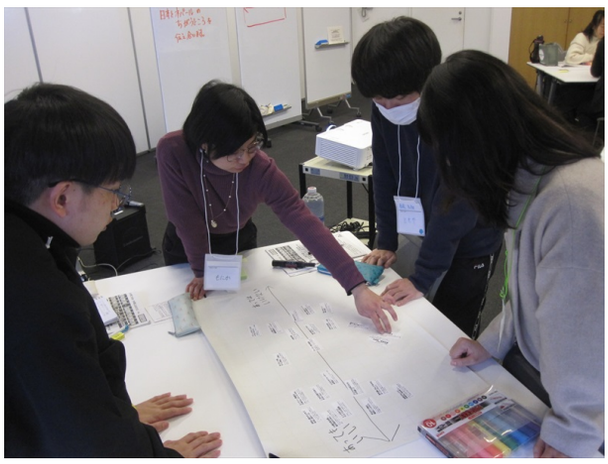
ワークショップの様子

●実践体験ワークショップの内容［A2会場］

テーマ	多文化共生	タイトル	我々は地球人
ねらい	だれもが心地よく過ごせる社会をつくっていくためにどうすればよいか考える。（多様性受容力）		
参加者	合計 32 人（内訳：参加者 24 人、提供者 7 人、スタッフ1人）		

時間	プログラム	参加者の反応
13:20	**1. 自己紹介** ◇「呼ばれたい名前」「所属」「ネパールと言えば」をテーマに自己紹介をした。(a) ◇参加者の所属を全体で「小学校の教員」「中学校の教員」「高校の教員」「大学生」「その他」の当てはまるものに手を挙げた。(b)	(a)最初は緊張していた様子だったが、打ち解けて盛り上がっていた。 (b)参加者の所属先はバランスよく分かれていた。
13::33	**2. 自分の価値観に気づこう** ◇ネパールの「街並み」「食」「市場」「出会った人」「学校」の写真を使って紹介した。(a) ◇紹介を聞いて「行きたい」「ちょっと行きたい」「分からない」「行きたくない」の該当する場所に移動した。(b) ◇グループに戻り、該当する場所を選んだ理由を紹介し合った。	(a)おいしそう！おお！などの楽しそうな声が上がった。 (b)参加者からの意見「食に関心があったので、行きたいに移動した」
13::50	**3. ネパールについて知ろう！** ◇ネパールのエピソードについて書かれている 10 のカードを分担して読み、「カードに書かれている内容」「日本とネパールの違うところ」をグループで伝え合った。(a)	(a)参加者からの意見「教室の設備が日本と比べると整っていない」
14:00	**4. あってもよい違い、だめな違いは？** ◇ネパールを紹介する様々なちがいカードを「あってもいい」「あってはいけない」に模造紙上に分類分けした。(a) ◇グループの中で 1 人を残し、他のメンバーは移動し、他チームの分類分けについて説明を聞いた。(b) ◇元のグループに戻り、他のグループとどこが違っていたのか、共有した。	(a)ネパールと日本の様々な違いにふれて、活発な意見を出し合いながら分類分けしていた。 (b)「私たちのグループとはここがちがった」と話し合い盛り上がった。
14:20	休憩	
14::30	**5. なぜ外国人を受容できないのだろう？** ◇ファシリテーターからクイズ：166,611 人/9688 人は何の数字か分かりますか→静岡県磐田市の人口、磐田市の外国人の数」だった。そして今までの人口推移、外国人と日本人の親しみ度が低いことを共有した(a)	(a)参加者から「へぇ」などの声があがっていた

	◇模造紙の真ん中に「なぜ外国人を受容できないのか」と記入し、その原因を考えた(b) ◇模造紙を回して他のグループの意見を共有し「なるほど」と思った意見に★を付けた。	(b)参加者からの意見「言葉がわからない」「外国人と接する機会がない」」「違いが目立つ」
14:55	**6. 誰もが心地よく生きられる社会に必要なことは？** ◇誰もが心地よく生きられる社会のために必要なことを模造紙に箇条書きで書き出す。(a) ◇席を立ち他のグループの意見を見て周り、いいなと思った意見にハートマークをつけ、グループに戻り感想を共有した。(b) ◇出した意見を参考に、これから自分がやってみたいことトップ３をA4用紙に個人で書き出し、グループ内で共有した。(c)	(a)だいぶ打ち解けてきて、話し合いが活発になり様々な意見が出ていた。 (b)参加者からの意見「多言語表記」「政府に働きかける」「外国に行こう」「コミュニティに参画する機会を増やす」 (c)参加者からの意見「多文化共生を教室で実現する先生を育てる」「地域の外国人コミュニティに参加する」「外国人と料理を一緒に食べる」
15:10	**7. ふり返り** ◇このワークショップに参加した感想を共有し合った。(a)	(a)参加者からは次のような意見があった「あっという間だった」「普段考えることのない外国人やネパールのことを考えることができてよかった」



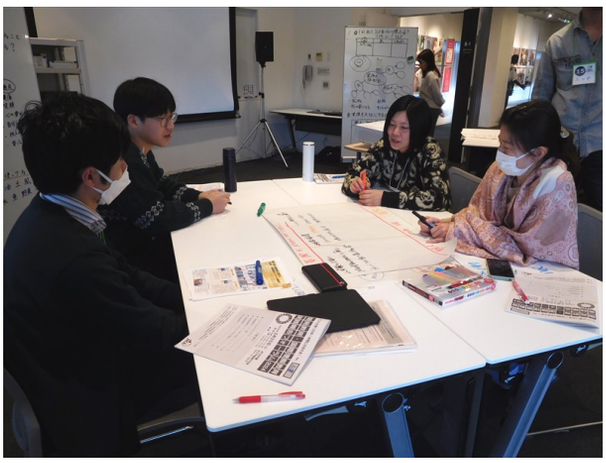
ワークショップの様子

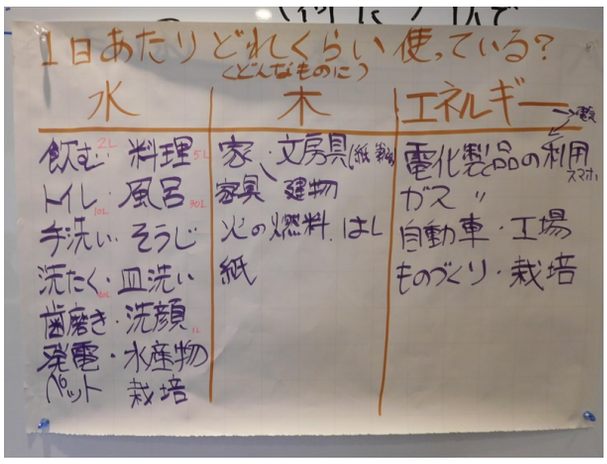
●実践体験ワークショップの内容［B1会場］

テーマ	環境	タイトル	守ろう！環境！豊かな生活！
ねらい	①環境を無視して開発を続けると、自分たちに被害が返ってくることに気づく。 ②人々が豊かに暮らし、かつ資源を大切にすること（持続可能な開発をすること）についてのイメージをもつ。		
参加者	合計 21 人（内訳：参加者 16 人、提供者 4 人、スタッフ 1 人）		

時間	プログラム	参加者の反応
13:20	**1. アイスブレイク** ◇次のお題の回答をA4用紙に書き出し自己紹介をする。①呼んでほしい名前、②最近はまっていること、③10億円あったら何する？（a）	（a）拍手を送り合いながら、特にお題③が盛り上がった。
13:32	**2. 自分にとって、豊かさとは？** ◇自分にとって豊かだと思うことや行動３つを紙に書き、グループで紹介し合う。（a） ◇グループ全員に共通するものをグループで話し合う。→全体で共有。（b）	（a）参加者からの意見「精神的に満ち足りること」「自分の好きなこと・やりたいことができる」「衣食住が満足にある」 （b）参加者からの意見「健康でいられる」「自分らしく生きる」「他者のことを考える余裕がある」
13:42	**3. どんな天然資源を使って生活している？** ◇普段の生活でどんな天然資源を使っているか、リストアップする。→全体で共有（a）	（a）他のグループのアイデアに「あ～」などと声が上がった。次のようなアイデアが出た。「鉱物」「動植物」「風力」「太陽光」「石油」「海水」など
13:56	**4. 水・木・エネルギー資源を何に使っている？** ◇生活の中で、水・木・エネルギー資源を何に使っているか対比表に書き出す。→全体で共有（a） ◇1日の水の使用量について、日本と世界の現状についてデータを紹介する。	（a）活発にアイデアを出し合った。
14:16	休憩	
14:30	**5. 環境を無視して資源を使い続けるとどうなる？** ◇資源を使いすぎるとどうなるのか、派生させながら考える。（a） ◇自由に動き回って他のグループの成果物を見て回り、自分のアイデアを書き足す。 ◇グループで、書き出されたアイデアの中で最悪な結末だと思われるものにドクロマークを3つ付ける。→全体で共有（b）	（a）活発に意見交換しながら、多くの意見を書き出していた。 （b）参加者からの意見「死の星になる」「飢餓」「生きるのがしんどい」「争いが起こる」
14:52	**6. 限りある資源を大切にするためにできること** ◇個人、地域、国や国際社会の3つの視点でできることを対比表に書き出す。（a）	（a）活発に意見交換しながら、多くの意見を書き出していた。

	◇自由に動き回って他のグループの成果物を見て回り、イイネ！と思う項目に★マークを付ける。(b)	(b)多様なアイデアに触れ、視点が広がった。どのグループの成果物にも、多くの★マークが付けられた。
15:10	**7. ワークショップを振り返る** ◇自分が実行していくことや意識していくことを、3つ書き出す。 ◇書き出したことと、ワークショップに参加した感想をグループで共有する。(a)	(a)お互いの行動宣言に拍手を送り合い、活発な意見交換がされた。





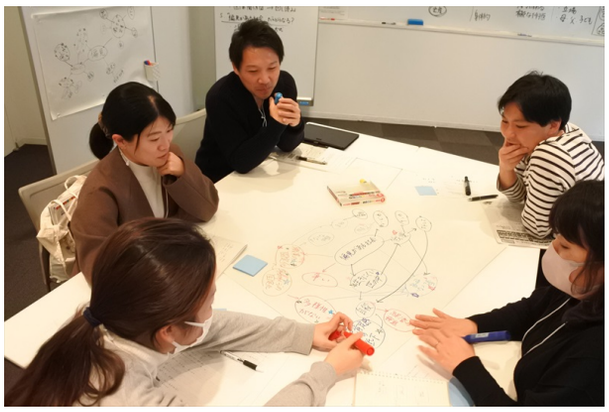
ワークショップの様子

●実践体験ワークショップの内容［B2会場］

テーマ	人権	タイトル	なくそう　偏見！
ねらい	①自分のもつ思い込みの中に、偏見があることに気付く。 ②偏見をなくそうとする意識をもつ。		
参加者	合計 24 人(内訳:参加者 18 人、提供者 5 人、ｽﾀｯﾌ 1 人)		

時間	プログラム	参加者の反応
13:20	**1. アイスブレイク**　3つのホント・1つのウソ ◇提供者が例文を披露し、4つの文の作り方を紹介する。(a) ◇自己紹介文4つをA4の用紙に書き、一人ずつ自己紹介し、どの文がウソかを当て合った。(b)	(a)最初は緊張している様子だったが、自己紹介をしていく間に話がはずんできた。 (b)ウソが当たっても当たらなくても、そこから話が盛り上がっていった。笑い声もたくさん起こった。
13:40	**2. 男女のイメージマトリクス**　【マトリクス】 ◇キーワードのイメージを縦軸「男―女」、横軸「身体的―社会的」のマトリクス上に配置する。(a) ◇ギャラリー方式で他のグループの成果物を共有する。 ◇配置に迷ったキーワードを挙げた。(b) ◇「思い込み」にまつわる話をする。（ある外科医の話）「男性」と言ってなくても、男性のことだと思いこんで聞いていることがある。(c)	(a)それぞれがもっているイメージがすべて一致しているわけではなかったが、さまざまな考えに共感や納得したりして合意形成し、マトリクス上に配置していった。 (b)迷ったキーワードとして「掃除」「会社で働く」「料理」「子育て」「給料が高い」が挙げられた。迷わなかったものとして「出産」が挙げられた。 (c)「ん？？」「お父さん2人？」などと思った参加者がいた。
13:55	**3. 「〇〇だから〇〇」のような思い込みは他にはない？**　【ブレスト】 ◇提供者が例文を提示する。 ◇「〇〇だから〇〇」に当てはまるものを個人で付箋に書き出す。(a) ◇半模造紙に付箋を貼りながら、グループで意見を共有する。(b) ◇ギャラリー方式で他の意見を見て回り、自分が言われたら嫌なものにドクロマークをつける。 ◇資料を配布して偏見の定義を確認する。	(a)最初は「全然浮かばない・・」という声もあったが、「〇〇人だから時間にルーズ」「九州出身だからお酒が強い」「女だからピンクが好き」「B型だからおおざっぱ」などたくさんの文が出された。 (b)他のメンバーから出された意見に「あ～」「確かに」と納得する声がたくさん上がった。
14:13	**4. 「偏見」が生じるのはなぜ？**　【因果関係図】 ◇偏見が生じる原因を因果関係図に書き出す。(a) ◇回し読みで他のグループの模造紙を見て、「なるほど」と思ったところに星マークをつける。(b)	(a)偏見が生まれる原因として「教育」「経験」「時代」「メディア」「知らない」などが出された。自分の経験を話す参加者もいて、それに共感しながら派生図が広がっていった。 (b)「そうだね。」「うんうん。」など反応しながら星マークをつけていた。

14:30	**5.「偏見がある社会」だと、どうなる？【派生図】** ◇偏見がこのまま続くとどうなってしまうのかを派生図に書き出す。(a) ◇ギャラリー方式で他のグループの意見を見て回り、「なるほど」と思ったところに星マークをつける。 ◇模造紙を見て、感じたことを共有する。 ◇「こんな未来はいやだ」と思う3つを A4 の用紙に書く。(b)	(a)「人のことを信じられない」「いじめ」などの意見が出た。 (b)「戦争をする国」「思ったことが自由に言えない」「居場所がない」「中庸がない社会」「多様性がない世界」「命が守られない」「偏見を受ける人だけでなく、誰にとっても不利益な社会」などが挙げられた。
14:50	**6. 偏見をなくすための行動宣言** ◇偏見をなくすための行動宣言を書く。(a) ◇今日、印象に残ったことや学んだことなどをふりかえる。(b) ◇ファシリテーターから一言ずつ話をする。	(a)「正しい情報を知る」「自分の考えを疑ってみる」「相手のことをもっと知る」「学ぼうとする姿勢をもつ」「相談を受けやすい人になる、職場にする」などの考えが出た。 (b)「学校でもやってみたい。」「自分自身の中の偏見に気づくことができた。」「気になっていたことを今日のワークでみんなで話し合えてよかった。」などの感想が出た。



ワークショップの様子

第2部つながりネットワーク会議 成果物

開発教育でつながる！ 開発教育をつづける！ 開発教育がひろがる！ 今日、ココで、みんなと話し合いたいテーマ

① この教育の効果や取り組むことのメリット

・どの学年でもできる→グループで学びあえ取り残しなし→集団のボトムアップになる
・理解力に深みがでる→高い学力につながる（テストの得点能力にも）
・みんなが主体的に楽しく学習に取り組むことができる
・参加型の手法→対話ベース→教科横断的な学びが生まれる
・視野拡大→（実践から生まれる）汎用的な学び
・不登校やセンシティブな子どもへの効果→いじめなくあたたかい雰囲気に
・悲観→楽観的に物事を捉える機会となる
・福祉の分野でも有用（児童福祉施設職員の話し合いの場でも活用）
　→職員の意識改革→児童の生活環境のボトムアップ

② 情熱を持ち続けるための方法

<継続につながることは?>

・職場の環境による　・単純におもしろいこと　・ココでの出会い（外部の仲間が増えた）
・伝えたい想いがある　・考えることが楽しい（子どもたちもいっしょに）
・SNS 発信　・職員室の回覧板　・疲れたら休む

<続けられないのはなぜ?>

・職場に理解がない→校内に仲間を増やす／同僚と協働／研修に誘う→少し慣れると意見が通りやすくなる
・自分のものにできたという自信がほしい

<教科は?>

・総合　・どこでも。廊下でも！　・半径 5mの人を幸せにしようよ　・特別支援はなんでもあり
・教師としての生き方　・子どもの変化や成長が教師にパッションをくれる

【具体的なアクションプラン】

① 校内に仲間を増やす。先ず 2 人。1 人だと点→2 人なら線→3 人だと面
② 誘ってみて一緒に研修に参加する
③ 同僚と協働しよう、授業や研修。

③ 地域に広げる方法

<それぞれの想い>

・関心層が隠れていて情報が届かない
・PTA 改革！「地域が子どもを育てる」という学校風土を作りたい → 地域が高いアンテナを持つ必要
・学校教育に固執しない教育とは?　・はま国ネット（浜松国際理解教育ネットワーク）との関わり
・学校教員向け研修を行っているが、地域までその取組みの共有方法がわからない
・保護者や高齢者を PTA に巻き込みたい
・地域にある地元企業との連携や地域人材を発掘したい
・社会教育としての JICA 研修　・学校以外の場、公民館や国際交流協会における研修

【具体的なアクションプラン】

※学校教育　・初任者研修　・ウエルビーイングな学校づくり　・日本語コース（高校に学科を作る）
・大学の教員養成　・学校を開かれた場所（居場所）に
・JA 米づくり／子ども稲刈り→売り上げで外国の絵本

※家庭教育　・PTA 主体エントリー制　・イベントへの参画・参加　・PTA 勉強会

※社会教育　・行政（県や市）と連携　・地域教材　・地域のリソースパーソンを見つける
・JICA 拠点デスクの働きかけ　・自治体との連携　・NPO と連携
・公民館を拠点として居場所作りとそこでの WS　・モデル・タウンを作る
・地域のニーズを確認する　・一緒にできる場所を作る

④ 仲間に理解してもらう／協力の輪を広げる／校内研修に取り入れる／隣の先生のハードルを下げる方法-

<対教師>　・コミュニケーション不足に起因 → 相互に理解しあえる関係づくり＝自分から発信する勇気
・メリットを可視化する → とりあえず見て！　・ターゲットゴールが明確になると良い
・メリットを挙げる（児童・生徒の講堂変容／学級の在り方／目先の利益）

<対児童・生徒>　・自分ごととして認識　・身近なことから　・楽しそうだと思わせる　・相手のニーズを探る

【具体的なアクションプラン】

※身近なこと、自分ごととして取り組めることを参加型で楽しく実践する！
→生徒から教師に波及 「楽しかったよ！」のひとことで大人は動く！

・担任に参加型授業を見てもらう／授業を見に来てもらう／何でも授業公開／研究授業で参加型を取り入れ／子どもたちがイキイキしているところを先生たちに見てもらう
・同年代の同僚からつながりを作っていく／研修会に誘う／仲良くなって一緒に研修会に参加する／まずは近くの先生と話す
・楽しさを実感する／面白さを伝える／職員構内研修を開く／模擬授業を先生たちにする／教員みんなでやってみる／他クラスで授業する（できれば TT で）
・学級通信で紹介する／子どもの成長を発信する／先入観を変える（〇〇教育って難しそう）
・朝の 15 分から／机に置く、貼る／掲示物でじわじわと／教材の提供／指導案を共有する／授業デザインを紹介する／既存のプログラム実践を紹介する／フォーラムの指導案を教育課程に入れる／教科でさりげなく盛り込む（を繰り返す）
・魅力を伝えて四役に理解してもらう

⑤ 学校、行政、他校との連携／小中高の接続・連携----------

<小中高の連携の課題>　・小中高で学習内容→ESD カレンダー　・系統だったシラバス
・各校でバラバラ　・小中高の接続のためにポートフォリオほしい
・高校ではどの授業で実施可能？

<行政との連携の課題>　・予算必要　・管理職の理解　・事前打合せの時間　・情報を伝えることが難しい
・出前講座はどこに頼む？　・校外研修は毎年ほぼ定番の場所になる
・学校現場を知らない　・マンパワーが必要

【具体的なアクションプラン】
①「キャリアパスポート」に追記（新たな項目を作る）
②小中高それぞれ動けることを繰り返し発信する
③学校ごとの国際理解教育の「教育ポートフォリオ」をつくる！
④実践例を共有する
⑤NPO／NGO の人々も実践編に参加してもらう → ニーズ把握／情報共有

⑦ 関心層へのアプローチ方法----------

<1．ものを見せる→興味を引き出す>
・成果物を見えるところにおく／先生向けのポップを作る／実践前のパワポを見せる

<2．子どもの姿を見てもらう>
・子どもが変容する姿を見せる／生徒が楽しんでやってるから来て！

<3．同僚を巻き込む>
・背中で語る／指導案は作らず公開／努力点の公開授業で取り入れる／面白いことやるから見に来て！／取りあえずやってもらう／一緒に１つのプログラムをする／自分が作ったプログラムを同じ学年でやってもらう

<4．場をつくる>
・アイスブレイクなど簡単なことをやる、紹介する／サークル活動で中部 JICA での学びを伝える／研修主任から授業について伝えてもらう／学んだことを伝える
↓
※ 協力者を１人でも学校内に作る！

⑧低学年向けワークショップの内容や方法----------

<ヒットしたこと>
・国名あいうえお（カタカナ）　・ロールプレイ　・インプロ　・写真や視覚的なもの　・かるた、ゲーム
・絵本　・協力ゲーム　・ソーシャルスキル　・体感　・遊び　・お悩み相談

<むずかしかったこと>
・グループワークが脱線する　・派生図　・一緒に考えること　・人の意見をつなげて考えること
・限度を知らない、見通しが持てない　・人と関わること
・完璧は求めない

<やりがい>
・国語の読み取り力アップ　・自他に関する意識の向上　・耕すことができる（偏見がないからこそ）
・アレンジすればできる　・非言語

【具体的なアクションプラン】
※目的：低学年向けの開発教育の効果的な方法を共有するため
★フェイスブックに投稿する／ラインでのオープンチャット

以上

● ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。

「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- 多面的、多角的に物事を考えることの大切さに気づけた。気づくための手法も学べた。
- 自分にできる SDGsや開発教育について多くの気づきがあった。
- 外国について肯定的に捉えることから始める。ちがいを見つけ受入れること。そしてみんなが幸せになるために自分ができることを考える、という流れがわかった。
- 教員の方々が、1 つひとつの授業に対して熱い思いを持って挑まれているんだなって分かって、心があったかくなった。そして、キラキラして見えた。
- テーマが同じでも様々な考えやアプローチがあること。
- 自分の子どもが学校で本日のような授業を受けられたら嬉しい！
- 授業でやってみたいなと思うことがたくさんあった。ワクワクな気持ちでいっぱいになった！
- 各学校の実践を多く見ることができとても勉強になった。総合だけでなく、多くの教科につなげられることも学べてよかった。
- 実際に自分が指導している方法とは別に指導方法があることが知れた。
- 先生方の学びを通してネパールのことを知れた。教師海外研修が与える影響はすごいなと思った。
- 多くの人がよりよい社会に向けて自ら社会を変えようとしているのが嬉しかった。
- どの校種、学年、教科であっても国際理解教育は実践可能であること。
- もっと難しいかと思っていたが、授業につなげられそうなことがあったのが発見。
- 小中の先生方の実践に触れることは普段あまりないので、多くの実践がとても新鮮だった。
- 外国人児童に対してどうしたらいいのか学ぶきっかけになった。
- 課題よりまず地元、日本の良さを知ること。
- 気の合う知り合いができたこと。
- 途上国のネガティブなイメージ（偏見）は、その国にとっては普通のことで当り前のことなので、その偏見をなくしたい。
- 若い方たちが、日本から海外へ目を向けイキイキと自分の活動をしていること。
- 参加型ワークショップの短時間で多くの気づきを得られること。
- 多様な立場の人が多くいたグループだったので、いろんな目線で話を聞くことができた。
- 熱量の高い参加者のみなさんとの交流、インプット、ワークショップで大変有意義な時間となった。
- いろんな先生の実践を見て取り入れてみたいと思えることがあったこと。
- どの発表も大変興味深く、自分たちの生活に直結していると感じた。
- 先生たちが楽しく実践されていることが伝わってきて嬉しかった。

「発見したこと、嬉しかったこと」2 回以上参加者

- 多くの人がこの研修に参加しているのを見て嬉しくなった。ここに来れば仲間がいて頑張れると思った。
- 2 年前に卒業した教え子が参加していて、国際理解教育の授業を継続してきてよかったと思った。
- いきいきと愉しそうな実践報告を聞くことができ、ヤル気出た！
- 久しぶりに対面で会えたのが嬉しかった。
- 昨年度の自分の実践が、今年度の受講者の実践につながっていたこと。
- おみやげがいっぱいあった！またプログラムを作りたい、学びたい意欲が高まった。
- 多くの実践報告を聞いて、先生方 1 人ひとりがねらいや目的を持って単元を構想し、思いを込めて実践したことが伝わってきた。
- 同僚がこの研修を受けてがんばっている姿を見れたこと。
- やっぱり教師海外研修で実際に海外に行けているとフォーラム全体の熱量が高いなあと思った。仲間が頑張っている姿を見て嬉しくなった。
- 環境教育に取り組んでいきたいと思っている仲間が得られたこと。
- 同じ思いで行動している仲間がいる！
- 同じ活動をしても、そのときの自分の考え、参加者により学びが違う。常に学ぶことは大切。
- 若い人たちが様々なツールを駆使して生徒の気づきの築きを促す授業を実践している姿に感動した。

「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- 自分の経験や実践を伝えられる場があること、聞いてくれる人がいることの喜び。
- 多くの人に自分の実践に興味を持ってもらえ、他の実践からは刺激を受け、更にやってみたい気持ちが高まった。
- 自分の実践を伝えるだけではなく、ファシリテーターとして活動できたこと。
- 高校生が来ていて、教員としてのモチベーションとなった。
- 自分の同僚が来てくれて興味を持ってくれたこと。
- 学生の方も一緒になってワークショップに参加して、楽しく対等に学べた。
- 実践したことを自分でも見直し、もっとこんなことできたなーという発見と、計画したことを実践できた嬉しさ。
- いろんな場面で国際理解教育を行うチャンスがあること。
- 他の教員仲間ががんばっているという事実。
- 自分が興味を持っている分野の方々とたくさんのつながりが生まれたこと。
- やってみたい！まねしたい！実践がたくさんあって、来年度が楽しみになった。
- 自分たちが考えたワークショップを楽しんで取り組んでくれたことが嬉しかった。
- 開発教育・国際理解教育について、これだけ多くの人たちが興味関心を抱いており、仲間がたくさんいたこと、出逢えたこと。

「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 物の見方を変える。考えるための手法を是非使っていきたい。
- まずは友人、そして地域、それから・・・とどんどん発信を続け、多くの人と行動が起こせるようにしたい。
- 派生図、ギャラリー方式など、いろいろな手法があることがわかり、教員として現場で活かしていきたい。
- 子どもたちに楽しい学びになったと思ってもらえるような国際理解教育や環境教育がしたい。
- ポスターセッションの報告者の言葉に「点と点をつなげて広く展開していく役割をしたい」とあり、自分もそのような働きをしようと思う。
- この研修を地域の研修につなげたい！
- ちがいを楽しむ。多文化共生へのアクション（例：BBQ、お菓子交換、話しかける）。
- 実践発表を聞き発表者の工夫に刺激を受けた。自分の学校で実践をしたい。
- SDGs＋フェアトレードなど、単元にあるようなこともあったので、今日得たアイデアを取り入れていきたい。
- ワークショップで行った思考の広げ方など、総合探究の時間に取り入れていきたい。
- 色々な教科を越えて実践されていて、自分も参考にしたい。
- 今日の学びとつながりを活かして子どもの教育がよりよくなることを見つけ実践していく。
- JICA の研修に参加したいと思った。
- 子どもたちに伝えること、一緒に考えること、それがつながりになっていくのかなと考えた。たくさんの思いを持ってそれを広げたい！
- 人とのつながりを増やしていきたい。
- 海外の人との接点を持ち知見を増やすこと。
- 外国人と仲良くなりたい人の架け橋になりたい。
- 環境教育をするさいに、今日学んだことを活かす。
- 国際理解教育を進めていこうとしている教員がたくさんいる、ということを知り、自分も実践していきたいと思った。
- 自分ができることは何かをよく考え、地道に続けていきたい。

「つなげていきたいと思ったこと」2 回以上参加者

- 今実践していることをとにかく続けていく！
- 健康と地球環境のために生活を見直す。
- 今日の学びを学校の研修に取り入れる。
- 自分には思いつかない様々な実践を知れた。教師自身が広い視野を持ち実践されていることがわかった。
- 本日の学びを活かして次は実践者になりたい！児童生徒を育てる側になりたい！
- SDGsと関連させながら、開発教育・国際理解教育をつなげ、一人ひとりが行動できるような実践を広げたい。
- 教員だけではなく、NGO／NPO とのつながりを作る。
- 参加型手法を授業の様々な場面に取り入れる。
- 人権や環境のことも自分の教科であると考え取り入れていきたい。
- 今行っている環境教育の情報更新とブラッシュアップ。
- 熱意ある先生方とつながっていきたい。熱意ある先生方の実践を参考に自分も実践を続けたい。
- 自分の授業に新たな気持ちで取組み、生徒の行動変容につながるように努力する。
- 外国につながりのある子どものエンパワメント。
- 自分の実践の場で参加型を使って先生、子どもたちと共に学ぶ。
- 自分が実践したことを発信する→広く生徒や同僚にも発信する。
- 子どもたち、先生たちに開発教育・国際理解教育の可能性と良さを伝え、実践を続けていきたい。
- この場での出会いや地元からこの研修に参加された先生仲間とのつながりをこれからも大切にしていきたい。また更にそれを広げていきたい。
- 初心を思い出し、自分自身のテーマを作って授業の中で実践したい。そして何より「次の仲間」を巻き込みたい。
- 学びの機会を見つけ、どんどん参加したい。
- 勤務校で少しでも周囲に伝え実践につなげたい。
- 今日教えてもらった実践を自分のクラスでもやってみたい。

「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- 1 人の 100 歩よりも 100 人の 1 歩。ちょっとやってみようかなという思いをつなげられる人になろう。
- 実践を続ける。やってきたことを同僚に伝える。
- 国際理解教育を引き続き子どもたちと一緒に取り組んでいく。
- 自分の働いている地区に国際理解教育や手法を広げる。（自主研修会！）
- 来年度どの学年になっても、学年にあった開発教育を考えて続けていきたい。参加型学習で！
- 職場でこの経験を話し、来年も楽しく国際理解の実践をする。誰かと授業を一緒に作る。
- 学んだ参加型手法、どんどん使っていきたい。
- 研修は終わりだがここからが始まりだ。自分が目指す教員像、育てたい子ども像をいつまでも求めていきたい。
- 始めは「ムリそうかな・・・」と思うことでも、まずは飛びこんで見る→自信になる。
- チャンスを自分から作る。教材に取り入れていく。
- 小学校低学年を持っても、国際理解の授業はできると学べたのでこの学びを続けていきたい。
- 人と交流して様々な面での広がりとつながりを作りたい。
- ワークショップなどで考えた行動宣言を時々立ち返って考えていきたい。
- 今回の学びを他分野にも活かす。
- 自分の県で研修 3 回やる！　輪を広げていく。
- カリキュラムの見直し検討と、実践授業の共有。
- 学習者主体の活動を通して、学習者の自己肯定感を上げていけるような実践を継続する。

Ⅸ 研修全体のふりかえり・評価

※修了した受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。

■ 研修への期待と満足度について

受講者の開発教育指導者研修（実践編）（以下、「指導者研修」という）に対する期待や目的は、「開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る」（85%）、「参加型学習・ファシリテーターの能力を高める」（82%）、「自らの視野や能力を研鑽する」（79%）、が上位3つとなっている【設問1】。

それらの期待や目標を持った受講者は、研修に対して「とても満足できた」（88%）、「満足できた」（9%）と回答しており、満足度の高い研修であったといえる【設問 2】。

設問 1；指導者研修に期待したこと・目標としたことは何ですか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発教育・国際理解教育の内容・手法・事例を知る	28	85%
2	参加型学習・ファシリテーターの能力を高める	27	82%
3	自らの視野や能力を研鑽する	26	79%
4	世界の現状や日本とのつながりを知る	20	61%
5	実践者同士で交流し、ネットワークを作る	18	55%
6	その他（最新の情報を知る、職場や地域への発信スキルアップ、肯定的に世界を見る目を養う）	3	9%
	全体	33	100%

設問２；指導者研修は、あなたの期待（あるいは目標達成の支援）を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	29	88%
2	満足できた	3	9%
3	ある程度満足できた	1	3%
4	あまり満足できなかった＋満足できなかった	0	0%
	全体	33	100%

■研修を受けた自分自身の意識の変化について

● 受講者の関心の高まり

受講者の大半が、受講後「より関心が高まった」（76%）、「関心が高まった」（21%）と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問3】。

設問３；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	25	76%
2	受講前はあまり関心がなかったが、受講後関心が高まった	7	21%
3	受講前から関心があり、受講後も変わりない	1	3%
4	受講前はあまり関心がなかったし、受講後も変わりない	0	0%
	全体	33	100%

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての意識化」をしたり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よく意識するようになった」と「意識するようになった」を合わせて 88%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて85%となっており、本研修は受講者自身の学びや行動に繋がったといえる【設問 4,5】。

設問４；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりを意識するようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく意識するようになった	21	64%
2	意識するようになった	8	24%
3	ある程度意識するようになった	4	12%
4	あまり意識するようにならなかった＋意識するようにならなかった	0	0%
	全体	33	100%

設問５；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	18	53%
2	考えるようになった	11	32%
3	ある程度は考えるようになった	3	9%
4	あまり考えるようにならなかった＋考えるようにならなかった	1	3%
	全体	34	100%

■ 開発教育・国際理解教育の実践について

● 実践時間

受講者の当該教育の実践時間は、「6～10 時間」と「10 時間以上」が 27%と最も多く、次いで、「3～5 時間」が 24%、「1～2 時間」が 22%となっている。平均では 7.9 時間と比較的多くの時間取り組んでいるといえる【設問 6】。

本研修受講前との機会や時間の増減では、「増加した」が 91%であり、受講者の多くが受講前よりも多い実践を行っている【設問 7】。増加した主な理由としては、本研修の学びや契機が要因になっていることがわかる【設問 8】。一方、実践時間が変わらない理由は「校内で授業実践を行える機会がほぼなかった」であった。

設問６；開発教育・国際理解教育の実践時間

No.	選択肢	回答者数	割合
1	1～2時間	7	22%
2	3～5時間	8	24%
3	6～10時間	9	27%
4	11時間以上	9	27%
	合計実践時間数	260	時間
	1人当たり平均実践時間	7.9	時間／人

設問７；本研修受講前と比べた実践時間の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	増えた	30	91%
2	変わらない	3	9%
3	減った	0	0%
	全体	33	100%

←各受講者の実践報告シートに基づく。

設問８；実践時間の増えた理由は何ですか。（主な内容）

1. 「知識・スキルの向上」～研修などを通じて新しい手法を学び、教えるスキルが向上した。
   - 応用しやすい手法をたくさん知ることができた。 - 具体的な手法がわかり実践への抵抗が減った。
   - 最新の情報や教育内容にアクセスができるようになった。
2. 「教育への意欲の向上」～教育の現場で何を伝えたいか、どう生徒を啓発したいかの意欲が高まった。
   - 自分自身が伝えたいことや考えさせたいことが増えた。 - 生徒に伝えたい内容や考え方が増えた。
   - 発表やフォーラムでの報告に向けてモチベーションが高まった。
3. 「実践の機会の増加」～具体的な手法を教わることで、授業実践への機会が得られた。
   - 今年はより多くの時数をとって、より充実した内容で実践した。
   - 総合学習を中心に学年をまたぐプログラムが組めるようになった。

● 実践内容

開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」64%、「深まった」24%、合わせて 88%の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問 9】。

深まった具体的内容としては、学習者主体の参加型の手法との出会いや考え方の理解、実際の学習者の意欲や気づきの高まりの実感、実践力の向上などが深まった要因としてあげられている【設問 10】。

設問 9；開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	21	64%
2	深まった	8	24%
3	ある程度深まった	4	12%
4	あまり深まらなかった＋深まらなかった	0	0%
	全体	33	100%

設問 10；どのようなことが深まりましたか。

（「とても深まった」と回答した意見（指導者研修のみの受講者））

◇ただ考えるだけで終わらないようになった。
◇世界の現状について、参加型学習を通して、主体的に知ることができた。
◇人権について、自分の中の偏見に気づくことができ、偏見を客観的に捉えることができるようになった。
◇参加型の手法を取り入れながら授業を進めることができているから。
◇学習者が主体的に学んだり調べたりしようとするプログラム作りの仕方ができた。
◇参加型で主体的に学べる手法を学んだため、自分も楽しく生徒に実践できるようになった。
◇学習者が参加すること、気づくことの大切さが分かったから（アクティビティを目標へ向け考えること）。

（「深まった」と回答した意見（指導者研修のみの受講者））

◇いろんな視点から物事を捉えさせるよう努めることができた。
◇深まってきたが、まだまだ知らないことがあると思うので、もっと知ってゆきたい。
◇世界の現状把握ができた。SDGs について自身の理解が深まった。
◇ワークショップ形式で自分事として考えさせる手法を学ぶことができた。
◇自分がしたいのは国際理解というよりも多様性関連のことなんだなと感じるようになった。
◇生徒の意欲が高まった。

● 参加型のスキル

指導者研修は、行動変容を支え関係性を育む「参加型」と参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割を理解し、自ら習熟することをねらいに定めて実施した。これらのねらいに対し、受講者がどの程度理解し習熟したかを 2 つの指標で評価した結果は以下のとおりである。

1 つ目の指標「気づきから行動へつながるプログラムの作成」については、「とても作れるようになった」21%、「作れるようになった」39%、「ある程度作れるようになった」39%であり、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問 11】。

2 つ目の指標「学習者主体の手法の活用」については、「とても使えるようになった」24%、「使えるようになった」39%、「ある程度作れるようになった」33%であり、プログラムの作成スキルよりも多くの受講者が学習者主体の手法の活用力が向上したといえる【設問 12】。

設問 11；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつながるプログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	7	21%
2	作れるようになった	13	39%
3	ある程度作れるようになった	13	39%
4	あまり作れるようにはならなかった＋作れるようにならなかった	0	0%
	全体	33	100%

設問 12；研修や実践を通じて、学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや参加型の手法を使えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても使えるようになった	8	24%
2	使えるようになった	13	39%
3	ある程度使えるようになった	11	33%
4	あまり使えるようにはならなかった＋使えるようにならなかった	1	3%
	全体	33	100%

プログラム作成や参加型手法の活用については、「ある程度」作れる、使えるようになったという回答が一定数あり、「あまり作れるようにならなかった」という回答もあることから、より作れるようになる、より使えるようになるために、研修で提供したらよい内容を聞いた結果が以下のとおりである【設問 13】。

設問 13；より作れるようになる、より使えるようになるために、研修でどのようなことを提供したらよいと思いますか。

（実践的体験学習～参加型プログラムを直接体験し、その過程で学ぶ）

◇自分自身が仲間と参加型プログラムに参加してみること。

◇発達段階に応じた授業例を体験する。

◇実際に作った参加型プログラムを参加者間で共有し、改善点について意見交換をする。

（教材開発と改善のプロセス～教材作りのプロセスそのものも重要な学びの場）

◇共通の材料を使って教材を開発し、比べながら学ぶ。

◇意見を出し合いながら教材の理解と改善を図る。

（継続的学習と自信の醸成～研修を通して自信を深め、継続的にスキルアップを図る）

◇まだ自信がないが、研修を通じて来年度に向けて更に自信をつけたい。

◇経験値を積むことと、常に知識やスキルをブラッシュアップしていくことの重要性を学んだ。

（カリキュラム全般への適用～教科ごとの偏りを減らし、教育の全領域にわたる授業づくりの工夫）

◇一般的には総合や社会科で用いられがちな参加型プログラムのカリキュラムを、他の教科でも適用した具体例を学ぶ。

◇もっと多くのプログラムを体験する機会を持ちたい。

■ 学習者の変化や周りへの波及効果ついて

● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」「ある程度変化があった」と合わせて受講者の 97%が学習者のより良い変化を実感することができている【設問 14】。

なお、「あまり変化はなかった」と回答した理由は、「1 時間しかできていないので、変化したかどうかの実感を持てない。」であった。

設問 14；開発教育・国際理解教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	17	52%
2	変化があった	7	21%
3	ある程度は変化があった	8	24%
4	あまり変化はなかった＋変化はなかった	1	3%
	全体	33	100%

より良い変化の中身については、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」73%、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」67%、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」55%が半数以上の回答率となっており、開発教育・国際理解教育の本筋のねらいの達成が実感されている。

また、「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」45%、「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」45%といった参加型学習の導入に伴う副次的な変化の実感があった受講者も一定以上いた。

これらのことから、受講者の実践により、「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に関し、学習者のより良い変化が現れているといえる【設問 15】。

設問 15；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	24	73%
2	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	22	67%
3	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	18	55%
4	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	15	45%
5	自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	15	45%
6	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	12	36%
7	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった	8	24%
8	自らの生き方や共生について考えるようになった	7	21%
	全体	33	100%

● 学校や団体内の他の職員への波及

所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は 97%であり、その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が 82%と一番多く、次いで「フォーラムに同僚を誘ったなど」58%、「研究発表（授業公開など）で伝えた」39%、「校内・団体内での報告会・研修会で伝えた」33%、などとなっている【設問 16】。

設問 16；所属している学校や団体内において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。（複数回答）

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日常のやりとりの中で伝えた	27	82%
2	フォーラムに同僚を誘ったなど	19	58%
3	研究発表（授業公開など）で伝えた	13	39%
4	校内・団体内での報告会・研修会で伝えた	11	33%
5	共同で教材を作成する際に伝えた	10	30%
6	どこにも伝えていない	1	3%
	全体	33	100%

周りへの波及の環境として、実践活動への所属する学校や団体の上司や同僚の理解については、「以前からある程度理解してくれており、今回より理解が進んだ」18%、「以前はあまり理解してくれていなかったが、今回理解がある程度進んだ」18%と、今回の研修を契機に理解が進んだケースが 36%あった【設問 17】。

設問 17；所属する学校や団体の上司や同僚は、あなたが行う開発教育・国際理解教育や参加型の実践活動を理解してくれていますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	以前から十分に理解してくれている	12	36%
2	以前からある程度理解してくれており、今回より理解が進んだ	6	18%
3	以前はあまり理解してくれていなかったが、今回理解がある程度進んだ	6	18%
4	以前からある程度は理解しているが、現状維持であった	5	15%
5	以前からあまり理解してくれていないし、今回もそれは変わらなかった	4	12%
	全体	33	100%

● 直接提供事業と比較した本研修による学習者への還元効果

開発教育支援の一つとして行っている「JICA が直接学習者に対して教授する国際協力出前講座、JICA 施設訪問プログラム等（直接提供事業）」に対し、本研修は、開発教育を進める中核的な指導者が養成され、研修で得た知識や能力を生かして、自らの現場で多くの学習者に対して継続的に還元することが期待されている。

研修受講者の実践実績から、直接提供事業の場合と比較した本研修による還元効果を計算すると、20.2 倍となった。また、研修受講者は、研修で得た知識や能力、自らの実践などを他の指導者に伝達しており、継続年数による効果と合わせて、さらなる還元効果も見込むことができるといえる。

◇研修受講者による延べ還元量=22,028 人・時間／年（受講者 33 人分の対象学習者数×実践時間）
◇研修投入量=研修受講者数 33 人×研修時間数 33 時間（第1回～第4回）=1,089 人・時間／年
◇還元効果（倍）=22,028 人・時間／年÷1,089 人・時間／年=**20.2 倍**

● 開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及

1年間の研修や実践を通した開発教育・国際理解教育ネットワークは、100%の受講者ができたとしている。具体的内容は、「受講者同士」97%、「学校や団体内」33%、「学校・団体外」27%となっている【設問 18】。

設問 18；1年間の研修を通じて、開発教育・国際理解教育のネットワークができましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講者同士でできた	32	97%
2	学校や団体内でできた	11	33%
3	学校・団体の外にできた	9	27%
4	できなかった	0	0%
	全体	33	100%

■ 全体を通した評価、より良くするための提案

● わたしが学んだこと

1. 参加型学習・プログラム (17 意見)
   ◇参加型プログラムで学習することの良さ（子どもたちが主体的に動く）
   ◇参加型授業のやり方、アイスブレイクの重要性、開発教育の幅の広さ
   ◇アクティビティの手法・参加型授業（プログラム）の作り方、効果
2. 自己肯定感・自己理解 (7 意見)
   ◇自分の意見が言える、聞いてもらえる場があることで、自己肯定感が高まるし、安心できるということ
   ◇自己理解の大切さ　◇セルフエスティームの重要性
3. 学習のアプローチ・手法 (6 意見)
   ◇学習者に気づかせるための手立て　◇学習者主体で授業を考える重要性
   ◇ねらい×情報×手法でアクティビティができること
4. グローバルな視点・国際理解 (5 意見)
   ◇世界の中の日本の存在　◇世界をより良くするために自分にできること　◇開発教育の大切さ
5. 継続的な学び・挑戦 (4 意見)
   ◇挑戦することの大切さ　◇まずは知ることから今後もアンテナを高く保つこと
6. 教育環境・つながり (4 意見)
   ◇安心できて対等に何でも話せる環境がよい学びを生み出す基本であること　◇仲間同士のつながり
   ◇同じ熱量をもつ仲間の大切さ　◇さまざまなつながりのおかげで自分の実践が支えられていること
7. 新しい知見・気付き (3 意見)
   ◇同じトピックでも新しい気付きがあること　◇答えは参加者の中にあるので、それをどう引き出すかが大事
8. 自己と世界の関連性 (2 意見)
   ◇自分と世界はつながっているということ　◇自分が変われば世界もその分変わるということ
9. 教材としての日常 (2 意見)
   ◇全てが教材になること　◇日常生活と世界のつながり
10. 知識の広がり・多様性 (2 意見)
   ◇色々な知識　◇世界の現状

● 開発教育指導者研修（実践編）第1回～第3回について

（良かったところ＝引き続き提供を希望する内容）

◇最新情報はありがたい。複数回受講者にとっても新しい情報を得られるのは嬉しい。

◇具体的な手法を学べた。　◇参加型の手法が学ぶことができ、とても良かった。

◇講義ではなく活動しながら覚える方法がとても良かった。

◇実際にワークショップやアイスブレイクを体験しながら学べた。

◇自分自身が体験することで授業を受ける側の視点で物事を考えることができた。

◇プログラムの体験→目的→作成と、順を追って大きな目標があり、それをさらに細分化して多様な活動が行われており、体験を通じて学ぶことができた。

◇ESD の冊子がもらえたこと。アクティビティがまとまっていて、一生の財産になった。

◇たくさんの参加型手法が学べたのがよかった。　◇たくさんのアクティビティを実際に体験できるのがとてもいい。

◇参加型の手法、アイスブレイクやプログラムの事例などを教えてもらえた。

◇展開がはやく、考える時間も短く、頭が疲れ切りましたが、その分たくさんのことを学べたと思う。そしてそのスピードに人間は順応していくのだなとも思った。

◇どれもすぐに実践したくなる内容だった。　◇実際に自分が参加しながら、多くの人と関わり合いながら学べる。

◇前年度と学習する内容は同じでも、手法を変えたプログラムで、リピーターにも新たな学びがたくさんあった。

◇アイスブレイク、セルフエスティームの重要性、わたしメッセージ・あなたメッセージ、4つの窓など

◇受講者同士のつながり　◇様々な参加者と関われた。

◇たくさんの方と交流の機会をもてたこと。アイスブレイクを通じて親しみがもてた。

◇ファシリテーターのお話を聞くと、すごく元気がもらえた。

◇ファシリテーターのお話はとても分かりやすく楽しい。この研修がとても大好きになった。

◇このまま現在のファシリテーターなどによる研修を進めていくことを願う。

（より良くするための提案や希望）

◇1 日目も午前中から始めてほしい。

◇時間は十分ありました。もう少し日程を増やして、1 回の受講時間を少し短くしてほしい。

◇第 3 回くらいに「参加型のプログラムの作り方」「アイスブレイク」「ファシリテーター」など、参加者それぞれがさらに深く学びたいグループに分かれて、学ぶような研修をやってみたい。

◇自分も開発教育とは何かわからないところがあったため、基本のところも教えていただけてよかった。

◇夏休みにプログラムについて詳細までじっくり考えておきたいので、夏休み中にプログラムを研修で作れたらいい。

◇ワークショップで使ったプリントが欲しい。

◇1～2 回あたりまではアクティビティやグループワークについていくのが大変だった。個で考える時間もとってもらえるとよい。わかりやすく提示するために致し方ないのもしれないが、先進国日本から見て発展途上国はかわいそうという構図がかなり強かった気がする。上からの人権、正義ではなく、共生といった観点から考えることも重要と思う。

◇これは私の要領が悪いだけかもしれないが、第 3 回で授業の内容を考える時間があったが、あまりにも短かった。それだけでは難しい人のためにフォローアップの会もあるが、土日追加で家をあけるのは難しい事情もあるので、決められた研修の中でもう少し考えられたら嬉しかった。

◇発達段階によって授業の組み方が変わってくると思うので、3 回目あたりでも同じ校種の先生とグループワークできたらより良かったと思う。

◇もう少し教員外の受講者もいると嬉しい。

● 開発教育指導者研修（実践編）第4回研修について

（良かった＝引き続き提供を希望する内容）

◇最初、高校の先生と共有できたことがよかった。　◇受講者同士で発表が聞き合えたところがよかった。

◇前日含め様々な人の実践が聞けたこと。

◇第4回では、受講者同士で発表する機会があり勉強になったし、本番のイメージができて良かった。

◇実践発表の練習として様々な形でアウトプットする場を作ってくれたので、自分の伝えたいことがより明確になった。

◇アイスブレイクの質問項目のまとめたものをもらえたこと。一生の財産になった。

（より良くするための提案や希望）

◇フォーラムの準備の時間がもう少しあると良かった（見出しとか全く作成していなかったので焦った。）

◇第4回など、皆が揃ったところで写真を撮りたかった（自分が最後までおれず写真に入れなかったため）。

● 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラムについて

（良かった＝引き続き提供を希望する内容）

◇外部の人が来てくれるところ　◇一般の色々な人に実践を知ってもらえた。

◇目の前で自分の発表を聞いてもらえたのが、とてもうれしかった。

◇実践報告会で参加者の発表が聞けたのがよかった。

◇様々な実践を知れたことやワークショップに参加できた。

◇自分の発表だけではなく、他の人の発表も聞けた。参加者自らワークショップを行えた。

◇他者の実践を聞ける場面は多くあるが、目の前で質問して、そのときの実践者の気持ちや背景にある気持ちまで聞ける機会はとても貴重なので印象に残っている。

◇多くの人が集まり、実践発表ができ、お互いにとって良い刺激になった。

（より良くするための提案や希望）

◇もっとたくさんの受講者の発表を見ることができないか。

◇もっと受講者同士の実践を見る時間があるといい。

◇時間的に厳しいのもあるが、もっともっと他の方の実践を聞きたかったと思う。三連休で行うのなら金午後、土曜、日曜（フォーラム）でもよかったのでは？

◇時間的にも難しいだろうが、受講者全員の発表が聞きたかった。

◇実践報告をもっと見に行きたかったという声があった。奇数偶数の２グループの分け方ではなく、３グループの分け方で一つの発表の時間を 10 分に短縮すると時間に合うだろうか。その必要があるかどうかも検討が必要。

◇研修受講者とフォーラム参加者が交流したり、つながったりする時間をもう少しあるとよい。

◇2 日連続の日程が詰め詰めでハードだったので 2 日目の最後の方は疲れ切ってしまっていた。日程の面で何か改良してもらえると最後まで集中できるように思う。

● フォーラム第2部のつながりワークショップについて

（良かった＝引き続き提供を希望する内容）

◇過年度受講者と話す機会があった。　◇過年度受講者の方とお話できて、とてもいい機会でした。

◇過年度受講者の方たちと考えを共有できたところ。　◇過年度の方と繋がる機会ができてとても良かった。
◇初めて会う人も多く、研修 1 回目の緊張感を思い出した。どうやって打ち解けたか、研修の内容を振り返りながら最後の活動を行えてよかった。
◇先輩方のその後を聞けたこと。　◇学んだことを活かす場になった。　◇繋がりが広がった。
◇情熱を捧げるところはそれぞれ違うと思うので、関心があるところに分かれて話し合ったのが良かった。

（より良くするための提案や希望）

◇過年度の受講生のみなさんがどのように実践を続けてきたか、ゆっくり聞けるといいなと思った。
◇研修後、どんなことを行っているかなど、現状を聴き合う時間があるとよい。
◇もう少し全体で過年度受講者と話す時間があったら嬉しかった。　◇過年度以外の人とも話したかった。
◇もう少しワークショップ参加者と交流できると嬉しかったです（午後の有志ワークショップでファシをやったため、他の参加者の方ともっと交流したかったと感じた）。
◇グループの人数をもう少し人数を絞ってもらえたほうが話しやすかった。
◇浅い繋がりなので、今後継続して受講することでもっと深めていきたい。
◇最後のつながりワークショップ、課題が全体的に漠然としていて、最終的に多くの課題が同じような終着になっていた印象を受けた。それまでの参加型のものとは扱ってるテーマが違うからというのもあると思うが、それまでの参加型ではいろんな学びが得られたが、つながりワークショップだけは少し疑問が残ってしまった。
◇必要な時間だった。ただ、前日、当日と含めて非常に長丁場なので、体力的にしんどかった。

● その他の自由意見・感想

◇毎回の研修で、さまざまなことを学べて、本当によい刺激になった。
◇来年度も他の教員に本研修を勧めたいと思う。
◇初めて参加して、とても楽しい時間を過ごすことができた。今までいろいろな研修を受けてきたが、毎回たくさん話して、たくさん考えて…、一番学びの多い研修だったなと感じている。参加できたよかった。
◇毎回の内容も、受講者同士のつながりも大切に進めてくれて、いつでも参加しやすい研修だった。
◇素晴らしい研修だった。また数年後に戻ってきたい。
◇JICA 海外協力隊 OB も教師海外研修に行けるようにしてほしい。教員の立場で行くと全く異なる学びがあるので。
◇北陸から参加させてもらい、感謝している。1 年間を終えて、このような学びの機会が無くなるのだと思うと寂しい気持ちである。ただただ、研修スタッフの皆さんのプロ意識の高さに感心している。
◇少し時間を空けてまた帰ってきます。ずっと応援しています。みなさま大好きです。ありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。
◇これほど熱い人たちに出会える研修は中々ないです。
◇今回のファシリテーターによるファシリテーションを実際に体験し、とても感動した。自分も、その力を身につけたいと強く思った。
◇とても学びの多い研修だった。
◇自分自身がはじめてアクティブラーニングで学び、とても楽しく理解が深まり、主体的に学ぶとはこういう事かと実感した。はじめて出会う人ばかりだったが、はじめに意見を言いやすい環境はどういうものかを考え、肯定的に出会うことの重要性を確認し合った後だったこともあり、さらにアイスブレイクがあることで打ち解けるのが早かった。学びの順番や、研修で学んだこと全てが良かった。

2023 年度 開発教育指導者研修（実践編） 報告書

発　　行　　2024 年 3 月

発 行 者　　独立行政法人国際協力機構 中部センター（ JICA 中部 ）

〒453-0872　名古屋市中村区平池町 4 丁目 60-7

Tel：052-533-0220（代表）　Fax：052-564-3751

http://www.jica.go.jp/chubu/